

古典文学基礎演習 [a]		単位数		2単位	
授業コード	30000	科目ナンバリング	230A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	東城 敏毅、近藤 友子				
時間割備考					
授業形態 (主)	2 演習				
授業形態 (副)	1 講義				
担当形態	クラス分け				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
<p>本授業は、日本古典文学を学ぶための基礎的な知識・方法を習得し、それを駆使して古典研究を行う基礎を養うことを目的とする。前半は変体仮名を読解する練習や書誌についての知識、辞典・データベースの活用方法等、古典文学作品を読み解くのに必要な知識・方法を身に付ける。後半は、前半で学んだことを定着させるため、発表者に写本・版本・古筆切を用いて翻刻・注釈・口語訳を行なってもらう演習形式の授業を行う。また、授業内で本学の図書館で資料・情報検索の練習を行う。読書の習慣を身に付けるため、読書ノートを作成・提出してもらう。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	変体仮名の知識を身に付け、写本・版本を読解できる。			知識・技能	
2	古典籍の知識を身に付け、扱うことができる。			知識・技能	
3	図書館を自在に利用し、古典研究に必要な辞典・データベースを判断し活用することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
4	口頭発表の方法を身に付け、有意義な議論を促す発言をすることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	読書ノートを作成することで読書習慣を身に付け、自身の関心事について学ぶ意欲を持つことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	口頭発表40%			1/2/3/4	
2	学期末レポート40%			1/2/3/4	
3	図書館オリエンテーション10%			3	
4	読書ノート10%			5	
5					
実務経験のある教員による授業科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
<p>15 週の内 2 コマを大学図書館での図書館利用教育等の実務経験がある教員が担当する。図書館の蔵書検索や資料探索、データベースによる情報探索などの実習を通して、大学での学びに役立つ図書館活用法の基礎を身につけてもらいたい。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1	授業オリエンテーション-古典とは何か?-, 変体仮名について				
2	変体仮名読解の練習① 字母について				
3	変体仮名読解の練習② 辞典類の基礎知識				
4	辞典類を活用する (図書館グループ演習・発表準備・方法の確認)				
5	特殊文庫見学				
6	変体仮名読解の練習③				
7	図書館オリエンテーション① (担当: 近藤)				
8	図書館オリエンテーション② (担当: 近藤)				
9	発表資料の作成と発表方法・順番について				
10	発表①				
11	発表②				
12	発表③				
13	発表④				
14	発表⑤				
15	発表⑥・授業の総括				

<p>定期試験</p> <p>レポート提出（レポートは発表内容に基づいたもの）</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>レポートの質問は随時受け付ける。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>発表には、十分に準備をした上で臨むこと。準備の段階で分からないことは、些細なことでも構わないので積極的に質問して欲しい。文献検索や変体仮名に慣れるため、発表に関係なく授業外学習もできるかぎり心がけること。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>(1) 『論文・レポートの基本』, 2012年, ISBN978-4534049278, 石黒圭, 日本実業出版社  （「基礎演習」履修者全員用）</p> <p>(2) 『字典かな 新装版』, 2003年, ISBN978-4305702609, 笠間影印叢書刊行会編, 笠間書院  （「古典文学基礎演習」履修者用）</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>授業中に適宜指示する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>東城：月曜日 4 時限  近藤：木曜日 3 時限</p>
<p>連絡先</p> <p>（東城）tojyo@m.ndsu.ac.jp  （近藤）kondot@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>・図書館オリエンテーションについて</p> <p>授業予定 7・8 回目の「図書館オリエンテーション」は、各科目のクラスごとに以下の日程で実施する。</p> <p>[a]：第 1 週目：5 月 10 日（水） 第 2 週目：5 月 17 日（水）  [b]：第 1 週目：5 月 24 日（水） 第 2 週目：5 月 31 日（水）</p> <p>なお、現段階では図書館等で実施予定であるが、状況により遠隔で実施する可能性もある。  図書館オリエンテーションについての詳細は担当教員（近藤）からmanaにて連絡を行う。</p>

古典文学基礎演習 [b]		単位数	2単位
授業コード	30010	科目ナンバリング	230A1-1000-o2
担当氏名	中井 賢一、近藤 友子		開講年度学期
時間割備考	2023年度第1期		
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義		
担当形態	オムニバス/クラス分け		
研究分野(大学院)			
本授業の概要			
<p>古典文学を学ぶための基礎的な知識と方法を習得する。前半は、課題分析のための多角的視点と、口頭発表(プレゼンテーション)・質疑応答のための基礎的作法を習得することを目標とした演習、及び、課題の分析過程や分析結果を的確に文章化することを目標とした演習を行う。途上、文献検索の手法やデータベースの利用方法についても理解を進める。後半は、主に変体仮名、くずし字の読解力向上を目標とした演習を行う。なお、前後半を通じて、読書習慣の定着を図るため、読書ノートの作成を行う。また、適宜、図書館実務経験を有する教員により、文献検索等に関する専門的演習を行う。</p>			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	変体仮名、くずし字を読解できる。	知識・技能/主体性	
2	口頭発表と質疑応答の作法を理解し、それらを適切に実践できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	様々な文献を活用した上で、自らの見解を文章にまとめることができる。	知識・技能/主体性	
4	読書習慣を確立することができる。	思考・判断・表現力/主体性	
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	口頭発表と質疑応答の内容20%	1/2	
2	変体仮名、くずし字の演習状況(含:小テスト)30%	1/2/3	
3	学期末レポート30%	3/4	
4	読書ノート・図書館オリエンテーション20%(各10%)	4	
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり。	
実務経験の授業への活用方法			
<p>15週のうち、2コマを、大学図書館での図書館利用教育等の実務経験がある教員が担当する。図書館の蔵書検索や資料検索、データベースによる情報探索などの実習を通して、大学での学びに役立つ図書館活用法の基礎を身につけてもらいたい。</p>			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<p>1 講義概要の説明  2 口頭発表(プレゼンテーション)・質疑応答の演習①  3 口頭発表(プレゼンテーション)・質疑応答の演習②  4 口頭発表(プレゼンテーション)・質疑応答の演習③  5 レポートの作成法  6 レポートの相互評価  7 図書館オリエンテーション①(図書館の活用方法:担当近藤)  8 図書館オリエンテーション②(辞書類・文献検索システム・データベース等の使用方法:担当近藤)  9 特殊文庫見学  10 変体仮名、くずし字読解演習①  11 変体仮名、くずし字読解演習②  12 変体仮名、くずし字読解演習③  13 変体仮名、くずし字読解演習④  14 変体仮名、くずし字読解演習⑤  15 まとめ</p>			

<p>定期試験</p> <p>学期末レポートを課す。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>レポートの総括コメントを公表予定。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>（予習）発表担当者は、指示を遵守しつつ発表準備に当たること。（60分） （復習）特に「変体仮名、くずし字読解演習」については、担当箇所以外についても積極的に復習しておくこと。（30分）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『論文・レポートの基本』 4534049278 石黒圭 日本実業出版社</li> <li>・『字典かな』 4305702606 笠間影印叢書刊行会編 笠間書院</li> </ul>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>授業中に指示する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>（中井）金曜日 5 時限 （近藤）木曜日 3 時限</p>
<p>連絡先</p> <p>（中井）k_nakai@m.ndsu.ac.jp （近藤）kondot@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館オリエンテーションについて</li> </ul> <p>授業予定 7・8 回目の「図書館オリエンテーション」は、各科目のクラス毎に以下の日程で実施する。</p> <p>[a] 第1週目：5月10日（水） 第2週目：5月17日（水） [b] 第1週目：5月24日（水） 第2週目：5月31日（水）</p> <p>なお、現段階では図書館等で実施予定であるが、状況により遠隔授業で実施する可能性もある。 図書館オリエンテーションについての詳細は、担当教員（近藤）からmanabaiにて連絡を行う。</p>

近代文学基礎演習 [a]		単位数	2単位
授業コード	30100	科目ナンバリング	230A1-1000-o2
担当氏名	長原 しのぶ、近藤 友子		開講年度学期
時間割備考	2023年度第1期		
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義		
担当形態	オムニバス/クラス分け		
研究分野(大学院)			
本授業の概要			
<p>日本語日本文学科における近代文学の基礎知識を習得しながら、大学における研究方法を学び、演習形態の授業において自らの研究を口頭発表できレポートにまとめることができるようになる。</p> <p>また、本学図書館を有効に利用できるよう、基本的な知識を習得し、その後図書館で資料・情報検索を実践することによって研究のための必要な調査ができるようになる。</p> <p>さらに、読書の習慣を身につけ各作品の読みが多角的な文学研究へと結びつけられるように総合的な判断力を身につける。</p>			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	近代文学に親しみ、図書館を自在に利用でき、調査したことを研究に取り入れることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	読書領域を広げ、多角的な文学研究を実践することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	口頭発表の仕方やレポートの書き方の基礎を身に付けることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	図書館オリエンテーション：10%	1	
2	読書ノート：10%	2	
3	2回の口頭発表：40%	1/2/3	
4	期末レポート提出：40%	1/2/3	
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
15週の内2コマを大学図書館での図書館利用教育等の実務経験がある教員が担当する。図書館の蔵書検索や資料探索、データベースによる情報探索などの実習を通して、大学での学びに役立つ図書館活用法の基礎を身につけてもらいたい。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インタロダクション</li> <li>2. 近代文学における読書のすすめ・読書ノートについて</li> <li>3. 作品研究と作家研究について</li> <li>4. 旧漢字について（昭和初期の文献を読む）</li> <li>5. 作品論・さまざまな分析方法の紹介</li> <li>6. 作品論の実践（レジュメ作成・口頭発表についての指導と準備）</li> <li>7. 図書館オリエンテーション①</li> <li>8. 図書館オリエンテーション②</li> <li>9. 「坪田譲治コレクション」見学事前学習の発表（1）</li> <li>10. 「坪田譲治コレクション」見学事前学習の発表（2）</li> <li>11. 「坪田譲治コレクション」見学</li> <li>12. 作品論発表（1）</li> <li>13. 作品論発表（2）</li> <li>14. 作品論発表（3）</li> <li>15. 作品論発表（4）・レポート作成指導</li> </ol> <p>試験（レポート）  ※2回にわたって、図書館オリエンテーションを行う。  ※資料館の見学（大学図書館）を行う。</p>			

<p><b>定期試験</b> 学期末にレポートを提出する。</p>
<p><b>試験のフィードバックの方法</b> 必要に応じて個人的にフィードバックする。</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 1人につき2回の口頭発表を行うので、充実したレジュメ作成のための考察がしっかりできるように、発表レジュメ提出日が示されたら充分な時間を取り準備すること。（6時間） 他者の発表レジュメが配布されたら、発表者以外はレジュメを読み質問を用意するための予習をすること。一方自分の発表後はその発表時に受けたアドバイスをもとに修正を加え、復習をするなど、それぞれ1時間の予習・復習をすること。（2時間）</p>
<p><b>必携書（教科書販売）</b> &lt;必携書&gt; 『論文・レポートの基本』, 2012年, ISBN978-4-534-04927-8, 石黒圭, 日本実業出版社</p>
<p><b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 授業内で適宜資料プリントを配布する。</p>
<p><b>オフィスアワー</b> (長原) 水曜3時限 (近藤) 木曜3時限</p>
<p><b>連絡先</b> (長原) nagahara@m.ndsu.ac.jp (近藤) kondot@m.ndsu.ac.jp</p>
<p><b>留意事項</b> ・図書館オリエンテーションについて 授業予定7・8回目の「図書館オリエンテーション」は、各科目のクラスごとに以下の日程で実施する。 [a] : 第1週目: 5月10日(水) 第2週目: 5月17日(水) [b] : 第1週目: 5月24日(水) 第2週目: 5月31日(水) なお、現段階では図書館等で実施予定であるが、状況により遠隔授業で実施する可能性もある。 図書館オリエンテーションについての詳細は担当教員(近藤)からマナバにて連絡を行う。</p>

近代文学基礎演習 [b]		単位数	2単位
授業コード	30110	科目ナンバリング	230A1-1000-o2
担当氏名	山根 知子、近藤 友子		
時間割備考			
授業形態 (主)	2 演習		
授業形態 (副)			
担当形態	オムニバス/クラス分け		
研究分野 (大学院)			
本授業の概要			
日本語日本文学科における近代文学の基礎知識を習得しながら、大学における研究方法を学び、演習形態の授業において自らの研究を口頭発表でき論文にまとめることができるようになる。 また、本学図書館を有効に利用できるよう、基本的な知識を習得し、その後図書館で資料・情報検索を実践することによって研究のための必要な調査ができるようになる。 さらに、読書の習慣を身につけ各作品の読みが多角的な文学研究へと結びつけられるように総合的な判断力を身につける。			
アクティブラーニングの実施内容		体験学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	近代文学に親しみ図書館を自在に利用でき、調査したことを研究に取り入れることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	読書領域を広げ、多角的に文学研究を実践することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	口頭発表の仕方と論文の書き方の基礎を身につけることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	図書館オリエンテーション：10%	1	
2	読書ノート：10%	2	
3	2回の口頭発表：40%	1/2/3	
4	期末提出論文：40%	1/2/3	
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
15週の内2コマを大学図書館での図書館利用教育等の実務経験がある教員が担当する。図書館の蔵書検索や資料探索、データベースによる情報探索などの実習を通して、大学での学びに役立つ図書館活用法の基礎を身につけてもらいたい。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1 インTRODクション (7, 8以外の担当教員：山根)			
2 近代文学における読書のすすめ・読書ノートの説明 本の探究の仕方について			
3 旧漢字について (漢和辞典を持参)			
4 明治・大正期の文献を読む			
5 「坪田譲治コレクション」見学事前学習の発表 (1)			
6 「坪田譲治コレクション」見学事前学習の発表 (2)			
7 図書館オリエンテーション① (担当教員：近藤)			
8 図書館オリエンテーション② (担当教員：近藤)			
9 「坪田譲治コレクション」見学			
10 作品論・さまざまな分析方法の紹介			
11 作品論の実践 レジューメ作成・口頭発表についての指導・準備			
12 作品論発表 (1)			
13 作品論発表 (2)			
14 作品論発表 (3)			
15 論文作成指導			

定期試験 論文提出
試験のフィードバックの方法 授業中のコメントのほか、必要に応じて個人的にフィードバックする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・一人につき2回の口頭発表を行うので、それぞれのレジュメ作成の準備期間に、充実したレジュメ作成のための考察がしっかりとできるように、発表レジュメ提出日が示されたら、数週間の時間をとり準備すること。 ・他者の発表レジュメが配布されたら、発表者以外は、レジュメを読み質問を用意するための予習をし、一方自分の発表後はその発表時に受けたアドバイスにより修整を加える復習をするなど、それぞれ約1時間の予習・復習をすること。
必携書（教科書販売） 石黒圭『論文・レポートの基本』（日本実業出版社）
必携書・参考書（教科書販売以外） 『漢和辞典』（高等学校で使用したもの）
オフィスアワー 【山根】水曜日5時限。随時メールでの質問にも応じる。 【近藤】木曜日3時限。
連絡先 (山根) t-yamane@m.ndsu.ac.jp (近藤) kondot@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・図書館オリエンテーションについて 授業予定7・8回目の「図書館オリエンテーション」は、各科目のクラスごとに以下の日程で実施する。 [a] : 第1週目: 5月10日(水) 第2週目: 5月17日(水) [b] : 第1週目: 5月24日(水) 第2週目: 5月31日(水) なお、現段階では図書館等で実施予定であるが、状況により遠隔で実施する可能性もある。 図書館オリエンテーションについての詳細は担当教員(近藤)からマナバにて連絡を行う。



日本語学基礎演習 [a]				単位数	2単位
授業コード	30210	科目ナンバリング	230A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	尾崎 喜光、近藤 友子				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	オムニバス/クラス分け				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>「言語について考察する」ということを、具体的課題に即して実践してみる。</p> <p>辞書的な意味が同じ複数の表現が、地域差や年齢差、場面差等を伴いながら用いられることがある。たとえば、田中さんという知らない人から家族に電話がかかってきて、それを家族に伝えるとき、「田中とゆう人から電話!」という言い方と「田中ゆう人から電話!」という言い方が岡山にはある。引用の「と」と言われる助詞を付けるか付けないかの違いである。もっとも、岡山県民だからといって全員が「と」を省略した言い方をしているわけではなく、「と」を省略しない人もいと推測される。また、「と」を省略するか否かは、話をする場の改まりの度合いによっても違うかもしれない。さらに、話し言葉か書き言葉かによっても違うかもしれない。</p> <p>この基礎演習では、こうした引用の「と」を付加するか否かを研究対象とし、話し言葉における使用状況が現在どのようになっているのかについて(特に岡山で)、先行研究に関する文献調査も行いつつ、共同研究によりその一端を明らかにする。</p> <p>履修者は、こうした方言的特徴に関する知識を修得するとともに、調査の企画・実施(フィールドワーク)、データの蓄積・分析、発表・討論を通じて日本語の研究法を体験的に修得する。三班に分かれてのグループ活動を一部行う。また、分析結果を最後にレポートとしてまとめる力を修得する。</p> <p>レポート作成の基礎力を養うため、日本語に関する任意の図書を読んだの読書ノートの作成も行う。この作成作業および指導教員が付けるコメントを熟読することにより、論理的かつレポートらしい文体による文章作成力を修得する。</p>					
アクティブラーニングの実施内容	調査学習				
到達目標					対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	研究課題が理解できる。				思考・判断・表現力
2	文献や先行研究の探し方が理解できる。				知識・技能
3	先行研究を読みレジュメとしてまとめて発表できる。 得られたデータを蓄積し分析できる。 分析結果をレポートとしてまとめることができる。 論理的かつレポートらしい文体による文章を書くことができる。				知識・技能/思考・判断・表現力
4	グループ活動を通して調査が企画できる。 調査(フィールドワーク)が実施できる。				思考・判断・表現力/主体性
5	分析結果の発表ができる。				主体性
成績評価の基準					対応する到達目標の番号
1	授業への参加姿勢(出席): 10%				1/2/3/4
2	授業への参加姿勢(調査の企画・実施・データ化・分析・発表・討論): 30%				3/4
3	分析レポート: 40%				3
4	読書ノート作成(4回): 10%				3
5	図書館オリエンテーション: 10%(図書館担当教員分)				2
実務経験のある教員による授業科目			実務あり。		
実務経験の授業への活用方法					
15週の内2コマを大学図書館での図書館利用教育等の実務経験がある教員が担当する。図書館の蔵書検索や資料検索、データベースによる情報探索などの実習を通して、大学での学びに役立つ図書館活用法の基礎を身につけてもらいたい。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>第1回 ガイダンス、履修者の自己紹介、班分け</p> <p>第2回 先行研究の紹介、先行研究の探し方(1)</p> <p>第3回 先行研究の探し方(2)-図書館にて-</p> <p>第4回 エクセルによるデータ入力と分析方法</p> <p>第5回 各班による研究計画についての検討</p> <p>第6回 各班による研究計画についての報告</p> <p>第7回 図書館オリエンテーション(1)</p> <p>第8回 図書館オリエンテーション(2)</p> <p>第9回 先行研究調査班の報告(1)</p> <p>第10回 先行研究調査班の報告(2)</p> <p>第11回 話し言葉調査班の中間報告</p> <p>第12回 先行研究調査班の報告(3)</p> <p>第13回 話し言葉調査班の報告(1)</p> <p>第14回 話し言葉調査班の報告(2)</p> <p>第15回 話し言葉調査班の報告(3)、全体のまとめ</p> <p>* 第5回・第6回は図書館オリエンテーションを予定する。確定した日時等については授業開講後に連絡する。</p>					

<p><b>定期試験</b> レポート提出。レポートは8月上旬頃までに完成させて提出。締切日は授業の中で示す。</p>
<p><b>試験のフィードバックの方法</b> 研究室にて個別に伝える。</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 積み上げ式の授業であるため、その日の授業の復習が次回の授業の予習にもなる。おおむね30分。</p>
<p><b>必携書（教科書販売）</b> 石黒圭著『論文・レポートの基本』（日本実業出版社）</p>
<p><b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> なし。</p>
<p><b>オフィスアワー</b> 【尾崎】水曜日2時限。事前予約の上来てほしい。 【近藤】木曜日3時限。</p>
<p><b>連絡先</b> 尾崎：yozaki@post.ndsu.ac.jp 近藤：kondot@m.ndsu.ac.jp</p>
<p><b>留意事項</b> 共同研究の形で授業を進めるので、足並みをそろえるため極力休まないこと。 USBメモリーを第4回以降の授業に持ってくること。メーカーや容量は問わない。 分析ではパソコン（Windows）を使用する。大学の共用のPCも使えるが、現代における“筆記用具”と言えるので、個人用も使える環境を徐々に整えておくことが望ましい。 尾崎の担当回については、遅刻時間の長短にかかわらず、遅刻2回で欠席1回とみなす。ただし、公共交通機関の遅延など本人の責めに帰ることができない理由による遅刻は、遅延証明書添付でその旨の申告があった場合に限り遅刻扱いにしない。  ・図書館オリエンテーションについて 授業予定7・8回目の「図書館オリエンテーション」は、各科目のクラスごとに以下の日程で実施する。 [a]：第1週目：5月10日（水） 第2週目：5月17日（水） [b]：第1週目：5月24日（水） 第2週目：5月31日（水） なお、現段階では図書館等で実施予定であるが、状況により遠隔で実施する可能性もある。 図書館オリエンテーションについての詳細は担当教員（近藤）からマナバにて連絡を行う。</p>

日本語学基礎演習 [b]				単位数	2単位
授業コード	30220	科目ナンバリング	230A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	星野 佳之、近藤 友子				
時間割備考					
授業形態 (主)	2 演習				
授業形態 (副)					
担当形態	オムニバス/クラス分け				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
「言語について考察する」ということを、具体的課題に即して実践してみる。 考察内容は、「類義語の意味の違いと共通点」。					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本語学的な問題の捉え方や考察のしかたを身につける。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	発表・レポートの方法を、実践を通じて身につけること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	読書レポートを作成すること。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の発言に、40点を配当する。			1/2/3	
2	授業中の課題に、10点を配当する。			1/2/3	
3	期末レポートに30点を配当する。			1/2/3	
4	読書レポートに10点を配当する。			1/2/3	
5	図書館オリエンテーション課題 10%			1/2/3	
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
15週の内2コマを大学図書館での図書館利用教育等の実務経験がある教員が担当する。図書館の蔵書検索や資料探索、データベースによる情報探索などの実習を通して、大学での学びに役立つ図書館活用法の基礎を身につけてもらいたい。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 授業の概要を説明する。具体例を挙げて、発表のしかたを説明する（「あらしい」と「きらしい」の予定）。発表の分担を決める。					
第2回 具体例を挙げて、発表のしかたを説明する（「きれいな」と「うつくしい」の予定）。					
第3回 具体例を挙げて、発表のしかたを説明する（「さける」と「よける」の予定）。また、口頭発表・レポートについて説明する。					
第4回 全員で語彙の記述					
第5回 全員で語彙の記述					
第6回 全員で語彙の記述					
第7回 図書館オリエンテーション1 (近藤)					
第8回 " 2 (近藤)					
第9回 全員で語彙の記述					
第10回 全員で語彙の記述					
第11回 全員で語彙の記述					
第12回 全員で語彙の記述					
第13回 全員で語彙の記述					
第14回 全員で語彙の記述					
第15回 まとめ					
※ 具体的な内容については、初回の授業で説明する。					
※ 図書館オリエンテーションの実施時期は前後する事がある。具体的な実施時期については、初回到伝達する。					

<p>定期試験 定期試験として、期末レポートを課す。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 適宜。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回、テーマとなっている語を各自考察した上で授業に臨むこと。</p>
<p>必携書（教科書販売） &lt;必携書&gt; 『この一冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』，石黒圭，日本実業出版社 『出星前夜』，飯嶋和一，小学館</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p>
<p>オフィスアワー 【星野】 火曜3限。質問等で面会を希望する場合は、下記のメールアドレスにてアポイントをとること。  【近藤】 火曜3限。</p>
<p>連絡先 【星野】 hoshino_yoshiyuki@m.ndsu.ac.jp  【近藤】 kondot@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ●図書館オリエンテーションについて 授業予定7・8回目の「図書館オリエンテーション」は、各科目のクラスごとに以下の日程で実施する。 [a]：第1週目：5月10日（水） 第2週目：5月17日（水） [b]：第1週目：5月24日（水） 第2週目：5月31日（水） なお、現段階では図書館等で実施予定であるが、状況により遠隔で実施する可能性もある。 図書館オリエンテーションについての詳細は担当教員（近藤）からマナバにて連絡を行う。  ●演習形態の授業であるので、積極的な参加姿勢が求められる。  ●授業に関する連絡をマナバフォリオを通じて行う場合がある。また、読書レポートの提出をマナバフォリオを通じて行う。よって、受講生は必ず、初回までにNサポとマナバフォリオのリマインダー機能を使用可能な状況にしておくこと。</p>

古典文学入門		単位数	2単位
授業コード	30260	科目ナンバリング	230A1-1000-o2
開講年度学期	2023年度第1期		
担当者氏名	江草 弥由起		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)			
本授業の概要			
本授業は、大学から古典文学を学びたいと考えている学生が、古典作品を読む力を養うことを目的とする。高校で古典を学ばなかった学生にも理解できるよう、古典文法や古典常識、漢文の訓読方法を確かめながら、作品の読解していく。また、古典文学の原典に触れられるよう、変体仮名の読解演習も行う。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	古典文法の基礎をふまえ、古典を読解することができる。	知識・技能	
2	古典の表現方法や技法について説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
3	変体仮名の成り立ちや読み方を説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	小課題 (30%)	1/2/3/4	
2	小テスト (20%)	1/2/3	
3	期末試験 (50%)	1/2/3/4	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1 授業オリエンテーション 古典文法の復習①			
2 物語を読む 『竹取物語』古典文法の復習②			
3 歌物語を読む 『伊勢物語』古典文法の復習③			
4 和歌を読む 『古今和歌集』古典文法の復習④			
5 日記を読む 『蜻蛉日記』古典文法の復習⑤			
6 漢詩を読む 『和漢朗詠集』漢文訓読の復習①			
7 漢文を読む 『小右記』漢文訓読の復習②			
8 小テスト 前半内容の復習			
9 説話を読む 『宇治拾遺物語』古典文法の復習⑥			
10 軍記を読む 『平家物語』古典文法の復習⑦			
11 随筆を読む 『徒然草』古典文法の復習⑧			
12 紀行文を読む 『十六夜日記』古典文法の復習⑨			
13 漢詩を読む 『長恨歌』漢文訓読の復習③			
14 漢文を読む 『明月記』漢文訓読の復習④			
15 後半内容の復習 期末試験について			

<b>定期試験</b> 期末試験はmanabaレポート機能を用いて実施する。レジュメ・ノートの利用可。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 模範解答をmanabaにて一定期間公開する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> [予習] 大学入学前に学んだことを振り返ったり、授業で予告された古典作品について調べたりしておく。（約30分） [復習] 授業で学んだ内容を復習し、小課題に取り組む。関心を持った作品について、大学図書館を利用して調べ学習をする。（約30分）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 授業中で適宜指示する。
<b>オフィスアワー</b> 金曜2限
<b>連絡先</b> miyuki.egs@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

日本語学概論 I				単位数	2単位
授業コード	30300	科目ナンバリング	230A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	尾崎 喜光				
時間割備考					
授業形態 (主)	1 講義				
授業形態 (副)					
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
本授業では、言語の中核的要素の一つである「音声」について取り上げ、日本語音声の基本的特徴を概説する。すなわち「日本語音声学概論」を講義内容とする。共通語の音声を中心に解説するが、方言の音声や外国人の日本語音声についても言及する。履修者は、日本語音声に関する知識ならびに音声認知力と音声実現力を修得する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本語の音声の基本的特徴について説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	日本語の類似した音声についての判別 (聞き分け) ができる。			知識・技能/主体性	
3	指示された音声が発音できる。			知識・技能/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への参加姿勢 (出席) : 10%			1/2/3	
2	毎授業後に行なう小テスト : 20%			1/2	
3	期末試験 : 70%			1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 ガイダンス、日本語の音声を学ぶ必要性、言語研究の中での音声学の位置づけ					
第2回 3つの音声学、言葉を“分解する”					
第3回 音節と拍					
第4回 外国人にとっての拍の難しさ					
第5回 音声器官の名称と働き-母音と子音を作る場所-					
第6回 「基本母音」と日本語の母音					
第7回 IPA (国際音声記号) の母音の表					
第8回 日本語の子音 (1) -破裂音-					
第9回 日本語の子音 (2) -鼻音-					
第10回 日本語の子音 (3) -鼻音(続) : 撥音-					
第11回 日本語の子音 (4) -摩擦音・破擦音・その他-					
第12回 母音の無声化-「北」のキの発音-					
第13回 日本語の子音の整理					
第14回 日本語 (共通語) のアクセント					
第15回 方言のアクセント、イントネーションとプロミネンス					

定期試験 期末試験
試験のフィードバックの方法 研究室にて個別に伝える。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 積み上げ式の授業であるため、その日の授業の復習が次回の授業の予習にもなる。おおむね1時間。
必携書（教科書販売） 斎藤純男『日本語音声学入門 改定版』（三省堂）定価2,000円＋税
必携書・参考書（教科書販売以外） なし。
オフィスアワー 水曜日2限。事前予約の上来てほしい。
連絡先 yozaki@post.ndsu.ac.jp
留意事項 授業では必携書を使うが、必要に応じて参照するための参考資料として用いるにとどめ（ただし毎回持ってくる）、基本的には毎回配布する資料により授業を進める。 受講者数が多いため、授業は情報伝達にウェイトを置く講義形式により進める。そのため、インタラクティブな場面は少ないが、少し立ち止まって自分の発音を内省・観察したり、音声を聞き分ける時間を随所に挟む。 毎回授業の最後に、その回の確認テスト（小テスト）を行なう。 遅刻時間の長短にかかわらず、遅刻2回で欠席1回とみなす。ただし、公共交通機関の遅延など本人の責めに帰することができない理由による遅刻は、遅延証明書添付でその旨の申告があった場合に限り遅刻扱いにしない。



日本文学概論 I				単位数	2単位
授業コード	30400	科目ナンバリング	230A1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第 1 期
担当者氏名	中井 賢一				
時間割備考					
授業形態 (主)	1 講義				
授業形態 (副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
日本古代文学の発生から成熟に至る過程について、政治的観点、及び、文化的観点から検証する。和歌と物語に焦点を絞り、文学現象の発展・深化と社会的背景との密接な関わりについて明らかにしたい。なお、適宜、作品解釈等について分担し、調査・発表を行うものとする。					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	古代文学の発生と発展に関する基礎的内容について理解することができる。			知識・技能/主体性	
2	古代文学と政治との関わり、及び、古代文学と他の文化現象との関わりについて理解することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	到達目標 1・2 について、それらに対する自らの見解を適切に表現できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	復習シート10%			1/2	
2	調査・発表20%			2/3	
3	学期末レポート60%			1/2/3	
4	口頭試問10%			1/2/3	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 講義概要の説明-文学と政治・文学と諸文化-					
2 文学と政治①-神話と記載文学-					
3 文学と政治②-記紀歌謡と万葉集-					
4 文学と政治③-国風暗黒時代と国風文化-					
5 文学と政治④-公的文学としての和歌-					
6 文学と政治⑤-物語と権力 1-					
7 文学と政治⑥-物語と権力 2-・前半まとめ					
8 文学と諸文化①-和歌の技法-					
9 文学と諸文化②-和歌を詠むことと詠まないこと-					
10 文学と諸文化③-和歌と歌合 1-					
11 文学と諸文化④-和歌と歌合 2-					
12 文学と諸文化⑤-物語と絵 1-					
13 文学と諸文化⑥-物語と絵 2-					
14 文学と諸文化⑦-物語から文化を読み取ることの功罪-・後半まとめ					
15 まとめ					

<b>定期試験</b> 学期末レポートを課す。
<b>試験のフィードバックの方法</b> レポートの総括コメントを公表予定。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> （予習）授業で扱う作品について、あらずじと文学史上の意義を整理しておくこと。また、調査・発表担当者は、指示を遵守しつつ発表準備に当たること。（60分） （復習）復習シートに必要事項を記入の上、提出すること。（20分）
<b>必携書（教科書販売）</b> 『日本古典文学史』 4870155152 乾安代ら編 暁印書館
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> （参考書）諸作品のあらずじ整理に、角川ソフィア文庫の当該作品などを、ひとまず薦めておく。その他、授業中に指示する。
<b>オフィスアワー</b> 金曜日5時限
<b>連絡先</b> k_nakai@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

日本語史Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	30500	科目ナンバリング	230A1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	星野 佳之				
時間割備考					
授業形態(主)	1講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
日本語の変遷について説明する。音韻・語彙などの領域別の日本語の歴史を把握し、日本語全体の歴史の大まかな流れを再確認する。主に、系統論、書記史、文法史について説明する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	「言語が変化する」とはどのようなことか、具体的にイメージできるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	またそれを各時代の資料からどのように再構成するのか、その方法について理解を及ぼす。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	第6回、第11回の小テストに40点を配当する。			1/2	
2	定期試験に60点を配当する。			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回	言語の系統				
第2回	日本語の起源				
第3回	文字以前から表記の獲得まで				
第4回	古事記の達成				
第5回	万葉仮名の時代				
第6回	木簡の教えること / 小テスト1				
第7回	仮名の誕生と発達				
第8回	仮名遣いの誕生				
第9回	「定家仮名遣い」について 各論3				
第10回	文体(1)-口頭語と書記言語の分離				
第11回	文体(2)-言文一致 / 小テスト2				
第12回	文法史(1)				
第13回	文法史(2)				
第14回	文法史(3)				
第15回	まとめ				

<b>定期試験</b> 定期試験として、教場筆記試験を行う。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 各試験の終了後、模範解答の説明を行う予定。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 必要な内容について各自判断し、必要十分に行うこと。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> <必携書> 授業中使用するプリントの配布はマナバフォリオを通じて行う。 プリントの掲載があった場合は、次回までに各自ダウンロードして講義に臨むこと。
<b>オフィスアワー</b> 火曜3限。 質問等で面会を希望する場合は、下記のメールアドレスにてアポイントをとること。
<b>連絡先</b> hoshino_yoshiyuki@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> ●授業の出席が総回数 $\frac{2}{3}$ に満たない場合、学則第45条6「授業への出席が当該授業科目の総授業時間の $\frac{3}{2}$ に満たない者は、単位を認定しない。」により、単位を認定しない。 ●受講生は必ず、初回までにNサポとマナバフォリオのリマインダー機能を使用可能な状況にしておくこと。

日本文学史Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	30600	科目ナンバリング	230A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	東城 敏毅				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>本授業では、歴史的・社会的な背景に焦点を当てつつ、日本文学の流れについて学ぶ。日本文学史Ⅰでは、上代(飛鳥・奈良)から中古(平安)・中世(平安末・鎌倉・室町)に至るまでの文学の歴史を概観する。授業内では、時代を特徴づける一つの作品に焦点をあて、作品と歴史的背景との関係性を詳細に検討することにより、文学史の動態を具体的に把握することを目的とする。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	上代・中古・中世の日本文学史の動態を理解し、説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	上代・中古・中世の日本文学の特徴と方法を理解し、説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	時代背景や価値観と文学作品との関係を理解し、説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	レスポンスカード60%			1/2/3	
2	学期末レポート40%			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス：「文」学とは何か？ 文学史の必要性</li> <li>上代(1) 神話の世界：『古事記』神話と世界の神話</li> <li>上代(2) 神話の世界：『黄泉の国』神話を読む</li> <li>上代(3) 『万葉集』の歴史的背景：「訓む」ことと「読む」こと</li> <li>上代(4) 『万葉集』の歌世界：天平時代のバンデミック(「遣新羅使歌群」)</li> <li>中古(1) 『伊勢物語』の歌物語①：虚構の様式としての『伊勢物語』と和歌との関係</li> <li>中古(2) 『伊勢物語』の歌物語②：『伊勢物語』の作者を大胆に推測する</li> <li>中古(3) 『枕草子』の世界①：清少納言と中宮定子の時代</li> <li>中古(4) 『枕草子』の世界②：初段「春はあけぼの」の意義</li> <li>中古(5) 『源氏物語』の世界①：『源氏物語』の世界観と世界文学としての「源氏」</li> <li>中古(6) 『源氏物語』の世界②：『源氏物語』「若紫」の意味すること</li> <li>レポート・論文とは？：大学におけるレポートの書き方 * (石黒圭『論文・レポートの基本』参照)</li> <li>中世(1) 『新古今和歌集』の世界①：後鳥羽院の時代</li> <li>中世(2) 『新古今和歌集』の世界②：一番歌・二番歌から考える後鳥羽院の「憶い」</li> <li>中世(3) 『百人一首』の世界：桜と紅葉の交錯</li> </ol>					

<b>定期試験</b>
レポート提出
<b>試験のフィードバックの方法</b>
レポートについて随時質問を受け付ける。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b>
授業中に様々な作品を紹介するが、一つ一つを時間をかけて読み込むことは、授業の性質上難しい。文学研究の原点は「読む」ことにある。興味をもった作品は図書館等で探し、積極的に読んでほしい。また授業後にレスポンスカードを課し、授業内容の質問・問い・意見等を求める。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<必携書> 秋山虔・三好行雄編『新日本文学史 増補版』（文英堂 2016年）ISBN：978-4578271925-5 * 第2期の「日本文学史Ⅱ」でも使用する。
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b>
<参考書等> 授業中に指示する。 なお、教材としてレジユメを随時配布する。
<b>オフィスアワー</b>
オフィスアワー：月曜日4時限 また質問等はメール等でも随時受け付ける。
<b>連絡先</b>
tojyo@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>
「日本文学史Ⅱ」を履修することが望ましい。

日本語音声学 I				単位数	2単位
授業コード	30700	科目ナンバリング	230A1-2000-o2	開講年度学期	2023年度第 1 期
担当者氏名	中東 靖恵				
時間割備考					
授業形態 (主)	1 講義				
授業形態 (副)					
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
日本語にはどのような音があり、それらの音がどのように発音されるのかを実践的に学ぶとともに、各地方言音声の特徴、歴史的変遷、外国語との対照、日本語学習者の音声の実態など、日本語音声の特徴と多様性について、社会言語学や日本語教育学の観点から、観察・分析する力を身につける。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本語の音声・音韻の特徴や、その多様性を説明できる。			知識・技能	
2	日本語音声学・音韻論の基礎的知識を身につけることにより、日本語教育や外国語教育に応用できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	日本語の音声・音韻の特徴と多様性について、日本語学習者の日本語習得の視点から観察・分析できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業に対するコメント・質問 (40%)			1/2	
2	期末レポート (60%)			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音声とは何か：音声学の研究対象、音声生成のしくみ</li> <li>2. 音声学の領域：音声学の3分野、IPA</li> <li>3. 母音 (1)：世界の言語の母音、基本母音</li> <li>4. 母音 (2)：母音の多様性、日本語の母音体系</li> <li>5. 母音 (3)：各地方言の母音</li> <li>6. 子音 (1)：世界の言語の子音、子音の多様性</li> <li>7. 子音 (2)：日本語の子音体系、各地方言の子音</li> <li>8. 子音 (3)：カ行・ガ行の子音</li> <li>9. 子音 (4)：サ行・ザ行の子音</li> <li>10. 子音 (5)：タ行・ダ行の子音</li> <li>11. 子音 (6)：ハ行・バ行・パ行の子音</li> <li>12. 子音 (7)：ナ行・マ行・ヤ行・ワ行・ラ行の子音</li> <li>13. 子音 (8)：拗音およびモーラ音素</li> <li>14. 日本語の音韻体系</li> <li>15. 五十音図の配列</li> </ol>					

<p><b>定期試験</b> 最終授業日後に期末レポートを提出する。</p>
<p><b>試験のフィードバックの方法</b> レポートに対するフィードバックは個別に行う。</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 毎回の授業で、授業内容に関する参考図書、参考論文を紹介するので興味のある内容に関してそれを参考に理解を深める（1時間）。 問題意識を持って多様な場面・話者における日本語音声の観察をする（30分）。</p>
<p><b>必携書（教科書販売）</b> &lt;必携書&gt; 鹿島 央（2002）『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学（CD付）』スリーエーネットワーク（ISBN:978-4883192311）</p>
<p><b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> &lt;参考書等&gt; 斎藤純男（2006）『日本語音声学入門 改訂版』三省堂 窪園晴夫（1999）『日本語の音声』岩波書店</p>
<p><b>オフィスアワー</b> 質問は随時受け付けます。メールで連絡をしてください。</p>
<p><b>連絡先</b> s8075@m.ndsu.ac.jp あるいは yasue@cc.okayama-u.ac.jp</p>
<p><b>留意事項</b> 「日本語音声学Ⅱ」も併せて履修して欲しい。</p>



日本語文法論 I				単位数	2単位
授業コード	30800	科目ナンバリング	230A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第 1 期
担当者氏名	星野 佳之				
時間割備考					
授業形態 (主)	1 講義				
授業形態 (副)					
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
日本語の文法について、概説する (現代語)。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	文法とは言語のどういう範疇であるかを理解する。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	今まで学習してきた文法体系 (いわゆる学校文法) を相対化する目を養う。 日本語の文法をどう把握すべきか、大まかなりとも各自のイメージを持ってもらいたい。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	第6回、第10回の小テストに40点を配当する。			1/2	
2	定期試験に60点を配当する。			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回	イントロダクション 「文法を考える」ということ				
第2回	「品詞」とは何か				
第3回	連用機能、連用形、連用副詞				
第4回	連体機能、連体形、連体副詞				
第5回	「用言」とは何か				
第6回	「助動詞」とは何か / 小テスト1				
第7回	助動詞 各論1				
第8回	助動詞 各論2				
第9回	助動詞 各論3				
第10回	「格」について / 小テスト2				
第11回	「格」関係と「副助詞」				
第12回	連用副詞といわゆる「陳述副詞」				
第13回	副詞の層と述語層の対応関係				
第14回	いわゆる「感動詞」について				
第15回	まとめ				

<p>定期試験</p> <p>定期試験として、教場筆記試験を行う。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>各試験の終了後、模範解答を解説する予定。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>必要な内容について各自判断し、必要十分に行うこと。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>&lt;参考書等&gt;</p> <p>高校までに使っていた文法教材類を持参すること。持っていない場合は購入すること（任意のものでよい）。</p> <p>授業中使用するプリントの配布はマナパフォリオを通じて行う。</p> <p>プリントの掲載があった場合は、次回までに各自ダウンロードして講義に臨むこと。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>火曜3限。</p> <p>質問等で面会を希望する場合は、下記のメールアドレスにてアポイントをとること。</p>
<p>連絡先</p> <p>hoshino_yoshiyuki@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>●授業の出席が総回数<math>\frac{2}{3}</math>に満たない場合、学則第45条6「授業への出席が当該授業科目の総授業時間の<math>\frac{3}{2}</math>に満たない者は、単位を認定しない。」により、単位を認定しない。</p> <p>●授業の内容上、講義はいわゆる学校文法の理解の上に成り立つ。学校文法を授業中に復習・確認することは最低限に抑えたいので、履修する場合は、高校までに学習した文法をなるべく早い時点で復習することが必要となる。</p> <p>●受講生は必ず、初回までにNサポとマナパフォリオのリマインダー機能を使用可能な状況にしておくこと。</p>

古代文学特講 I				単位数	2単位
授業コード	31000	科目ナンバリング	230B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	東城 敏毅				
時間割備考					
授業形態 (主)	1 講義				
授業形態 (副)					
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
『万葉集』は、奈良時代に成立した日本最古の和歌集である。本授業は、『万葉集』を取り上げ、七・八世紀の時代背景も詳細に概観しながら、日本の和歌がいかに形成されていったのかを考察する。また、万葉歌の表現方法・表記方法の多様性と特色を、古代和歌史の視点や考古学・歴史学の視点も取り入れながら考察する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	七・八世紀の時代背景、ならびに『万葉集』についての基礎的な知識を説明できる。			知識・技能/主体性	
2	『万葉集』の歌表現の特色を説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	『万葉集』から、新たな「問い」を見つけ出し、自分の意見をまとめることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	レスポンスカード60%			1/2	
2	学期末レポート40%			2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 授業ガイダンス「訓む」ことと「読む」ことと・額田王の世界①：代作歌人としての位置付け					
2 額田王の世界②：難訓歌に挑む					
3 「穂積皇子・但馬皇女歌群」①：配列から考える「歌物語」					
4 「穂積皇子・但馬皇女歌群」②：但馬皇女の「朝川渡る」					
5 歌木簡と万葉集①：木簡から見える古代の生活					
6 歌木簡と万葉集②：「難波津の歌」の謎					
7 大和三山の歌①：三首の疑問					
8 大和三山の歌②：歴史的背景と難訓歌					
9 天平時代のサラリーマン事情：生活の場と出世への遠い道のり					
10 柿本人麻呂の世界①：安騎野の歌の歴史的背景					
11 柿本人麻呂の世界②：安騎野の歌「東の野に炎の」の訓み					
12 「梅花の宴」①：「令和」の出典歌を読解する					
13 「梅花の宴」②：大伴旅人と山上憶良の憶い					
14 高橋虫麻呂「菟原処女伝説歌」①：上代における「伝説歌」の意義					
15 高橋虫麻呂「菟原処女伝説歌」②：考古学・歴史学の視点から・総括					

<b>定期試験</b> レポート提出
<b>試験のフィードバックの方法</b> レポートの質問は随時受け付ける。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書等を随時紹介する。それらをもとに、積極的に多くの万葉歌を読み、その面白さに触れてほしい。また、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習も進めてほしい。また授業後にレスポンスカードを課し、授業内容の質問・問い・意見等を求める。
<b>必携書（教科書販売）</b> <必携書> 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之『補訂版 万葉集 本文篇』（塙書房 1998年）ISBN：978-4827300819 *「古代文学講読Ⅱ」「古代文学演習Ⅰ」（東城担当）と同テキスト
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> <参考書等> 上野誠・鉄野昌弘・村田右富実編『万葉集の基礎知識』（KADOKAWA 2021年） その他、授業中に適宜紹介する。 なお、教材としてレジュメを随時配布する。
<b>オフィスアワー</b> オフィスアワー：月曜日4時限 また質問等はメール等でも随時受けつける。
<b>連絡先</b> tojyo@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

古代文学特講ⅠⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	31020	科目ナンバリング	230B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	中井 賢一				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	1 講義 / 2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
平安期物語作品が、後代にいかにかに継承され、また超克されていくか、その享受の様相について、源氏物語を軸に多角的に考察する。途中、一部、和歌や随筆等の享受様態についても目記りをする予定である。1期・2期とも、体験的理解の観点から、個人、あるいはグループによる演習を含むものとする。					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	平安期物語等の享受がいかになされたか、その基礎的内容について読解することができる。			知識・技能 / 主体性	
2	『源氏物語』等の各種具体的享受方法とその特徴について、体験的に分析することができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力	
3	『源氏物語』享受の特徴と問題点について理解した上で、それらに対する自らの見解を適切に表現できる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	復習シート10%			1	
2	小テスト40%			1 / 2	
3	学期末レポート40%			1 / 2 / 3	
4	演習発表と口頭試問10%			1 / 2 / 3	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 講義概要の説明-物語享受の諸相-					
2 古筆切1-概説-					
3 古筆切2-和歌切-					
4 古筆切3-物語切-					
5 源氏物語の写本1-概説-					
6 源氏物語の写本2-青表紙本系-					
7 源氏物語の写本3-その他-					
8 中間まとめ					
9 物語絵と物語歌合1-物語絵の世界-					
10 物語絵と物語歌合2-風葉和歌集-					
11 源氏物語の古注釈1-三条西家の学統-					
12 源氏物語の古注釈2-その他-					
13 文学と教育1					
14 文学と教育2					
15 1期まとめ					

<b>定期試験</b> 学期末レポートを課す。また、授業時間中に小テストを行う（2回程度）。
<b>試験のフィードバックの方法</b> レポート、及び小テストの総括コメントを公表予定。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> （予習）『源氏物語』を中心とした平安期物語とそれ以降の物語、平安期周辺の和歌、随筆等について、概要と文学史上の意義を整理しておくこと。発表担当者は、指示を遵守して資料作成に当たり、発表当日は全員に資料を配付（またはアップロード）しておくこと。発表担当者以外は、当該箇所を通読の上、疑問点を整理しておくこと。（60分） （復習）復習シートに必要事項を記入の上、提出すること。（20分）
<b>必携書（教科書販売）</b> 『字典かな』 4305702606 笠間影印叢書刊行会編 笠間書院
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 授業中に指示する。
<b>オフィスアワー</b> 金曜日5時限（1・2期）
<b>連絡先</b> k_nakai@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> ・授業内容の性格上、1期の「Ⅲ」、2期の「Ⅳ」を、続けて受講することが望ましいが、それぞれ単独での受講も可とする。 ・規定回数を超えて欠席した場合は評価の対象としない。

中世文学特講 I				単位数	2単位
授業コード	31070	科目ナンバリング	230B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	江草 弥由起				
時間割備考					
授業形態 (主)	1 講義				
授業形態 (副)					
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
<p>本授業では鎌倉初頭に成立した『新古今和歌集』を学ぶことで、和歌史上類を見ないほど歌壇が隆盛した新古今時代を理解し、勅撰集を鑑賞する目を養うことを目的とする。『新古今和歌集』は他の勅撰集よりもその成立過程を詳細に見ることが出来る作品であり、一旦成立を見た直後から幾たびも後鳥羽院の意思による改訂が行われるという、院の並々ならぬ本歌集への執心のほどが窺われる作品でもある。院は承久の乱で隠岐に遷された後も、さらに改訂を行い「隠岐本」と称される『新古今和歌集』を作り上げた。これほど長い時間をかけられ、撰集を命じた院（天皇）本人に執着された勅撰集は例がない。授業前半では『新古今和歌集』について、『明月記』や『源家長日記』などの記録を踏まえながら、その成立の在り方を学ぶ。後半では、所収和歌を歌人毎に学び、和歌史上技巧的と評される新古今時代の和歌を楽しめる感性を養ってもらいたい。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	勅撰和歌集について説明することができる			知識・技能	
2	『新古今和歌集』の成立について、文献を引いて説明することができる			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	『新古今和歌集』の和歌を辞書を適切に用いて鑑賞できる			知識・技能/思考・判断・表現力	
4	先行歌・参考歌の用例を集め、それを基に和歌を解釈することができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	前半授業内容の小テスト (25%)			1/2	
2	定期試験 (60%)			1/2/3/4	
3	小レポート (15%)			1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> <li>勅撰和歌集について</li> <li>後鳥羽院について</li> <li>『新古今和歌集』成立過程① 和歌所設置と撰集の下命</li> <li>『新古今和歌集』成立過程② 完成と切り継ぎ</li> <li>承久の乱と隠岐本『新古今和歌集』</li> <li>和歌の鑑賞① 後鳥羽院</li> <li>和歌の鑑賞② 藤原定家</li> <li>和歌の鑑賞③ 藤原家隆</li> <li>和歌の鑑賞④ 藤原良経</li> <li>和歌の鑑賞⑤ 源通親</li> <li>和歌の鑑賞⑥ 源通具</li> <li>和歌の鑑賞⑦ 俊成卿女</li> <li>和歌の鑑賞⑧ 式子内親王</li> <li>和歌の鑑賞⑨ 西行</li> <li>授業のまとめ 定期試験に向けての学習要点の説明</li> </ol>					

<b>定期試験</b> 定期試験 (manabaのレポート機能を用いて行う。プリント・ノート類の利用可)
<b>試験のフィードバックの方法</b> 試験終了後にmanabaに模範解答を掲載する。
<b>準備学習 (予習・復習)に必要な学修内容・時間</b> 毎授業前にレジュメに目を通し分からない語句を調べておくこと。(約15分) 毎授業後にレジュメを参考に授業内容を整理しておくこと。(約30分)
<b>必携書 (教科書販売)</b>
<b>必携書・参考書 (教科書販売以外)</b> 授業に必要なレジュメは、manaba掲示板を通じてデータで配布する。授業までにダウンロードし、必要に応じて印刷をして備えること。授業内でレジュメプリントの配布はしない。
<b>オフィスアワー</b> 金曜2限。質問は随時メールでも受け付ける。
<b>連絡先</b> miyuki.egs@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 出席はmanabaレポートの提出で確認する。



中世文学特講 I I I				単位数	2単位
授業コード	31090	科目ナンバリング	230B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	阿部 泰郎、家入 博徳				
時間割備考	9月4日～9月7日（詳細別途掲示）				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
『とはずがたり』を媒ちとして、中世文学の諸領域を問直し、さまざまな角度から読み込んでいくことで、中世文学に通底する大きな主題に迫る。今年は特に作者後深草院二条が自ら絵を描く女房であり、「西行が修行の記」という絵巻を見たことが著作の動機となったことに注目し、女が書（描）くテキストとしての『とはずがたり』を論じてみたい。					
アクティブラーニングの実施内容		ディベート			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	今も「女流文学」と言われるような、“女が書く”ということの歴史的・文化的意味を、『とはずがたり』を多角的に読むことから解体し、あらたな中世文学の像を再構築することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性			
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	事前提出レポート 40点	1			
2	講義後提出レポート 60点	1			
3	その他、コメントペーパーや質問などを加味する。	1			
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
『とはずがたり』に関して、その講義に臨むときの最もあたらしい研究課題やそれについての見解・読みについて語ることになるので、あらかじめ整然とした予定は立てられない。だが、およそ以下のような問題については言及することになる筈である。					
1 『とはずがたり』の発見					
2 『とはずがたり』とその時代 -後嵯峨院の御代から兩統分裂へ					
3 『とはずがたり』作者の家系と貴族社会 -久我家と四条家の文学					
4 『とはずがたり』の文学伝統 -“女流日記” および和歌・歌謡と物語					
5 『とはずがたり』の文化伝統 -絵巻と女が描く絵					
6 『とはずがたり』の女の宿命 -愛別離苦と白拍子・遊女の出家遁世					
7 『とはずがたり』の歴史像 -京都鎌倉・公家と武家を媒ちする者					
8 『とはずがたり』の歴史像 -崇徳院と有明の月					
9 『とはずがたり』の宗教観 -王の生と死を司る仏教と夢					
10 『とはずがたり』の宗教観 -王の生と死を司る仏教と夢					
11 『とはずがたり』の説話伝承 -宗教文芸と説話集との関わり					
12 『とはずがたり』の説話伝承 -宗教文芸と説話集との関わり					
13 『とはずがたり』の救済 -中世女性の担う役割					
14 『とはずがたり』の救済 -中世女性の担う役割					
15 『とはずがたり』とは何か					

<b>定期試験</b> 事前・事後レポート提出
<b>試験のフィードバックの方法</b> 随時質問を受け付ける。事前レポートやコメントには、授業内に講評を行う。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 〔予習〕事前に「留意事項」の項に記載した課題に取り組むこと。 〔復習〕授業内で指示する。
<b>必携書（教科書販売）</b> ＜必携書＞ 『とはずがたり』（講談社学術文庫版）
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> ＜参考書等＞ 授業中に指示する。
<b>オフィスアワー</b> 授業の前後に対応する。
<b>連絡先</b> a19017@mail.ryukoku.ac.jp
<b>留意事項</b> 集中講義日程：9月上旬 講義前に『とはずがたり』を読み、自分なりの率直な感想・疑問・考察をレポートにまとめて提出すること。提出期日は指示に従うこと。A4用紙、縦書きで作成し、manabaiに提出すること（なお、詳細は教務委員にお問い合わせください）。 9月2・3日に西行学会が岡山にて予定されている。本講義と密接な関連をもつ学会なので、受講生にはぜひ参加することをお勧めする（オンライン視聴も可能）。

中世文学特講ⅠV				単位数	2単位
授業コード	31100	科目ナンバリング	230B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	兼築 信行				
時間割備考	9月4日～9月7日（詳細別途掲示）				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
和歌が詠まれ、発表・記録され、さらに歌集などさまざまな書物として編纂されて行く過程を具体的に観察するとともに、日本の古典文学作品を読解し、研究するうえで必須となる書誌学・文献学の基礎知識を習得することを織り込みながら、講義を進める。広く資料を取り扱う方法を教授したいが、内容はできるかぎり実践的であることを宗とし、調査の実際や、研究を進める段取りに即しながら、必要となる専門知識やスキルについて、詳しく述べていくことにする。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	主として中世における和歌詠作の実態を理解し、説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	歌会や歌合といった詠歌の「場」の具体相、さらには歌集の編纂過程を理解し、説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	写本を中心とする伝本の調査や、文献学的研究の方法を習得し、各自の関心や研究テーマに関係する古典籍を正しく取り扱い、調査研究できるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	集中講義の授業中に、幾度か課題の提出を求める。(40%)			1/2/3	
2	最終日に理解度の確認quizを実施し、フィードバックを行う。(60%)			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
4日間の集中講義を実施する。					
1日目のテーマは、「和歌を読んでみよう」。資料の読解には変体仮名・くずし字を判読する能力を要するが、初心者には、その手ほどきも合わせて行なうので、まったく変体仮名が読めない人でも、心配はいらない。					
1 回 和歌の基礎知識					
2 回 詠草					
3 回 和歌懐紙と短冊					
4 回 歌会と披講					
2日目のテーマは、「歌集を調べてみよう」。調査対象とする歌集の所在を確認してリストアップし、閲覧申請を行い、所蔵者を訪ねるまでの手順を述べ、調査すべき書誌項目に従いながら、典籍の構造や注目点について詳細に説明する。					
5回 伝本リストの作成					
6回 閲覧申請と書誌調査					
7回 写本の書誌1					
8回 写本の書誌2					
3日目のテーマは、「歌集を研究してみよう」。附属図書館の特殊文庫に所蔵される中世の歌集を具体例とし、書誌調査のデータや複写資料をもとに、どのようにして文献学的な処理や研究、さらには読解を行なうのかを示す。なお、本文批判の作業過程を受講者各自に実際に体験してもらう。					
9回 本文の対校1					
10回 本文の対校2					
11回 本文の対校3					
12回 本文批判の方法					
4日目のテーマは、「文庫見学と文献学の研究史」。3日目に扱った特殊文庫の所蔵歌集を実見し、調査する。そして文献学の研究史を講義する。					
13回 特殊文庫見学					
14回 文献学の研究史					
15回 理解度の確認quizとフィードバック					

定期試験
試験のフィードバックの方法
各課題については返却し、授業中に解説する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
くずし字・変体仮名を読むことになるので、その学習を事前に行っておくのが望ましい。各講義に必要な資料は、プリントにより配布する。また、課題を出すことも多いので、それらのための事前学習を要する。講義内容は専門性が高いため、前講のノートを整理し、十分な復習を行うことも求められる。事前、事後に各日90分程度の学習を目安とする。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
なし
オフィスアワー
集中講義のため授業の合間や休み時間等に対応するほか、メールによる質問も受付ける。
連絡先
knck@waseda.jp
留意事項

近世文学特講Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	31120	科目ナンバリング	230B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	門脇 大				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	1 講義				
担当形態	複数				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
江戸時代の怪談を中心とした様々な文献を読み解くことによって、古文の読解力の向上、周辺知識の習得、多角的な分析力を養う。江戸時代の「文学」作品の読解を中心にを行うが、テキストそのものを正確に読解することに加えて、当時の風俗や宗教(特に仏教)・漢籍・絵画・演劇などと比較しながら江戸怪談を検証する。 また、中世・近世・近現代の資料も考察の対象とすることで、幅広い視野を獲得することを目的とする。 授業前もしくは授業中に資料を配付し、講義する(授業前に配布した資料は一読しておくこと)。 授業中に3回程度、小レポートの作成・提出を求める。 「文学」作品をよりのしく、おもしろく読むための端緒として、自身で考察する姿勢を身につけることが望ましい。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	江戸怪談を関連資料と比較しながら読解し、その展開を説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	江戸怪談を関連資料と比較しながら読解できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	江戸怪談のテキストを読み進めることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	定期試験 70%			1/2/3	
2	授業への取り組み(小レポート) 30%			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. イントロダクション-「江戸怪談」とはなにか 2. 「牡丹灯籠」(1)-「牡丹灯籠」がやってきた 3. 「牡丹灯籠」(2)-『伽婢子』の「牡丹灯籠」1 4. 「牡丹灯籠」(3)-『伽婢子』の「牡丹灯籠」2 5. 「牡丹灯籠」(4)-「牡丹灯籠」の展開1 6. 「牡丹灯籠」(5)-「牡丹灯籠」の展開2 7. 僧と怪談(1)-「道成寺」説話1 8. 僧と怪談(2)-「道成寺」説話2 9. 僧と怪談(3)-『因果物語』の世界1 10. 僧と怪談(4)-『因果物語』の世界2 11. 僧と怪談(5)-『因果物語』の世界3 12. 江戸の妖しいウワサ(1)-江戸初期のウワサ 13. 江戸の妖しいウワサ(2)-江戸から近代へ 14. 江戸の妖しいウワサ(3)-江戸から現代へ 15. 総括					

<b>定期試験</b> 定期試験を行う。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 適宜メール等で受けつける。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 〔予習〕事前に配布されたテキストを通読する（1時間程度）。 〔復習〕配付資料・ノート等を読み返し、内容を理解する（1時間程度）。
<b>必携書（教科書販売）</b> 使用しない。
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 授業前および授業中にプリントを配布する。
<b>オフィスアワー</b> 質問は授業終了後に教室で、もしくはメール等で受けつける。
<b>連絡先</b> kadowaki-d@t.kagawa-nct.ac.jp ※メールでの質問・相談の際は授業名を明記すること
<b>留意事項</b>

近世文学特講ⅠⅠⅠ		単位数	2単位
授業コード	31140	科目ナンバリング	230B1-2340-o2
担当氏名	山本 秀樹		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)			
本授業の概要			
『雨月物語』は、「文学」的「怪談」の元祖的作品です。 1回当たりに読む本文のページ数は、文庫本で3~5ページ程度です。第2期と合わせて、『雨月物語』をすべて読むことになります。			
講義では、(他の先生方の授業のことがわかりませんので、おそらくですが)丁寧に、本文について通して説明していきます。 それは、研究をいかしながら、また、教科書の意見に対しても批判的に主体的に接しながら、『雨月物語』の本文の表現をできるだけ丁寧に読み取り理解していく模範演技になるよう意識した解説です。 また、儒学や仏教など、現代日本人にはもう関係が薄くなってしまった、ものの考え方については、この講義で、その基本を一通り知ることができるように配慮して、(みなさんの前提的な知識がなくても理解できるように)解説をします。			
『雨月物語』はいろいろな「文学」的要件を満たしているため、ほぼ最高レベルに高い文学的評価を得ています。 (英訳本の「Tales of Moonlight and Rain」の説明には、「Japan's finest and most celebrated examples of the literature of the occult」と書いてあります。)			
ですので、何種類かの高校の教科書に取られてもいて、その点、江戸時代の作品としては大変めずらしい作品です。 ここでは、単純に言って『雨月物語』は興味深いストーリーを持っているだけとおきます。 (また、授業の1回目に説明します。)			
江戸時代の中頃、大坂の紙油商人の息子だった上田秋成(「秋成」は国学者・歌人としての号(名乗る名前))が書いたものです。 短編が9話入っていますが、それぞれのお話につき論文が50本くらい書かれるほどの人気作です。しかしながら、なかなか簡単にこうだと決めつけるわけにはいかない奥行(おくゆ)きの深さを持った作品です。 まだもう少しばかり研究は完結しないのだらうと思います。			
第1期は『雨月物語』全9編のうち、前半の4編「白峯」「菊花の約」「浅茅が宿」「夢王の鯉魚」と序文を読みます。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	『雨月物語』がどのような作品か、理解し説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	時代による文化のちがいを理解し説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
3	古文表現が意図していることを理解し説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
4	テキストを読んで生まれる疑問を大切に、表明する。	思考・判断・表現力/主体性	
5	文学研究というものについての理解を表明できる。	思考・判断・表現力	
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	毎回の講義に対する反応:60点	1/2/3/4/5	
2	最終的ふりかえりの記述試験:40点	1/2/3/4/5	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
PowerPoint講義要点を、マナバフォリオにupすることがあります。 その際はpc等でそれを見ながら受講するか、プリントアウトして来てください。			
第1回 イントロダクション:授業の進め方・『雨月物語』について			
第2回 白峯(序盤)			
第3回 白峯(中盤)			
第4回 白峯(終盤)			
第5回 菊花の約(序盤)			
第6回 菊花の約(中盤)			
第7回 菊花の約(終盤)			
第8回 浅茅が宿(序盤)			
第9回 浅茅が宿(中盤)			
第10回 浅茅が宿(終盤)			
第11回 夢応の鯉魚(序盤)			
第12回 夢応の鯉魚(中盤)			
第13回 夢応の鯉魚(終盤)			
第14回 序文			
第15回 ふりかえりの記述試験			
第16回 回答例を使ってフィードバック			

<b>定期試験</b> 毎回の課題は授業について、授業時間中に書いていただきます。細かいことは授業の際に指示します。
試験：第1期をふりかえってまとめの記述
<b>試験のフィードバックの方法</b> 回答例を提示して解説します。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> (予習) 教科書の指定された部分を読む。(約30分) (復習) 教科書と授業をふりかえる。(約30分)
<b>必携書（教科書販売）</b> <必携書> 改訂 雨月物語 現代語訳付き（角川ソフィア文庫），2006¥880，978-4044011024，鶴月洋校注，角川書店
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> <参考書等> 授業で紹介します。
<b>オフィスアワー</b> 研究室がないのでメールで対応することになります。
<b>連絡先</b> yamahide(アットマーク)okayama-u. ac. jp
<b>留意事項</b> 特にありません。



近代文学特講 I				単位数	2単位
授業コード	31200	科目ナンバリング	230B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第 1 期
担当者氏名	山根 知子				
時間割備考					
授業形態 (主)	1 講義				
授業形態 (副)					
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
岡山市出身の小説家・児童文学作家である坪田譲治の作品を読み深めることができ、作品の特質の理解とともに作家の特質を考察することができるようになる。さらに、講義内容によって得た知識から、履修者は発展的に、作家の作品とその思想が同時代の問題および岡山を舞台とした風土の問題とどのように関係するかについて、テキスト分析と同時代資料の調査を実行すると、それをもとにみずから考察して読解を深める力を身につけ、その成果としてのレポートを仕上げる。授業中の課題では、コメントシートへの記入のほか、口頭発表も取り入れることで、自分の思考内容を人に伝える力としての表現力を養う。					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	言語表現の特質を敏感に捉え、読解力を深めることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	感性と言語感覚を磨き、その体験を作家の作品と思想の研究を深めてゆく思考へとつなげることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	同時代資料を使って、作品の背後の時代状況を押さえることで、作者の作品に込めた思想を解明し、受講者自身が新見を論じられるようになることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	文学の力が作家自身や読者に及ぼした影響について考察することで、文学と人生との関係を深く考えることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の課題と発表 : 30%			1/2/4	
2	レポート (仮提出と本提出) : 70%			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 インTRODクシヨシ					
2 坪田譲治年譜による作家理解					
3 作品と同時代および風土について					
4 坪田譲治の作品理解					
5 学生による「感想」「イラスト」についての発表 (岡山市主催「学生による坪田譲治ワールドへの招待」への応募内容について各自発表)					
6 映像授業 「第一部 坪田譲治の生涯」					
7 童話集『かっぱとドンコツ』および6の解説					
8 映像授業 「第二部 作品から学ぶ坪田譲治」					
9 小説「風の中の子供」および8の解説					
10 映像授業 「第三部 坪田譲治の時代から学ぶ岡山」					
11 10の解説および期末レポート課題の説明					
12 同時代資料を使った小説の読解					
13 同時代資料を使った童話の読解					
14 期末レポート仮提出とそのフィードバック					
15 作品分析と作家理解について					
期末レポート本提出					

<b>定期試験</b> レポート提出（仮提出と本提出）
<b>試験のフィードバックの方法</b> レポート仮提出については、授業中に全員に対してフィードバックし、レポート本提出については、必要に応じて個人的にフィードバックする。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> ・作家の資料や作品について、事前に指示しテキスト配付するので、次の授業までに読んで臨むこと。 ・その際、次の授業までに考えておく課題や、リアクションペーパー（マナバ）に記入して提出する課題を随時出すので、予習・復習とともに約1時間をかけて取り組むこと。 ・期末レポート提出前の1ヶ月においては、中間に一度仮提出をし、各自のレポートの進み具合の確認と、作業に関する質問をする時間をとるので、1ヶ月をかけての計画的かつ入念な取り組みを行うこと。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 担当教員より印刷物等を配付
<b>オフィスアワー</b> 水曜日5時限。その他、随時メールでの質問を受け付ける。
<b>連絡先</b> t-yamane@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> ・取り扱う作品が指示されたら、必ず読んで授業に臨むこと。 ・講義形式ではあるが、受講者が自身の考えを述べる機会を随時設けるので、常に自己の考えをノートに記述しておくこと。

近代文学特講ⅠⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	31230	科目ナンバリング	230B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	長原 しのぶ				
時間割備考					
授業形態(主)	1講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
現在でも映画化・キャラクター化される太宰治とその文学を取り上げる。太宰作品を具体的に読み解き、普遍的な作家の魅力に繋がる特質を考える力を習得する。さらに、太宰の文学活動と重なる近代(昭和)の戦争期という時代背景を理解し、文学と戦争との関わりを考察する力を身に付ける。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	作家と作品について時代背景を理解した上で的確に説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	先行研究などの資料を使って作家と作品についてより深く考察することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	作家と作品について、受講者自身が新たな視点をもって論じることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
4	作家とその文学の持つ普遍的な力を理解した上で、その文学史的な位置づけができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の課題と発言(コメント用紙): 40%			1/3/4	
2	期末レポート: 60%			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 インTRODクシヨン(導入と授業の進め方の説明)					
2 太宰治の生涯(作家の生涯と作品の展開)					
3 現代に生きる太宰治(サブカルチャーへの継承と展開)					
4 太宰文学の特徴(前期)					
5 太宰文学の特徴(中期)					
6 太宰文学の特徴(後期)					
7 前期作品の読解(1)					
8 前期作品の読解(2)					
9 中期作品の読解(1)					
10 中期作品の読解(2)					
11 太宰治と戦争					
12 後期作品の読解(1)					
13 後期作品の読解(2)					
14 太宰治とキリスト教					
15 太宰の死と戦後					

定期試験 期末レポート
試験のフィードバックの方法 必要に応じて個人的にフィードバックする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業で扱う作品を読んでおくこと。対象作品は授業中に指示する。（約3時間） 授業の理解を確認するための課題プリントを使って復習をすること。（約2時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 授業中に適宜プリント配布する。
オフィスアワー オフィスアワー：水曜日3時限
連絡先 （長原）nagahara@m.ndsu.ac.jp
留意事項 取り扱う作品は各自で必ず読んで授業にのぞむこと。 講義形式であるが、各自の考えを述べる機会を随時設けるので、積極的に参加すること。

近代文学特講Ⅴ				単位数	2単位
授業コード	31250	科目ナンバリング	230B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	綾目 広治				
時間割備考					
授業形態(主)	1講義				
授業形態(副)	1講義				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
授業の概要 主に戦前昭和までの、日本近代文学の代表的な文学者の小説と詩を取り上げ、それらの作品を通して、これまでの読み方について疑義を提出しつつ、新たな解釈を提示する。それによって日本近代文学に対する新しい観点からの読みを探ってみたい。 取り上げる作家は、森鷗外、夏目漱石、正宗白鳥、太宰治、永瀬清子などであり、戦時下の東南アジアでの文集や、シュストフ論争や「異邦人」論争も取り上げる。					
アクティブラーニングの実施内容			発見学習		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	上記の論考の理解を深め、それらの論考が提起している問題についての認識を深める。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	② それらの文学・思想の問題点が指摘できるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	③それらの文学・思想について現代的な観点から評価できるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	④それらの文学・思想について批評的な思考ができるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	⑤扱った作品について広く現代的な思想の観点から評価できるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	質問などから判断される授業態度：20点			1/2	
2	筆記試験：80点。筆記試験では、到達目標の①：30点、②：20点、③：15点、④：10点、⑤：5点の配分で評価する。			1/2/3/4	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
授業計画 第1回：導入 第2回：森鷗外「舞姫」-作者の虚構と読者の虚構1 第3回：森鷗外「舞姫」-作者の虚構と読者の虚構2 第4回：漱石文学と探偵小説1 第5回：漱石文学と探偵小説2 第6回：正宗白鳥-絶対志向と懐疑精神1 第7回：正宗白鳥-絶対志向と懐疑精神2 第8回：里村欣三論-弱者への眼差し1 第9回：里村欣三論-弱者への眼差し2 第10回：太宰治「地球儀」 第11回：東南アジアの戦線-「ジャワ縦横」「南十字星文藝集」 第12回：永瀬清子をめぐる詩想のつながり-高良とみ・高良留美子・タゴール1 第13回：永瀬清子をめぐる詩想のつながり-高良とみ・高良留美子・タゴール2 第14回：不条理をめぐる論争から-シュストフ論争と『異邦人』論争 第15回：まとめ 定期試験					

<b>定期試験</b> 筆記試験を行う。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 質問等をメールで受け付け、それに回答する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 復習として、一つのテーマが終わったら、当該論文を必ず読むこと。
<b>必携書（教科書販売）</b> 綾目広治著『柔軟と屹立 日本近代文学と弱者・母性・労働』（御茶の水書房、2016年刊） 978-4-275-02059-8 C3095
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 無し
<b>オフィスアワー</b> 授業終了後に質問を受け付ける
<b>連絡先</b> ayame@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

古代文学講読Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	32000	科目ナンバリング	230B2-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	東城 敏毅				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
『風土記』は、『古事記』や『日本書紀』と同時代に編纂されたものであるが、本授業は「播磨国風土記」を取り上げ、その文学表現を多角的に分析することを目的とする。特に、播磨国(兵庫県)の土地と密接に結びつく「神話」「地名」の意義を、『古事記』神話や考古学・歴史学等の成果も参照しながら、演習形式にて検討・考察する。古代人のものの考え方や価値観について考えるとともに、日本文学史上における「神話」「風土記」の位置付けについても考察する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	『風土記』『古事記』神話の基礎的な読解力を身につけることができる。			知識・技能/主体性	
2	多くの注釈書類や研究史を概観し、作品を多角的に捉える視点を応用できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	上代文学の研究手法、ならびに発表方法を身につけることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	レスポンスカード30%			1	
2	発表40%			1/2/3	
3	学期末レポート30%			2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 ガイダンス・『風土記』概説①:その成立と性質					
2 『風土記』概説②:各国風土記の特徴					
3 「播磨国風土記」概説①:「播磨国風土記」の特徴					
4 「播磨国風土記」概説②:『古事記』『日本書紀』神話との比較					
5 「播磨国風土記」概説③:「賀古郡」読解					
6 「播磨国風土記」発表1:「印南郡」①②					
7 「播磨国風土記」発表2:「飾磨郡」①②					
8 「播磨国風土記」発表3:「楳保郡」①②					
9 「播磨国風土記」発表4:「楳保郡」③④					
10 「播磨国風土記」発表5:「讃容郡」①②					
11 「播磨国風土記」発表6:「穴禾郡」①②					
12 「播磨国風土記」発表7:「神前郡」①②					
13 「播磨国風土記」発表8:「託賀郡」①②					
14 「播磨国風土記」発表9:「賀毛郡」①②					
15 「播磨国風土記」発表10:「美養郡」①②・授業の総括					

<b>定期試験</b>
レポート提出
<b>試験のフィードバックの方法</b>
レポートの質問は随時受け付ける。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b>
毎回事前に、授業で扱う箇所について読み、理解を深めておくこと。また、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習も進めてほしい。また授業後にレスポンスカードを課し、発表内容への質問・問い・意見等を求める。  なお、発表者は前日までにレジュメをmanabaにアップすること。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<必携書> 中村啓信訳注『風土記（上）常陸国・出雲国・播磨国』（角川ソフィア文庫 2015年）ISBN：9784044001193  *教科書の在庫が少ない可能性があり、教科書販売で購入できない学生さんが出てくる可能性があります。 授業担当者が購入した在庫もありますので、教科書販売で購入できなかった学生さんは、授業時に東城までご連絡ください。
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b>
<参考書等> 井上ミノル『ドキドキ『播磨国風土記』』（神戸新聞総合出版センター 2022年） 坂江涉監修『『播磨国風土記』の古代史』（神戸新聞総合出版センター 2021年） 他、授業中に適宜紹介する。
<b>オフィスアワー</b>
オフィスアワー：月曜日4時限 また質問はメール等でも随時受けつける。
<b>連絡先</b>
tojyo@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>



古代文学講読ⅠⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	32100	科目ナンバリング	230B2-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	中井 賢一				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
平安期物語作品の影印本を読むことを通して、写本の読解方法に習熟するとともに、初期の作り物語の特徴と問題点について考察する。そのため、高松宮蔵本『竹取物語』、及び、斑山文庫本『落窪物語』に見られる様々な特徴的表現に注目し、それらがいかに人物造型や物語展開と関わるのか、作品享受のありようと併せ検証する。個人、またはグループでの演習を通し、諸注釈や先行研究の扱い方、プレゼンテーションの方法、質疑応答の作法等にも習熟する。なお、今期においては、適宜、平安初期物語間の、享受の様相についても考察対象とする。					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	『竹取物語』・『落窪物語』の基礎的内容について読解することができる。			知識・技能/主体性	
2	写本の読解方法、諸注釈や先行研究の扱い方等について理解し、自らの力でそれらを活用・運用することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	平安期物語の特徴と問題点について理解した上で、それらに対する自らの見解を適切に表現できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	復習シート10%			1	
2	発表と質疑応答40%			1/2/3	
3	学期末レポート40%			1/2/3	
4	口頭試問10%			1/2/3	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 講義概要の説明-古代物語の話型と構成-					
2 竹取物語における〈地方〉の力、及び高松宮本『竹取物語』の特徴。落窪物語における〈従者〉の力、及び斑山文庫本『落窪物語』の特徴。					
3 演習方法の説明と担当箇所分担					
4 演習①竹取1					
5 演習②竹取2					
6 演習③竹取3					
7 演習④竹取4					
8 演習⑤竹取5・中間まとめ					
9 演習⑥落窪1					
10 演習⑦落窪2					
11 演習⑧落窪3					
12 演習⑨落窪4					
13 演習⑩落窪5					
14 演習⑪落窪6					
15 1期まとめ					

<b>定期試験</b> 学期末レポートを課す。
<b>試験のフィードバックの方法</b> レポートの総括コメントを公表予定。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> （予習）発表担当者は、指示を遵守して資料作成に当たり、発表当日は全員に資料を配付（またはアップロード）しておくこと。発表担当者以外は、当該箇所を通読の上、疑問点や問題点を整理しておくこと。（90分） （復習）復習シートに必要な事項を記入の上、提出すること。（15分）
<b>必携書（教科書販売）</b> ①『高松宮本 竹取物語』 4787904159 片桐洋一編 新典社 ②『落窪物語（一）斑山文庫旧蔵』 4305402806 神作光一編 笠間書院 （①②とも用いる。（今回は3000円を超えます。物入りの折柄恐縮ですが、受講の際は諒とされますよう。））
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 授業中に指示する。
<b>オフィスアワー</b> 金曜日5時限（1・2期）
<b>連絡先</b> k_nakai@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> ・変体仮名等、くずし字が一定程度は読めること。 ・作品内容、授業内容の性格上、1期の「Ⅲ」、2期の「Ⅳ」を、続けて受講することが望ましい。 ・規定回数を超えて欠席した場合は評価の対象としない。 ・受講希望者が多い場合は、2年生を優先する。

中世文学講読Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	32210	科目ナンバリング	230B2-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	江草 弥由起				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義 / 2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>本学の特殊文庫所蔵の古典籍を用いて、書誌学・文献学の基礎的な知識、古典作品の解釈をするために必要な能力を身につけることを目的とする。特殊文庫には、江戸時代の国学者黒川家旧蔵書群のうち和歌に関する古典籍が多く収められている。古典籍に実際に触れながら古典籍の扱い方や調査カードの記入方法を習得し、調査対象作品を読解するために必要な研究ツールを使いこなすことが目標である。なお、特殊文庫での調査が必要となるため、受講生が多数の場合は小グループに分けて授業を実施する。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	書誌学・文献学についての知識を身に着け、説明することができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力	
2	古典籍の適切な扱い方を理解し、実践することができる。			知識・技能	
3	古典籍から得た情報を元に調査カードを作成することができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力	
4	古典作品を読解するために必要なツールを理解し、ツールを適切に選択利用した上で作品を解釈することができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
5	調査に基づきレジュメを作成し口頭発表することができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	発表 (30%)			1 / 2 / 4	
2	レポート (40%)			1 / 2 / 4	
3	授業内での取り組み・発言 (20%)			4	
4	調査カード (10%)			3	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特殊文庫について グループ分け</li> <li>2. 古典籍の扱い方</li> <li>3. 調査カードについて</li> <li>4. 調査する古典籍の選定① (特殊文庫にて実施)</li> <li>5. 調査する古典籍の選定② (特殊文庫にて実施)</li> <li>6. 古典研究ツールについて</li> <li>7. 特殊文庫にて古典籍の調査①</li> <li>8. 特殊文庫にて古典籍の調査②</li> <li>9. 特殊文庫にて古典籍の調査③</li> <li>10. 口頭発表①</li> <li>11. 口頭発表②</li> <li>12. 口頭発表③</li> <li>13. レポート作成について</li> <li>14. 発表を受けての追加調査①</li> <li>15. 発表を受けての追加調査②</li> </ol>					

<b>定期試験</b> 口頭発表と追加調査後に順次調査カードを提出。 口頭発表を発展且つ追加調査の内容を反映させた期末レポートを提出してもらう。
<b>試験のフィードバックの方法</b> レポートに関する相談は随時メールで受け付ける。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 発表担当回は十分に準備をしておくこと（約2時間以上） 発表後は授業内での質疑の内容を整理し、追加調査に向けての準備をすること（約30分）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 授業中に適宜指示する。
<b>オフィスアワー</b> 金曜2限
<b>連絡先</b> miyuki.egs@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 古典籍を扱う授業のため、古典籍を損なう可能性のある状態での授業参加は認められない。（例：ネイルアートをしたままの参加は不可。）

近代文学講読ⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	32410	科目ナンバリング	230B2-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	山根 知子				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
志賀直哉と芥川龍之介の短編小説をテキストとして読解を深める。各自が選定した作品を履修者全員で論じる読書会を通じて、発表の論点を定める力を習得する。口頭発表では、発表者は作品分析のテーマと方法を定め、自己の新見を展開する研究発表を行うことを試みる。さらに期末には、それを説得力のある論文の形に深めまとめる力を身につける。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	作品から問題点を見出して研究テーマを設定し、的確な分析方法を用いて新たな作品論を展開することができる。他者の見解に対する問題点を指摘しながら独自の作品論を確認することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	根拠のしっかりした客観的実証を行い、先行論文を踏まえた説得力のある論にすることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	先行研究を的確に用いて自らの論の強調点や新しさを主張できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	説得力のある論文の書き方を修得し、自らの論を完成できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の質疑応答・討論での発言：20%			1	
2	口頭発表：40%			1/2/3/4	
3	期末の論文：40%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 作家の問題や、作品の流れの概要・特質について講義し、演習授業の進め方について説明					
2 各自が発表する作品および日程を決定 ※作品選定は、受講者の人数・日程を考慮したうえで各自の希望にも応じる。					
3 作品分析方法について説明					
4 担当者による中間発表と全員による読書会(1)					
5 担当者による中間発表と全員による読書会(2)					
6 担当者による中間発表と全員による読書会(3)					
7 担当者による中間発表と全員による読書会(4)					
8 作品論発表と質疑応答(1)					
9 作品論発表と質疑応答(2)					
10 作品論発表と質疑応答(3)					
11 作品論発表と質疑応答(4)					
12 作品論発表と質疑応答(5)					
13 作品論発表と質疑応答(6)					
14 論文作成についての指導					
15 論文の文章についての指導					

定期試験 論文提出
試験のフィードバックの方法 授業中に全員に対してフィードバックするほか、個人的にもフィードバックする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・授業の「作品論発表」では、担当者は、発表予定日の1週間前にレジユメを配布するため、日程が決定され次第、約1か月をかけてレジユメ作成に取り組み、中間発表の質疑応答からも修整を加えてレジユメを完成させること。 ・毎時間新たな学生の発表が設定されているので、他者のレジユメを必ず読み、全員、毎授業にて発表者への質問を述べるための質問内容を、予習としてコメントをマナバに記入すること。一方、自分の発表後はその発表時に受けたアドバイスにより修整を加える復習をするなど、それぞれ約1時間の予習・復習をすること。 ・論文提出前の授業では、論文作成指導と確認を行うので、実際に指示された論文の章節を執筆して持参すること。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） なし（作品テキストについてはプリント配布する）
オフィスアワー 水曜日5時限。その他、随時メールでの質問にも応じる。
連絡先 t-yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・指示された作品を必ず読んでから授業に臨むこと。 ・発表者は、担当日の一週間前にレジユメを提出・配布すること。 ・発表者以外は、予習時に発表者への評価と自己の読解を用紙に記入してくること。 ・発表時に手続き・内容において不十分だった場合は、翌週に補正分のレジユメを提出すること。

近代文学講読ⅠⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	32420	科目ナンバリング	230B2-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	長原 しのぶ				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>原田マハの短編小説をテキストとしてその文学の特徴と文学史的意義を理解した上で、作品分析の方法と発表の仕方、まとめ方の技術を習得することを目的とする。授業では、2回の口頭発表を行い、発表内での質疑応答を経た中で自分の作品分析に対する問題点、不足点を把握する機会を持つ。問題点を解決した上で作品分析したものを期末レポートにまとめて提出する。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	新しい視点を軸にした作品読解と作品分析ができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	先行論や根拠を示す資料を利用した発表と論文作成ができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	口頭発表の中で適切な質疑応答ができる。			思考・判断・表現力/主体性	
4	客観的で説得力のある論文の書き方を身につける。			知識・技能	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の質疑応答の発言とコメント用紙の提出：20%			3	
2	2回の口頭発表と発表レジュメの提出：40%			1/2/3	
3	期末に提出するレポート：40%			1/2/4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 インTRODクシヨン(作家と作品について) 2 現代小説の研究方法について 3 発表作品決めと発表資料の作成方法について 4 中間発表「ハッピー・バースデー」「窓辺の小鳥たち」 5 中間発表「檸檬」 6 中間発表「豊饒」 7 中間発表「聖夜」 8 中間発表「さざなみ」 9 作品発表「ハッピー・バースデー」 10 作品発表「窓辺の小鳥たち」 11 作品発表「檸檬」 12 作品発表「豊饒」 13 作品発表「聖夜」 14 作品発表「さざなみ」 15 発表資料の構成と文章指導 ※発表作品は受講者数によって調整する場合がある。					

定期試験 期末レポート提出
試験のフィードバックの方法 必要に応じて個人的にフィードバックする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 対象作品を必ず読んでおくこと（約1時間） 発表内容のレジュメ（発表資料）を作成して授業にのぞむこと（約6時間） 発表内容に対する質問をコメント用紙にまとめておくこと（約1時間）
必携書（教科書販売） 『〈あの絵〉のまえて』, 2022年, ISBN978-4-344-43248-2, 原田マハ, 幻冬舎
必携書・参考書（教科書販売以外） 〈参考書など〉 適宜、授業中に紹介する。授業中にプリント配布する。
オフィスアワー オフィスアワーは水曜日3時限
連絡先 （長原）nagahara@m.ndsu.ac.jp
留意事項 質疑応答では発表者以外の全員に質問をしてもらうので予め質問を準備しておくこと。 発表時に欠席した場合は必ず相談すること。 授業での説明などに疑問のある場合は遠慮なく質問すること。



古代文学演習Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	33000	科目ナンバリング	230B3-3400-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	東城 敏毅				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
『万葉集』は、奈良時代に成立した日本最古の和歌集である。そのため、従来、さまざまな視点から研究が進められてきたと同時に、鑑賞の対象として、多くの人々に愛されてきた歌集でもある。本授業は、演習形式により、額田王・柿本人麻呂・山部赤人・大伴旅人・山上憶良・高橋虫麻呂・大伴家持等、さまざまな歌人の長歌を取り上げ、多くの注釈書や研究史も概観しながら、『万葉集』の歌表現を多角的に分析することを目的とする。					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	『万葉集』の基礎的な読解力を身につけることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	多くの注釈書や研究史を概観し、作品を多角的に捉える視点を応用できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	古代文学を研究する際の、作品の決め方、およびその手法について考察し、実際に調査を行ない発表する学術的な方法を身につけることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	レスポンスカード30%			1/2/3	
2	発表40%			1/2/3	
3	学期末レポート30%			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 ガイダンス・『万葉集』概略					
2 『万葉集』における歌人の傾向①					
3 『万葉集』における歌人の傾向②					
4 『万葉集』発表1：額田王①(巻1・16番「春秋競麟歌」)					
5 『万葉集』発表2：額田王②(巻1・17~19番「三輪山の歌」)					
6 『万葉集』発表3：柿本人麻呂①(巻1・29~31番「近江荒都歌」)					
7 『万葉集』発表4：柿本人麻呂②(巻2・207~209番「泣血哀働歌」)					
8 『万葉集』発表5：山部赤人①(巻3・317~318番「富士山の歌」)					
9 『万葉集』発表6：山部赤人②(巻3・324~325番「神岳に登る歌」)					
10 『万葉集』発表7：大伴旅人(巻3・446~453番「亡妻挽歌」)					
11 『万葉集』発表8：大伴坂上郎女(巻4・619~620番「怨恨歌」)					
12 『万葉集』発表9：山上憶良(巻5・892~893番「貧窮問答歌」)					
13 『万葉集』発表10：高橋虫麻呂(巻9・1807~1808番「葛飾の真間の娘子の歌」)					
14 『万葉集』発表11：大伴家持(巻18・4106~4110番「史生尾張少咋を教え諭す歌」)					
15 授業の総括					

定期試験
レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートの質問は随時受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
毎回の授業では、事前に授業で扱う箇所について、理解を深めておくこと。特にレポートには、日々の文献研究で深めたテーマに関してより多角的に、発展的な論述を求める。積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習も進めてほしい。また授業後にレスポンスカードを課し、発表内容への質問・問い・意見等を求める。
なお、発表者は前日までにレジュメをmanabaにアップすること。
必携書（教科書販売）
<必携書> 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之『補訂版 萬葉集 本文篇』（塙書房 1998年）ISBN：9784827300819 *「古代文学特講Ⅰ」「古代文学講読Ⅱ」（東城担当）と同テキスト
必携書・参考書（教科書販売以外）
<参考書等> 上野誠・鉄野昌弘・村田右富実『万葉集の基礎知識』（KADOKAWA 2021年）ISBN：9784047037021 その他、授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー
オフィスアワー：月曜日4時限 また質問等はメール等でも随時受けつける。
連絡先
tojyo@m.ndsu.ac.jp
留意事項

古代文学演習ⅠⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	33020	科目ナンバリング	230B3-3400-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	中井 賢一				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
平安期物語作品の影印本を読むことを通して、写本の読解方法に熟達するとともに、平安期物語の特徴と問題点について考察する。そのため、本年度は、書陵部蔵本『源氏物語』明石巻に見られる様々な特徴的表現を糸口に、それらがいかに人物造型や物語展開、物語構造や全体構成等と関わるのか、作品享受のありようと併せ検証する。個人、またはグループでの演習を通し、諸注釈や先行研究の扱い方、プレゼンテーションの方法、質疑応答の作法等にも熟達した上で、卒業論文執筆のための基礎的技法についても習得する。演習対象が『源氏物語』であり、少々、ハードワークになろう。強い意志を期待する。					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	『源氏物語』の基礎的内容について読解することができる。			知識・技能/主体性	
2	写本の読解方法、諸注釈や先行研究の扱い方等について理解し、自らの力でそれらを活用・運用することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	平安期物語の特徴と問題点について理解した上で、それらに対する自らの見解を適切な方法によって発表・討論することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	自らの設定したテーマに則って立論し、説得的に文章化することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	復習シート10%			1	
2	発表と質疑応答40%			1/2/3	
3	学期末レポート40%			1/2/3/4	
4	口頭試問10%			1/2/3/4	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 講義概要の説明-古代物語の主人公像と源氏物語の構成-					
2 光源氏の運命と物語の構造、及び明石巻の特徴					
3 演習方法の説明と担当箇所分担					
4 演習①序 1					
5 演習②序 2					
6 演習③展開 1					
7 演習④展開 2					
8 演習⑤展開 3					
9 演習⑥展開 4					
10 演習⑦展開 5					
11 演習⑧展開 6					
12 演習⑨展開 7					
13 演習⑩展開 8					
14 演習⑪展開 9					
15 1期まとめ-表現と人物造型-					

<b>定期試験</b> 学期末レポートを課す。
<b>試験のフィードバックの方法</b> レポートの総括コメントを公表予定。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> （予習）発表担当者は、指示を遵守して資料作成に当たり、発表当日は全員に資料を配付（またはアップロード）しておくこと。発表担当者以外は、当該箇所を通読の上、疑問点や問題点を整理しておくこと。（90分） （復習）復習シートに必要な事項を記入の上、提出すること。（15分）
<b>必携書（教科書販売）</b> 『青表紙本 源氏物語』（明石巻） 4787900135 山岸徳平・今井源衛監修 新典社
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 授業中に指示する。
<b>オフィスアワー</b> 金曜日5時限（1・2期）
<b>連絡先</b> k_nakai@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・変体仮名等、くずし字が概ね読めること。</li><li>・作品内容、授業内容の性格上、1期の「Ⅲ」、2期の「Ⅳ」を、続けて受講することが望ましい。</li><li>・規定回数を超えて欠席した場合は評価の対象としない。</li></ul>

中世文学演習Ⅰ		単位数	2単位
授業コード	33110	科目ナンバリング	230B3-3400-o2
開講年度学期	2023年度第1期		
担当者氏名	江草 弥由起		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)			
本授業の概要			
<p>本授業は『若宮撰歌合』を学ぶことを通して歌合・和歌の鑑賞方法を理解し、和歌・歌学の研究方法を習得することを目的とする。『若宮撰歌合』は建仁二年(1202)九月二十六日に若宮社へ奉納するために撰歌・結番された、『水無瀬殿恋十五首歌合』からの撰歌合である。撰歌元から伺っているように、恋歌のみで構成される。判詞は後鳥羽院の勅判であり、『若宮撰歌合』の読解を通して院の歌観を知ること可能である。</p>			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	『若宮撰歌合』について知識を身に付け、説明することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	和歌を学ぶための資料が何かを理解し、調べることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	後鳥羽院の歌観を他資料を引いて調べ、考察することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
4	和歌・歌学の研究方法を理解し、実践することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	発表(30%)	2/4	
2	レポート(50%)	1/2/3/4/5	
3	授業内での発言(20%)	2/4	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>『若宮撰歌合』についての基礎知識 -1 発表順・発表方法について</li> <li>『若宮撰歌合』についての基礎知識 -2 レジュメの作成について</li> <li>発表①『若宮撰歌合』一番</li> <li>発表②『若宮撰歌合』二番</li> <li>発表③『若宮撰歌合』三番</li> <li>発表④『若宮撰歌合』四番</li> <li>発表⑤『若宮撰歌合』五番</li> <li>発表⑥『若宮撰歌合』六番</li> <li>発表⑦『若宮撰歌合』七番</li> <li>発表⑧『若宮撰歌合』八番</li> <li>発表⑨『若宮撰歌合』九・十番</li> <li>発表⑩『若宮撰歌合』十一・十二番</li> <li>発表⑪『若宮撰歌合』十三・十四番</li> <li>発表⑫『若宮撰歌合』十五番</li> <li>発表①～⑫を受けての補足 レポート作成の注意点</li> </ol>			

<b>定期試験</b> レポート（授業での発表・議論を発展させたもの）の提出。
<b>試験のフィードバックの方法</b> レポートに関する相談は随時メールで受け付ける。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 発表担当回は十分に準備をしておくこと（約2時間以上） レポートは発表内容を発展させることが必要とされるため、発表担当回以外でも自主学習を心がけると良い（約30分）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 授業中に適宜指示する。
<b>オフィスアワー</b> 金曜2限。質問は随時メールで受け付ける。
<b>連絡先</b> miyuki.egs@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

中世文学演習ⅠⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	33130	科目ナンバリング	230B3-3400-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	田仲 洋己				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
『新古今和歌集』に収められた個別の和歌作品について、中世以来の諸注釈書の見解を参看しつつ、その表現の組立てや配列の問題等に留意しながらなるべく精密に読み解く。					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	注釈書を参看しての古典和歌の読解の方法を習得し、実行することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	新古今時代の和歌の表現の在り方について理解を深め、それを言語化することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	発表もしくはレポートの内容に対する評価(70%程度)			1/2	
2	授業中の態度や質疑応答の内容等による平常点(30%程度)			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1	演習要領説明				
2	『新古今和歌集』概要				
3	『新古今和歌集』の成立経緯				
4	新古今時代の和歌文学史				
5	『新古今和歌集』の主要歌人				
6	『新古今和歌集』の配列				
7	『新古今集』四季歌の世界				
8	『新古今集』春上を読む				
9	『新古今集』春下を読む				
10	『新古今集』夏を読む				
11	『新古今集』秋上を読む				
12	『新古今集』秋下を読む				
13	『新古今集』冬を読む				
14	『新古今集』賀を読む				
15	『新古今集』哀傷を読む				

<b>定期試験</b> 発表の内容、授業中の態度・発言等を総合的に勘案して評価する。学期中に最低1回は発表を担当することを、単位認定の条件とする。発表の順番が回らなかった場合には、学期末にレポートを課す。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 授業時の質疑応答を通じて対応する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 『新古今集』全巻について、事前に通し目を通して置くこと。利用しやすい注釈書を手もとに置いて、必要に応じて随時読み返すことを心がけたい。『新古今集』の注釈書は数多いが、久保田淳訳注『新古今和歌集』上下（角川ソフィア文庫）が、現在の研究水準を示す至便の書である。各回の発表者については、関連する資料や注釈書の記事を図書館等で閲覧、コピーした上で発表資料を作成し、発表内容を整理して置くことが求められるので、十分な事前準備のための時間が必要である。
<b>必携書（教科書販売）</b> 特に定めない。
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> <参考書等> 久保田淳訳注『新古今和歌集』上下（角川ソフィア文庫）
<b>オフィスアワー</b> 質問は授業終了後に受け付ける。メールの利用も可。
<b>連絡先</b> kurisuke-hamham@nifty.com（担当講師自宅アドレス）
<b>留意事項</b> 『新古今集』全巻を読み通すこと自体が授業の目的ではないので、その点は諒解して置いてほしい。



近代文学演習Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	33320	科目ナンバリング	230B3-3400-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	山根 知子				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
夏目漱石および武者小路実篤の中編～長編小説をテキストとして読解を深める。各自が選定した作品を履修者全員で論じる読書会を通じて、発表の論点を定める力を習得する。口頭発表では、発表者は作品分析のテーマと方法を定め、自己の新見を展開する研究発表を行うことを試みる。さらに期末には、その発表レジュメについて、考察をより深めて改善する力を身につけ、推敲を行ない完成度を増した段階に到達することをめざす。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	作品から問題点を見出して研究テーマを設定し、的確な分析方法を用いて新たな作品論を展開することができる。他者の見解に対する問題点を指摘しながら独自の作品論を確認することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	作品から問題点を見出して研究テーマを設定し、的確な分析方法を用いて新たな作品論を展開することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	先行研究を的確に用いて自らの論の強調点や新しさを主張できる。			思考・判断・表現力/主体性	
4	説得力のある論文の書き方を修得し、自らの論を完成できる。			思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の質疑応答・討論での発言：20%			1	
2	口頭発表：40%			1/2/3/4	
3	期末提出の発表レジュメ：40%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 作家の問題や、作品の流れの概要・特質について講義し、演習授業の進め方について説明					
2 各自が発表する作品および日程を決定 ※作品選定は、受講者の人数・日程を考慮したうえで各自の希望にも応じる。					
3 作品分析方法について説明					
4 担当者による中間発表と全員による読書会(1)					
5 担当者による中間発表と全員による読書会(2)					
6 担当者による中間発表と全員による読書会(3)					
7 担当者による中間発表と全員による読書会(4)					
8 作品論発表と討論(1)					
9 作品論発表と討論(2)					
10 作品論発表と討論(3)					
11 作品論発表と討論(4)					
12 作品論発表と討論(5)					
13 作品論発表と討論(6)					
14 発表レジュメ作成についての指導					
15 文章推敲についての指導					

<p><b>定期試験</b> 口頭発表終了後に改善し推敲・完成させたレジュメを提出すること。</p>
<p><b>試験のフィードバックの方法</b> 授業中のコメントのほか、必要に応じて個人的にフィードバックする。</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の「担当者による中間発表と全員による読書会」および「作品論発表と討論」では、毎時間取り扱う中編～長編小説がそれぞれ設定されているので、計画性をもって必ず読んでおくことが必要となる。</li> <li>・その際、全員、毎授業にて自分の着眼点や読解した内容を述べてもらうので、その準備となる予習をしておくこと。担当者は自身の発表後、その発表時に受けたアドバイスにより修整を加える復習をするなど、それぞれ約1時間の予習・復習をすること。</li> <li>・期末提出物の提出前の授業では、提出物の作成指導と確認を行うので、実際に発表レジュメを作成して持参すること。</li> </ul> </p>
<p><b>必携書（教科書販売）</b></p>
<p><b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 文庫本（授業で扱う作品が決定してから各自で文庫本購入）</p>
<p><b>オフィスアワー</b> 水曜日5時限。その他、随時メールによる質問にも応じる。</p>
<p><b>連絡先</b> t-yamane@m.ndsu.ac.jp</p>
<p><b>留意事項</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・後期の「近代文学演習Ⅱ」へとつながる一連の授業であるため、内容的には通して履修することが望ましいが、前期の「Ⅰ」のみの履修も可能とする。</li> <li>・取り扱うことが決定した作品は、必ず読んでから授業に臨むこと。</li> <li>・発表者は、担当日の一週間前にレジュメを提出・配布すること。</li> <li>・発表者以外は、一週間前に受け取ったレジュメによって予習し、発表者への評価と自己の読解を用紙に記入してこること。</li> <li>・発表者は、発表時に手続き・内容において不十分だった場合、翌週に補正分のレジュメを提出すること。</li> </ul> </p>

近代文学演習ⅠⅠⅠ		単位数	2単位
授業コード	33340	科目ナンバリング	230B3-3400-o2
開講年度学期	2023年度第1期		
担当者氏名	長原 しのぶ		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)			
本授業の概要			
村上春樹の中篇～長編小説をテキストとして読解を深める。各自が選定した作品を履修者全員で論じる討論会を通じて、発表の論点を定める力を習得する。口頭発表では、発表者は作品分析のテーマと方法を定め、新しい視点を展開する研究発表を行うことを試みる。期末には、発表を論文構成に従った資料(レジュメ)にまとめる力を身に付ける。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	他者の見解に対する問題点について論理的に指摘することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	作品から問題点を見出して研究テーマを設定し、的確な分析方法を用いて新たな作品論を展開することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	先行研究を的確に用いて自分の論の強調点や新しさを主張できる。	思考・判断・表現力/主体性	
4	説得力のある論文の書き方を習得し、自分の論を構成できる。	思考・判断・表現力/主体性	
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業中の質疑応答とコメント用紙の提出：20%	1/2	
2	口頭発表：40%	2/3	
3	期末提出の発表レジュメ：40%	2/3/4	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1 インTRODクション(作家の問題・作品の流れと特徴について講義し、授業の進め方を説明)			
2 各自が発表する作品および日程を決定			
3 作品分析方法と発表レジュメ作成について			
4 中間発表と読書会(1)			
5 中間発表と読書会(2)			
6 中間発表と読書会(3)			
7 中間発表と読書会(4)			
8 中間発表と読書会(5)			
9 作品論発表と討論(1)			
10 作品論発表と討論(2)			
11 作品論発表と討論(3)			
12 作品論発表と討論(4)			
13 作品論発表と討論(5)			
14 作品論発表と討論(6)			
15 全体構成と発表レジュメについての指導			
* 作品選定は、受講者の人数と日程を考慮したうえで各自の希望にも応じる。			

<b>定期試験</b> 口頭発表後に改善し推敲の上で完成させたレジュメの提出
<b>試験のフィードバックの方法</b> 必要に応じて個人的にフィードバックする。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 授業の「中間発表」と「作品論発表」では、毎授業取り扱う中篇～長編作品がそれぞれ設定されている。計画性をもって必ず読んでおくこと。（約3時間） 発表のある授業では発表者以外にも自分の着眼点や読解した内容を述べてもらうので、その準備となる予習をしておくこと。（約1時間） 自分の発表後は発表時に受けたアドバイスにより修正を加える復習をすること。（約1時間）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 〈必携書〉 授業で扱う作品が決定したら各自で文庫本を購入する。授業中に指示する。
<b>オフィスアワー</b> オフィスアワー：水曜日の3時限
<b>連絡先</b> （長原）nagahara@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> II期の「近代文学演習VI」へとつながる一連の授業であるため、内容的には通して履修することが望ましいが、I期の「III」のみの履修も可能。 取り扱うことが決定した作品は、必ず読んでから授業にのぞむこと。 発表者は、担当日の前にレジュメを提出すること。（提出方法は授業内で指示）

日本語学特講 I				単位数	2単位
授業コード	34010	科目ナンバリング	230B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第 1 期
担当者氏名	尾崎 喜光				
時間割備考					
授業形態 (主)	1 講義				
授業形態 (副)					
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
<p>一口に日本語と言っても様ではない。特に日常の話し言葉においては、性差、年齢差、地域差等の多様性が顕著に認められる。言葉の多様性には、言語使用場面と連動する面もある。すなわち、相手や状況によっても使う表現は異なる。敬語の使い分けはその典型であるが、共通語化の過程における方言と共通語の使い分けもそうした現象の一つである。こうした多様性を持ちながら、日本語は現在も変化し、動態を示している。言葉の変化・動態には、社会全体としてのレベルだけでなく、個人のレベルにおいても「加齢変化」として認められる。以上は言語使用における多様性であるが、言語意識にも多様性が認められる。ある地域ではごく普通の表現であっても、別の地域の人にとっては特別なニュアンスで感じられる場合もある。言語行動については異言語間でも同様の現象が認められる。本授業では、講師自身がこれまでたずさわった調査研究の中から、こうした現象に関する研究成果を紹介する。履修者は、話し言葉を中心とする日本語の多様性と動態に関する知識を修得する。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本語の多様性と動態について理解し説明できる			知識・技能	
2	身の回りに存在する日本語の多様性と動態を意識化できる。			思考・判断・表現力/主体性	
3	意識化した現象について自ら調査し分析できる。			主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への参加姿勢 (出席) : 10%			1/2	
2	毎授業後に行なう小テスト : 20%			1	
3	レポート : 70%			2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第 1 回 言葉の男女差 (1) -概説- 第 2 回 言葉の男女差 (2) -実態調査の紹介- 第 3 回 言葉の男女差 (3) -依頼表現の述部- 第 4 回 敬語の使い分け (1) -「学校の中の敬語」調査から- 第 5 回 敬語の使い分け (2) -「東京調査」から- 第 6 回 敬語の使い分け (3) -「岡崎調査」から- 第 7 回 方言と共通語化 第 8 回 方言と共通語の使い分け (1) -1970年代の各種調査から- 第 9 回 方言と共通語の使い分け (2) -「鶴岡調査」から- 第 10 回 日本語の動態 (1) -全国多人数調査から：音声- 第 11 回 日本語の動態 (2) -全国多人数調査から：授受表現 (1) - 第 12 回 日本語の動態 (3) -全国多人数調査から：授受表現 (2) - 第 13 回 言葉の加齢変化 (1) -オジサン言葉- 第 14 回 言葉の加齢変化 (2) -親言葉- 第 15 回 対人意識と言語行動に関する日韓対照					

<b>定期試験</b> レポート（調査レポート）
<b>試験のフィードバックの方法</b> 研究室にて個別に伝える。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 積み上げ式の授業であるため、その日の授業の復習が次回の授業の予習にもなる。おおむね1時間。
<b>必携書（教科書販売）</b> なし。
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> なし。
<b>オフィスアワー</b> 水曜日2限。事前予約の上来てほしい。
<b>連絡先</b> yozaki@post.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 毎回授業の最後に、その回の確認テスト（小テスト）を行なう。 遅刻時間の長短にかかわらず、遅刻2回で欠席1回とみなす。ただし、公共交通機関の遅延など本人の責めに帰することができない理由による遅刻は、遅延証明書添付でその旨の申告があった場合に限り遅刻扱いにしない。 レポートは、授業で学んだことを参考にして、簡単でかまわないので、「言葉の多様性」や「日本語の動態」等について実際に自分で調査してまとめるタイプのものとする。単に本をまとめるだけではいけない。テーマは任意とする。対象は話し言葉でも書き言葉でもかまわない。レポートの提出締め切りは8月上旬頃を予定する。したがって、授業期間中に着手しないと間に合わない恐れがある。

日本語学講読ⅠⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	34100	科目ナンバリング	230B2-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	星野 佳之				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
『あゆひ抄』(富士谷成章著)を講読し、その記述を検証する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	『あゆひ抄』の読解をもとに、日本語の文法構造について理解を深める。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	『あゆひ抄』の検証を通して、証歌の解釈を实践し、その方法について理解を深める。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の課題に30点を配当する。			1/2	
2	期末レポートの作成を課す。これに70点を配当する。			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 イン트로ダクション(1)					
第2回 イン트로ダクション(2)					
第3回 イン트로ダクション(2)					
第4回 講読1					
第5回 講読2					
第6回 講読3					
第7回 講読4					
第8回 講読5					
第9回 講読6					
第10回 講読7					
第11回 講読8					
第12回 講読9					
第13回 講読10					
第14回 講読11					
第15回 まとめ					
定期試験					

<p><b>定期試験</b> 定期試験として、期末レポートを課す。</p>
<p><b>試験のフィードバックの方法</b> 適宜。</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 必要な内容について各自判断し、必要十分に行うこと。</p>
<p><b>必携書（教科書販売）</b></p>
<p><b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 『あゆひ抄新注』（ISBN 978-4759901719 中田祝夫、竹岡 正夫、風間書房）を、以下などを参考にして各自で購入してください。</p> <p>Amazon  <a href="https://www.amazon.co.jp/%E3%81%82%E3%82%86%E3%81%B2%E6%8A%84%E6%96%B0%E6%B3%A8-%E4%B8%AD%E7%94%B0%E7%A5%9D%E5%A4%AB/dp/475990171X/ref=sr_1_2?__mk_ja_JP=%E3%82%AB%E3%82%BF%E3%82%AB%E3%83%8A&amp;crd=31JN65MPE045J&amp;keywords=%E3%81%82%E3%82%86%E3%81%B2%E6%8A%84%E6%96%B0%E6%B3%A8&amp;qid=1680593161&amp;spre%20fix=%E3%81%82%E3%82%86%E3%81%B2%E6%8A%84%E6%96%B0%E6%B3%A8%20Caps%2C191&amp;sr=8-2">https://www.amazon.co.jp/%E3%81%82%E3%82%86%E3%81%B2%E6%8A%84%E6%96%B0%E6%B3%A8-%E4%B8%AD%E7%94%B0%E7%A5%9D%E5%A4%AB/dp/475990171X/ref=sr_1_2?__mk_ja_JP=%E3%82%AB%E3%82%BF%E3%82%AB%E3%83%8A&amp;crd=31JN65MPE045J&amp;keywords=%E3%81%82%E3%82%86%E3%81%B2%E6%8A%84%E6%96%B0%E6%B3%A8&amp;qid=1680593161&amp;spre%20fix=%E3%81%82%E3%82%86%E3%81%B2%E6%8A%84%E6%96%B0%E6%B3%A8%20Caps%2C191&amp;sr=8-2</a></p> <p>日本の古本屋  <a href="https://www.kosho.or.jp/products/list.php?transactionid=97360231caf6def07e87321faa6f90a1be7e480e&amp;mode=search&amp;search_only_has_stock=1&amp;search_word=%E3%81%82%E3%82%86%E3%81%B2%E6%8A%84%E6%96%B0%E6%B3%A8">https://www.kosho.or.jp/products/list.php?transactionid=97360231caf6def07e87321faa6f90a1be7e480e&amp;mode=search&amp;search_only_has_stock=1&amp;search_word=%E3%81%82%E3%82%86%E3%81%B2%E6%8A%84%E6%96%B0%E6%B3%A8</a></p>
<p><b>オフィスアワー</b> 火曜3限。 質問等面談を希望する場合は、以下のメールアドレスにてアポイントを取ること。</p>
<p><b>連絡先</b> hoshino_yoshiyuki@m.ndsu.ac.jp</p>
<p><b>留意事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国立国語研究所のコーパスWebアプリ『中納言』の利用が必須。受講する場合は利用申請を行うこと。  <a href="https://chunagon.ninjal.ac.jp/auth/login?service=https%3A%2F%2Fchunagon.ninjal.ac.jp%2Fj_spring_cas_security_check">https://chunagon.ninjal.ac.jp/auth/login?service=https%3A%2F%2Fchunagon.ninjal.ac.jp%2Fj_spring_cas_security_check</a></li> <li>● 受講者は必ず、初回までにNサポとマナパフォリオのリマインダー機能を使用可能な状況にしておくこと。</li> </ul>



日本語学演習ⅠⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	34190	科目ナンバリング	230B3-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	星野 佳之				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
現代日本語の語彙について、意義の記述を試みる。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	意味論的問題にどのようなものがあるのが理解する。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	語の意味について、言語事実に基づいて記述できるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	みずから意味論的問題を発見し、考察できるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の課題に30点を配当する。			1/2/3	
2	期末レポートの作成を課す。これに70点を配当する。			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 インタロダクション(1)					
第2回 インタロダクション(2)					
第3回 インタロダクション(2)					
第4回 受講者による発表1					
第5回 受講者による発表2					
第6回 受講者による発表3					
第7回 受講者による発表4					
第8回 受講者による発表5					
第9回 受講者による発表6					
第10回 受講者による発表7					
第11回 受講者による発表8					
第12回 受講者による発表9					
第13回 受講者による発表10					
第14回 受講者による発表11					
第15回 まとめ					
定期試験					

<b>定期試験</b> 定期試験として、期末レポートを課す。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 適宜。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 必要な内容について各自判断し、必要十分に行うこと。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> なし
<b>オフィスアワー</b> 火曜3限。 質問等面談を希望する場合は、以下のメールアドレスにてアポイントを取ること。
<b>連絡先</b> hoshino_yoshiyuki@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> ●国立国語研究所のコーパスWebアプリ『中納言』の利用が必須。受講する場合は利用申請を行うこと。 <a href="https://chunagon.ninjal.ac.jp/auth/login?service=https%3A%2F%2Fchunagon.ninjal.ac.jp%2Fj_spring_cas_security_check">https://chunagon.ninjal.ac.jp/auth/login?service=https%3A%2F%2Fchunagon.ninjal.ac.jp%2Fj_spring_cas_security_check</a> ●受講者は必ず、初回までにNサポとマナバフォリオのリマインダー機能を使用可能な状況にしておくこと。

対照言語学 I		単位数		2単位	
授業コード	35000	科目ナンバリング	230B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第 1 期
担当者氏名	青井 由佳				
時間割備考					
授業形態 (主)	1 講義				
授業形態 (副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
対照言語学の基本的な考え方や研究方法について理解する。授業では、各自が担当言語を決め、課題を通してそれぞれの言語について理解を深める。そして、それぞれの言語との比較対照を通して、言語間の類似点や相違点、日本語の特徴についても考察する。					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	対照言語学の目的や歴史、研究方法に関する知識を持つ。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	音声面、語彙面、文法面等、どのポイントからどのような視点を持って言語間の違いを意識化すればよいのかを理解し、実践できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	レポート : 40%			1/2	
2	課題、提出物 : 30%			1/2	
3	授業への参加姿勢 : 30%			1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第 1 回 オリエンテーション					
第 2 回 対照言語学とは何か?					
第 3 回 対照言語学の歴史					
第 4 回 言語体系の対照 (1) - 音構造					
第 5 回 言語体系の対照 (2) - アクセント・声調					
第 6 回 言語体系の対照 (3) - 文字表記					
第 7 回 言語体系の対照 (4) - 文法 - 語順					
第 8 回 言語体系の対照 (5) - 文法 - 名詞文					
第 9 回 言語体系の対照 (6) - 文法 - 形容詞文					
第 10 回 言語体系の対照 (7) - 文法 - 動詞文					
第 11 回 語彙 (1) - 人称					
第 12 回 語彙 (2) - 数体系 助数詞					
第 13 回 担当言語についての発表 (1)					
第 14 回 担当言語についての発表 (2)					
第 15 回 まとめ					

定期試験 レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）毎回の授業で、次回までに調べておく課題を出す。他の受講生に説明できるようにきちんと調べてくること。 （復習）授業で聞いた他言語の例などもふまえて、各自の担当言語についての理解を深めてください。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考書等> ・各自の担当言語に関する書籍（授業で指示する）
オフィスアワー 質問等はメールでも受け付ける。
連絡先 alamakboleh@gmail.com（@を@に変更のこと） s8277@m.ndsu.ac.jp（@を@に変更のこと）
留意事項 授業の開始時に外国語ができる必要はない。 ただし、未習の外国語への積極的な姿勢は必須。  各自が調べたことをgoogle sheetなどを使用して共有します。google classroomに入れるようにしておくこと。 レポート提出の際などにmanabaを利用します。manabaを利用できる環境にしておくこと。 受講生の人数、特性などにより内容を変更する場合があります。

漢文学 I					単位数	2単位
授業コード	35100	科目ナンバリング	230B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第 1 期	
担当者氏名	橘 英範					
時間割備考						
授業形態 (主)	1 講義					
授業形態 (副)						
担当形態	単独					
研究分野 (大学院)						
本授業の概要						
この講義は、中国古典文学の概説の授業です。前半は、中国の古典文学の主な特色について、日本など他の国の文学とも比較しながら、説明を加えていきます。後半は、中国古典詩の大まかな流れについて説明します。						
アクティブラーニングの実施内容						
到達目標					対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	中国の古典文学と古典詩の基本的な特徴について説明できます。				知識・技能	
2	身につけた知識を他の作品の読解に応用できます。				知識・技能/思考・判断・表現力	
3						
4						
5						
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	課題：20%				1	
2	期末試験：80%				1/2	
3						
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目						
実務経験の授業への活用方法						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
1 ガイダンス・中国古典文学の特色 1-継続性						
2 中国古典文学の特色 2-現実性						
3 中国古典文学の特色 3-政治性						
4 中国古典文学の特色 4-非恋愛性 1						
5 中国古典文学の特色 5-非恋愛性 2						
6 中国古典文学の特色 6-規範性						
7 中国古典詩の流れ 1-毛詩と楚辞						
8 中国古典詩の流れ 2-古詩と古楽府						
9 中国古典詩の流れ 3-三国六朝の詩 1						
10 中国古典詩の流れ 4-三国六朝の詩 2						
11 中国古典詩の流れ 5-初盛唐の詩 1						
12 中国古典詩の流れ 6-初盛唐の詩 2						
13 中国古典詩の流れ 7-中晩唐の詩 1						
14 中国古典詩の流れ 8-中晩唐の詩 2						
15 中国古典詩の流れ 9-宋以後の詩						

定期試験
定期試験
試験のフィードバックの方法
非常勤講師ですので、個別の対応ということにさせていただきます。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
外国の文学に関する講義の授業ですので、特に予習は必要ありませんが、毎回の授業内容を常に日本や他の国の文学と比較しながら受講し、自ら視野を広げてください。また、授業の復習としても、日本や他の国の文学と比較して、考察を深めてください。
必携書（教科書販売）
教科書は使用しません。
必携書・参考書（教科書販売以外）
<必携書> プリントを配布します。
<参考書等> 講義の中で適宜紹介します。
オフィスアワー
質問はメールで受け付けます。
連絡先
tachiban@cc.okayama-u.ac.jp
留意事項
課題を2回出題する予定です。

日本語表現法 I				単位数	2単位
授業コード	35310	科目ナンバリング	230B1-3000-o2	開講年度学期	2023年度第 1 期
担当者氏名	伊木 洋				
時間割備考					
授業形態 (主)	1 講義				
授業形態 (副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
本授業では、コンポジション理論を基礎として文章を書くための知識と方法を学び、グループワークによる紹介文集の作成を通して、大学生として、社会人として、さらに中学校・高等学校国語科教師として求められる文章表現力及び音声言語活用能力の向上を図るとともに、国語科教育における「書くこと」の学習指導法を身につける。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	文章を書くための知識と方法を実践的に学び、文章表現課題を書いて発表することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	文字言語及び音声言語による表現活動として、紹介文集を作成することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への参加姿勢・学習記録 (30%)			1/2	
2	提出課題・文章表現課題 (40%)			1	
3	成果課題 (文集作成) への取り組み・内容 (30%)			2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
国語科教員として「書くこと」の教育実践に携わった経験に基づいて、書くことの具体的な場を設定し、文章を書くための知識と方法を実践的に指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 書くことの生活自己点検 2 文章表現の基本 3 定義する 4 描写する 5 説明する 6 論証する 7 物語る 8 聞き書き 9 書き出しの工夫 10 編集会議(1) (企画案の検討 グループワーク) 11 編集会議(2) (取材計画の検討 グループワーク) 12 編集会議(3) (企画案・取材計画の発表 グループワーク) 13 編集会議(4) (取材に基づく原稿作成 グループワーク) 14 編集会議(5) (原稿の校正・編集 グループワーク) 15 文集作成の振り返り					

<p>定期試験</p> <p>成果課題（文集原稿），レポート，学習記録の提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>成果課題（文集原稿），レポート，学習記録についてコメントする。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>言語表現課題に即して，取材・選材，構成，記述，推敲，交流等の表現活動に積極的に取り組むこと。（30時間）          学び得た知識と方法を生かして，成果課題に主体的・協働的に取り組むこと。（30時間）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>&lt;必携書&gt;</p> <p>『大学生のための文章表現入門』，2002年，ISBN978-4-915442-28-5，速見博司，蒼丘書林          『ことばの授業づくりハンドブック 中学校・高等学校「書くこと」の学習指導 実践史をふまえて』，2016年，ISBN978-4-86327-340-5 浜本純逸監修 田中宏幸編，溪水社</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>&lt;参考書等&gt;</p> <p>『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』，2018年，ISBN978-4-491-03470-6，文部科学省，東洋館出版社          『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編』，2019年，ISBN978-4-491-03640-3，文部科学省，東洋館出版社          『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』，2019年，ISBN978-4-491-03767-7，全国大学国語教育学会編，東洋館出版社          『大村はま国語教室 第5巻 書くことの計画と指導の方法』，1983年，大村はま，筑摩書房</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>オフィスアワー：火曜日4限。随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先</p> <p>higi@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>言語表現の学びにふさわしい主体的な学びの姿勢で受講すること。          「日本語表現法Ⅱ」を継続して履修することが望ましい。          教職必修（中学校・高等学校国語）の授業であり，主として「書くこと」の学習指導についての学びも深める。          毎時間の自己評価を記述し，提出すること。          課題への取り組みを充実させ，期限を厳守して提出すること。          学びのすべてを学習記録に整理し，提出すること。</p>



日本書法史	35350	科目ナンバリング	230B1-2300-o2	開講年度学期	2023年度第1期	単位数	2単位
授業コード	家入 博徳						
担当者氏名							
時間割備考							
授業形態 (主)	1 講義						
授業形態 (副)							
担当形態	単独						
研究分野 (大学院)							
本授業の概要	日本における書の変遷をたどる。文字の伝来以降、書の文化展開を時代思潮や政治、文化などに関わらせつつ学ぶ。						
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク						
到達目標						対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本書法史上の主要な人物、作品について理解し、説明できる。					知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	図版の文字や異体仮名などを理解し、読解できる。					知識・技能/主体性	
3	書法用語について理解し、使用できる。					知識・技能/主体性	
4							
5							
成績評価の基準						対応する到達目標の番号	
1	授業内試験 (70%)					1/2/3	
2	ワークシート・レポート (20%)					1/2/3	
3	受講態度・振り返りシート (10%)					1/2/3	
4							
5							
実務経験のある教員による授業科目	実務あり						
実務経験の授業への活用方法	高等学校の教員として書道教育に携わっていた経験に基づいて、書の歴史への理解を促すとともに、書の見方・考え方を広げ深められる指導をする。						
日本語以外の言語による授業							
授業予定一覧	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本書法史概説</li> <li>2. 文字の伝来、日本書の萌芽</li> <li>3. 平安期の書①三筆の書 I</li> <li>4. 平安期の書②三筆の書 II</li> <li>5. 平安期の書③三跡の書 I</li> <li>6. 平安期の書④三跡の書 II</li> <li>7. 平安期の書⑤和歌の書</li> <li>8. 平安期の書⑥物語の書</li> <li>9. 鎌倉期の書①冷泉家の書</li> <li>10. 鎌倉期の書②書流の形成と書</li> <li>11. 室町期の書・書状の書</li> <li>12. 江戸期の書①和様の書</li> <li>13. 江戸期の書②唐様の書</li> <li>14. 近代・現代の書</li> <li>15. まとめ、授業内試験</li> </ol>						

<b>定期試験</b> 授業内試験、ワークシート・レポート課題
<b>試験のフィードバックの方法</b> 試験終了後、試験の概要を説明する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 毎回授業の内容を振り返り、基礎的な知識の習得に努めること（約2時間）
<b>必携書（教科書販売）</b> 書道テキスト第3巻日本書道史、大東文化大学書道研究所編、二玄社 『書Ⅱ』、『書Ⅲ』、教育図書（新二年生のみ）
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 『書Ⅰ』、『書Ⅱ』、『書Ⅲ』、教育図書 『書の古典と理論 改訂版』、全国大学書道学会編、光村図書出版
<b>オフィスアワー</b> 火曜日3限
<b>連絡先</b> ieiri@post.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 【教職免（書道）必修】 【受講条件】第1週目に授業の説明をするため、必ず出席すること。テキストは各自で用意すること。 【発展科目】2期開講「中国書法史」も履修することが望ましい。 【その他】展示内容によっては、近隣の美術館、博物館等での鑑賞学習あり。 隔年開講講座

文学創作論ⅠⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	35400	科目ナンバリング	230B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	山根 知子				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
小説を中心とした創作に挑戦し、実践を通して創作の基本を掴み、自分なりの自己表現として、創作の手段を身につけることをねらいとする。その際、朗読の勉強を同時に行うことで言語感覚を磨き、特別講義講師水野智晴氏より朗読指導を受け、豊かな表現力を養う。創作実践においては、特別講義講師の作家村田喜代子氏より創作指導を受け、創作の質を高める。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	朗読の基本を自分なりに身につけ発表できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	創作の基本を自分なりに身につけ発表できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	言語感覚をとぎすまし、文学表現によって、自分が最も表現したいことは何なのかという自らの内面についての気づきを得ながら、自分らしい表現手段を獲得できる。			思考・判断・表現力/主体性	
4	他者の作品について、自らの価値観から評価することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
5	他者からの評価に対応して自らの判断力をもって推敲ができ、完成度を増して上げることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業態度(合評・練習態度等): 30%			1/2/3/4/5	
2	朗読: 30%			1/3/4/5	
3	完成させた創作作品: 40%			2/3/4/5	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
特別講義講師である水野智晴氏は、岡山において文学作品の朗読をする「朗読塾」を結成し長年朗読公演を行っている。その経験から朗読指導をいただくことで、基礎を踏まえて深い作品解釈による自分らしい朗読ができるようになる。					
特別講義講師である村田喜代子氏は、1987年に第97回芥川賞を受賞、2019年に第55回谷崎潤一郎賞、2021年に第49回泉鏡花文学賞を受賞し、今日に至るまでの長年の小説創作および出版経験の蓄積があるうえに、小説創作および文章表現の指導の経験も豊富な作家である。村田喜代子氏には、「文学創作論Ⅲ」「文学創作論Ⅳ」を通して、学生が創作した作品を読み、授業で講評していただくことで、一人ひとりの長所短所の指摘や個性を伸ばす方向で推敲し完成度を増していくためのアドバイスにより、作品を完成し自信をもって公表できるようになる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. イントロダクション 2. 朗読についての話し合い 3. 朗読練習 4. 水野智晴氏による朗読技術についての講義 5. 朗読練習と音源収録仮提出と合評 6. 水野智晴氏による個別朗読指導 7. 朗読完成版本提出・発表 8. エッセイ執筆・発表 9. 創作執筆・発表 10. 合評会(1) 11. 合評会(2) 12. 合評会(3)・合評記録まとめ 13. 作家・村田喜代子氏による作品講評と創作指導(7月1日(土)2限) 14. 作家・村田喜代子氏による作品講評と創作指導(7月1日(土)3限) 15. 前期創作作品完成版提出 夏休み課題の確認と開始					

<p>定期試験 朗読収録音源および創作作品提出</p>
<p>試験のフィードバックの方法 作品を完成させる過程での合評会の際にフィードバックする。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・この授業では、教員および学生同士の伝達、また創作課題の提出および閲覧・印刷の指示等、あらゆる場面で、manaba を利用する。常にmanaba 上での指示に対応して、授業の進行に応じて行動してほしい。 ・創作作品提出日が示されたら、数週間をかけて作品を完成させ、自分の作品に対する合評でアドバイスを受けたら、次の授業までに推敲をすること。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） 授業中に適宜紹介する。</p>
<p>オフィスアワー 水曜日5時限。その他、随時メールでの質問にも応じる。</p>
<p>連絡先 t-yamane@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ・「文学創作論Ⅳ」を継続履修することが望ましい。 ・定員15名とする。初回の授業で履修登録可能な学生を確認して履修者の確定をする。定員超過の場合には初回の授業で抽選を行うので、必ず出席し、その結果に応じた履修登録をすること。 ・通常の時間割以外の授業日として、授業予定一覧に日程の記載があるように、土曜日に特別講師による授業を行うので、初回の授業前にその土曜日の授業に出席可能であることを確認しておくこと。</p>

書道卒業制作				単位数	4単位
授業コード	35600	科目ナンバリング	230B3-4000-o4	開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期
担当者氏名	家入 博徳				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	3 実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>大学で学び培った書表現・書理論を集大成させた作品を、これまでの学びを元に自らの力によって制作する。書の意義について総合的に理解し、表現力・鑑賞力を高める。学年末に学科主催による「書道卒業制作展」を自らの力で企画・運営する。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	書の意義について総合的に理解し、自らの力で表現・鑑賞ができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	履修者全員の協働によって書道卒業制作展を自らの力で開催できる。			主体性	
3	履修者全員の協働によって所感文集を自らの力で発行できる。			主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	作品 (50%)			1	
2	書道卒業制作展企画・運営、所感文集 (30%)			2/3	
3	受講態度・振り返りシート (20%)			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
高等学校の教員として書道教育に携わっていた経験に基づいて、表現を構想・工夫した創造的な作品制作を実践できる指導をする。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>下記はモデル・プラン。          &lt;制作予定作品&gt;          ①半切×2          ②全紙          ③漢字仮名交じりの書もしくは仮名の書          ④一字書もしくは少字数書          ⑤篆刻          ⑥岡山の文学をえがく</p> <p>(2~3月中旬 顔見世・事務引き継ぎ・役割分担・古典選択ほか)          1~4 ①作品制作 ①作品選別・押印 ①作品完成 裏打ち          5~6 ②作品制作          7~9 ②作品制作 (教育実習期間は集中実習日へ振替)          10~11 ②作品制作          12~14 ③作品制作          15 ②③作品選別・押印 ②③作品完成 裏打ち 和綴じ実習          16~17 ④作品制作          18~19 ⑤作品制作          20~22 ⑤作品制作 ポスター・案内状原稿作成・入稿          23 ④作品選別・押印          24~25 ⑥作品制作          26~27 ⑥作品選別・押印 ④⑤⑥作品完成 裏打ち 卒展準備 (所感文集版下作成・入稿ほか)          28~30 書道卒業制作展 (1~2月を予定) アンケート集計・作品集作成・教室・準備室等の整理整頓など</p>					

定期試験 実技課題、所感文集
試験のフィードバックの方法 課題を評価後、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回授業の内容を振り返り、改善点を見返しておくこと（約2時間）。
必携書（教科書販売） 『書Ⅰ』『書Ⅱ』『書Ⅲ』，教育図書 『書の古典と理論 改訂版』，全国大学書道学会編，光村図書出版
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考書等> 『角川書道字典』，伏見冲敬編，角川書店 その他の各種字典は書道準備室に配架
オフィスアワー 火曜日3限
連絡先 ieiri@post.ndsu.ac.jp
留意事項 ・漢字、仮名もしくは漢字仮名交じりの書、篆刻などの分野から臨書（模刻）・創作など、もともと取り組みたい作品各自7点程度（一字書もしくは少字数書等を含む）を制作する。 ・万一多数の場合の優先順位は、①書道科教育法の履修、②書の関係単位修得状況による。多くの場合、鑑賞作品には落款印を必要とするため、3年次後期「篆刻法」を履修していることが望ましい（ただし4年次後期に「篆刻法」履修をすることも可）。 ・費用：用具・用材等は自己負担。 ・出品点数や作品の大きさは履修者数と会場壁面を勘案して決定する。また、日程上、役割の引継ぎである3年次2～3月中旬の「顔見世」から始動する。 ・制作の進度によって、他の曜日（主に土曜）への振替、休暇中の集中実習日もしくは夏季合宿を設ける。

国語科教育法ⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	36020	科目ナンバリング	230B3-3000-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	伊木 洋				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
本授業では、学習指導理論を踏まえた多様な学習指導法を実践事例を通して探究するとともに、中学校及び高等学校学習指導要領国語科の目標及び内容を踏まえて、単元を構想し、学習指導案を作成する基本的な方法を学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	中学校及び高等学校学習指導要領に示された国語科の目標、育成を目指す資質・能力、学習内容について理解を深め、学習指導理論を踏まえて、具体的な実践事例に基づいて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基本的な能力を身に付ける。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への主体的な参加姿勢・学習記録 (30%)			1	
2	提出課題・レポート (40%)			1	
3	テスト (30%)			1	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
国語科教員として教育実践に携わった経験に基づいて、学習指導要領及び学習指導理論を踏まえ、具体的な実践事例を示して、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基本的な能力を指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 国語科教育の目標、内容、実践研究の動向					
2 学習指導法の研究 ( [知識及び技能] )					
3 学習指導法の研究 ( [思考力、判断力、表現力等] 「話すこと・聞くこと」)					
4 学習指導法の研究 ( [思考力、判断力、表現力等] 「書くこと」)					
5 学習指導法の研究 ( [思考力、判断力、表現力等] 「読むこと」)					
6 学習指導法の研究 (学習指導過程論)					
7 学習指導法の研究 (国語教育論争)					
8 学習評価の研究、テスト(1)					
9 教材研究、単元構想の理論と方法					
10 中学校学習指導案作成の方法 (学習者の実態の把握、目標、単元の指導と評価の計画)					
11 中学校学習指導案作成の方法 (本時案、本時目標、言語活動、評価、指導上の留意点)					
12 高等学校学習指導案作成の方法 (学習者の実態の把握、目標、単元の指導と評価の計画)					
13 高等学校学習指導案作成の方法 (本時案、本時目標、言語活動、評価、指導上の留意点)					
14 学校図書館・ICTの活用法、テスト(2)					
15 関連指導及び発展的な学習内容の探究					

<b>定期試験</b> テスト、学習記録・提出課題・レポートの提出。
<b>試験のフィードバックの方法</b> テスト・学習記録・提出課題・レポートについてコメントする。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 本学図書館の資料（伊木指定図書）を積極的に活用し、具体的な実践事例に幅広く目を通し、主体的に学びを深めること。（60時間）
<b>必携書（教科書販売）</b> <必携書> 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料中学校国語』、2020年、ISBN978-4-491-04132-2、国立教育政策研究所教育課程研究センター、東洋館出版社 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校国語』、2021年、ISBN978-4-491-047003、国立教育政策研究所教育課程研究センター、東洋館出版社 『中学校国語科学学習指導の創造』、2018年、ISBN978-4-86327-424-2、伊木洋、溪水社
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> <必携書> 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』、文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』、文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』、2018年、ISBN978-4-491-03470-6、文部科学省、東洋館出版社 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編』、2019年、ISBN978-4-491-03640-3、文部科学省、東洋館出版社 『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』、2019年、ISBN978-491-03767-7、全国大学国語教育学会編、東洋館出版社 <参考書等> 『豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造VI中学校編』、2010年、ISBN978-4-491-02596-4、日本国語教育学会監修、東洋館出版社 『豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造VII高等学校編』、2010年、ISBN978-4-491-02597-1、日本国語教育学会監修、東洋館出版社 『大村はま国語教室 全15巻 別巻1』、大村はま、筑摩書房 『大村はま国語教室 全15巻別巻1 巻別内容総覧』、2013年、ISBN978-4-86327-226-2、橋本暢夫編、溪水社
<b>オフィスアワー</b> オフィスアワー：火曜日4限。随時メールで受け付ける。
<b>連絡先</b> higi@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 教職課程履修生にふさわしい在り方で受講すること。 国語教室の創造に向けて、自己の教育・国語教育観の確立を目指すこと。 毎時間の自己評価を記述し、提出すること。 課題への取り組みを充実させ、期限を厳守して提出すること。 学習のすべてを国語学習記録に整理し、提出すること。



書道科教育法Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	36100	科目ナンバリング	230B3-3000-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	家入 博徳				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
高等学校芸術科書道教育に関する理論と方法について、実技を交えながら概説する。学習指導要領の芸術科ならびに「書道」各科目の目標・内容・内容の取り扱いを検討し、さらに内容の指導事項、背景となる学問領域を理解して教材研究に活用し、学習評価および発展的な学習内容について探る。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	芸術科書道における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	発表・ワークシート (60%)			1	
2	レポート (20%)			1	
3	受講態度・振り返りシート (20%)			1	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
高等学校の教員として書道教育に携わっていた経験に基づいて、学習指導要領に基づいて教材を分析し、指導計画の作成ができるよう指導をする。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 国語科書写から芸術科書道へ、学習指導要領の目標・内容・全体構成 (1) 「書道Ⅰ」について					
2 学習指導要領の目標・内容・全体構成 (2) 「書道Ⅱ」について					
3 学習指導要領の目標・内容・全体構成 (3) 「書道Ⅲ」について					
4 表現と鑑賞、臨書と創作における評価について					
5 年間学習計画の立案 (1) 「書道Ⅰ」について					
6 年間学習計画の立案 (2) 「書道Ⅱ」について					
7 年間学習計画の立案 (3) 「書道Ⅲ」について					
8 指導事項・内容の調査発表 (1) 漢字仮名交じりの書「俳句・短歌」について					
9 指導事項・内容の調査発表 (2) 漢字仮名交じりの書「散文」について					
10 指導事項・内容の調査発表 (3) 漢字の書「楷書・行書」について					
11 指導事項・内容の調査発表 (4) 漢字の書「篆書・隸書・草書」について					
12 指導事項・内容の調査発表 (5) 仮名の書『高野切』について					
13 指導事項・内容の調査発表 (6) 仮名の書『三色紙』について					
14 表現と鑑賞、臨書と創作における評価についての再検討					
15 実践研究例について (1) 漢字仮名交じりの書の授業案について (2) は第2期第1回に)					
第8回から、各社の教科書教材・書道ⅠからⅢまでをグループごとに、調査・比較し、指導事項の内容を探り、レジュメを作成・発表する予定。					

<p>定期試験 発表、ワークシート、レポート課題</p>
<p>試験のフィードバックの方法 試験及び課題を評価後、返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回授業の内容を振り返り、学習指導要領・教材を分析し、発表できるようにしておくこと（約2時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売） ＜必携書＞ 『高等学校学習指導要領』（平成30年告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説・芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（平成30年7月 文部科学省） 『書Ⅰ』、『書Ⅱ』、『書Ⅲ』，教育図書</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p>
<p>オフィスアワー 火曜日3限</p>
<p>連絡先 ieiri@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 【教職免〈書道〉「教職に関する科目」必修】 【受講条件】①履修登録の際は、履修費を納入すること ②時間外学習を必要とする 【発展科目】2 期開講の「書道科教育法Ⅱ」も必修 【その他】教科書（書Ⅰ、書Ⅱ）は新学習指導要領対応のものを用意すること</p>

書法基礎					単位数	1単位
授業コード	36120	科目ナンバリング	230B4-1000-01	開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	家入 博徳					
時間割備考						
授業形態(主)	3 実験・実習・実技					
授業形態(副)						
担当形態	単独					
研究分野(大学院)						
本授業の概要						
書を学ぶための最初の段階として、基礎的な知識や表現技能の修得を図り、併せて古典を追体験して書美を理解する。「書写を含む」						
アクティブラーニングの実施内容						
		問題解決型学習				
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)		
1	書の基礎的な表現技法を理解し、表現できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
2	古典の美しさを理解し、字形・全体の構成を分析・表現できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
3	書の基礎的な表現技法を理解し、説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
4						
5						
成績評価の基準				対応する到達目標の番号		
1	毛筆課題 (70%)			1/2/3		
2	受講態度・振り返りシート・ワークシート (30%)			1/2/3		
3						
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目		実務あり				
実務経験の授業への活用方法						
高等学校の教員として書道教育に携わっていた経験に基づいて、表現技能の修得および書美の理解を促す指導をする。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
1 ガイダンス、磨墨法、姿勢、執筆法 2 楷書の基礎技能1 (用筆・運筆) 3 楷書の基礎技能2 (字形・全体の構成①) 4 楷書の基礎技能3 (字形・全体の構成②) 5 行書の基礎技能1 (用筆・運筆) 6 行書の基礎技能2 (字形・全体の構成) 7 草書の基礎技能1 (用筆・運筆) 8 草書の基礎技能2 (字形・全体の構成) 9 隷書の基礎技能1 (用筆・運筆) 10 隷書の基礎技能2 (字形・全体の構成) 11 篆書の基礎技能1 (用筆・運筆) 12 篆書の基礎技能2 (字形・全体の構成) 13 仮名の基礎技能1 (用筆・運筆) 14 仮名の基礎技能2 (字形・全体の構成) 15 まとめ、鑑賞 * 上記講義内容は、随時、中学書写と関連させつつ扱う(「書写を含む」)。						

<p>定期試験 実技課題、ワークシート</p>
<p>試験のフィードバックの方法 課題を評価後、返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回授業の内容を振り返り、改善点を見返しておくこと（約2時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売） 『書Ⅰ』，教育図書</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） &lt;参考書等&gt; 『書の古典と理論 改訂版』，全国大学書道学会編，光村図書出版 『角川書道字典』，伏見冲敬編，角川書店</p>
<p>オフィスアワー 火曜日3限</p>
<p>連絡先 ieiri@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 【教職免（書道）必修・（中学国語）選択】 【受講条件】第1週目に書道用具の説明、注文希望を確認するため必ず出席すること。なお、書道用具がある場合は持参すること。 【発展科目】2期開講「楷・行書法Ⅰ」。なお、教職免（中学国語）取得希望者は、1期開講「漢字仮名交じり書法Ⅰ」、3年次開講科目「書写法Ⅰ」（中学国語・必修）「硬筆書法」を履修することが望ましい。 【その他】展示内容によっては、近隣の美術館、博物館等での鑑賞学習あり。</p>

漢字仮名交じり書法Ⅰ				単位数	1単位
授業コード	36130	科目ナンバリング	230B4-1000-01	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	倉橋 肇、家入 博徳				
時間割備考					
授業形態(主)	3 実験・実習・実技				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
中国で生まれた漢字と日本で作られた仮名、それを混交させているのが現代の日本語の表記法である。漢字と仮名の調和をことばや詩文を題材として学び、理解を深める。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	漢字と仮名の基本的な調和について、その要点を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	身近の書に関心を持ち、表現する力を体得する。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	提出課題 (80%)			1/2	
2	要点の理解度 (20%)			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
国語科教員として教育実践に携わっている経験に基づいて、学習指導要領及び基礎となる学習指導理論を踏まえて、学習者主体の授業設計を行うための基本的な考え方を指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎調査・用具発注</li> <li>2. 日本語表記の特徴</li> <li>3. 歴史上の表記方法</li> <li>4. 明治時代以降に見られる漢字仮名交じり書</li> <li>5. 漢字を基調とした漢字仮名交じり書①(楷書)</li> <li>6. 漢字を基調とした漢字仮名交じり書②(楷書)</li> <li>7. 漢字を基調とした漢字仮名交じり書③(行書)</li> <li>8. 仮名を基調とした漢字仮名交じり書①(太細)</li> <li>9. 仮名を基調とした漢字仮名交じり書②(連綿)</li> <li>10. 仮名を基調とした漢字仮名交じり書③(潤濁)</li> <li>11. 名文を書く①(俳句)</li> <li>12. 名文を書く②(和歌)</li> <li>13. 名文を書く③(和歌)</li> <li>14. 名文を書く④(古文)</li> <li>15. 名文を書く⑤(古文)</li> </ol>					

定期試験 課題提出
試験のフィードバックの方法 課題を評価後、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 改善点を見直しておくこと（約2時間）。
必携書（教科書販売） <必携書> 『書Ⅰ』， 關 正人ほか編， 教育図書
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考書等> 『書の古典と理論改訂版』， 全国大学書道学会編， 光村図書出版 配布プリント
オフィスアワー 授業の前後に教室で質問を受け付ける。
連絡先 s2033@m.ndsu.ac.jp
留意事項 【教職免（書道）必修】 【受講条件】定員あり 【発展科目】後期「仮名書法Ⅰ」、3年次「漢字仮名交じり書法Ⅱ」

書写法Ⅰ					単位数	1単位
授業コード	36180	科目ナンバリング	230B4-3000-o1	開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	家入 博徳					
時間割備考						
授業形態(主)	3 実験・実習・実技					
授業形態(副)						
担当形態	単独					
研究分野(大学院)						
本授業の概要						
国語科書写教育に関する理論と実践について、楷書・行書を中心に実技を交えながら概説する。文字を手書きすることの意義を踏まえ、書写指導のための基礎的な知識・技能および表現力を身に付ける。書写を中心とする。						
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習				
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)		
1	指導者としての自覚を持って、姿勢・執筆法を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
2	硬筆・毛筆の基本点画、構成を理解し、表現できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
3	書写の学習指導案を立案することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
4	書写用語を正確に把握し、使用できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
5						
成績評価の基準				対応する到達目標の番号		
1	毛筆課題 (40%)			1/2		
2	硬筆課題 (20%)			1/2		
3	学習指導案 (30%)			1/3/4		
4	受講態度・振り返りシート・ワークシート (10%)			1/2/3/4		
5						
実務経験のある教員による授業科目		実務あり				
実務経験の授業への活用方法						
高等学校の教員として書道教育に携わっていた経験に基づいて、書写に関する基礎的な知識・技能および表現力を身に付け、学習指導要領に基づいた指導計画・学習指導案の作成ができるように指導をする。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
1. 書写学習の理論、学習指導要領「国語(書写)」概説 2. 楷書の学習1 3. 楷書の学習2 4. 楷書の学習3 5. 行書の学習1 6. 行書の学習2 7. 行書の学習3 8. 学習指導案の基礎1 9. 学習指導案の基礎2 10. 硬筆の学習1 11. 硬筆の学習2 12. 硬筆の学習3 13. 硬筆の学習4 14. 学習指導案の立案 15. 学習指導案の検討						

<b>定期試験</b> 実技課題、ワークシート、学習指導案
<b>試験のフィードバックの方法</b> 試験及び課題を評価後、返却する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 毎回授業の内容を振り返り、基礎的な知識・技能の修得に努めること（約2時間）。
<b>必携書（教科書販売）</b> 『中学書写 一・二・三年』，光村図書出版 『国語科書写の理論と実践』，全国大学書写書道教育学会編，萱原書房
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 『平成29年告示中学校学習指導要領解説 国語編』
<b>オフィスアワー</b> 火曜日3限
<b>連絡先</b> ieiri@post.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 【教職免（中学国語）選択必修】 【受講条件】第1週目に書道用具の説明、注文希望を確認するため必ず出席すること。なお、書道用具がある場合は持参すること。 【発展科目】2期開講「書写法Ⅱ」も履修することが望ましい。



硬筆書法					単位数	1単位
授業コード	36200	科目ナンバリング	230B4-3000-01	開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	倉橋 肇、家入 博徳					
時間割備考						
授業形態 (主)	3 実験・実習・実技					
授業形態 (副)						
担当形態	単独					
研究分野 (大学院)						
本授業の概要						
日常生活に使用する鉛筆・ボールペン・万年筆など、筆記用具の特性を理解する。それぞれの用具に応じた執筆法を習ひ、硬筆書写の基礎を学習し身につける。						
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習				
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)		
1	基礎となる硬筆書写の力を養い、表現方法を習得することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
2	正しく美しく書くという書写の能力を伸ばし、日常の書写の中へ応用することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
3						
4						
5						
成績評価の基準				対応する到達目標の番号		
1	提出課題 (80%)			1/2		
2	要点の理解度 (20%)			1/2		
3						
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目		実務あり				
実務経験の授業への活用方法						
国語科教員として教育実践に携わっている経験に基づいて、学習指導要領及び基礎となる学習指導理論を踏まえて、学習者主体の授業設計を行うための基本的な考え方を指導する。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
1. 基礎調査・用具発注 2. 鉛筆による硬筆の書法① (用具) 3. 鉛筆による硬筆の書法② (運筆) 4. 鉛筆による硬筆の書法③ (まとめ) 5. ボールペンによる硬筆の書法① (用具) 6. ボールペンによる硬筆の書法② (運筆) 7. ボールペンによる硬筆の書法③ (まとめ) 8. 万年筆による硬筆の書法① (用具) 9. 万年筆による硬筆の書法② (運筆) 10. 万年筆による硬筆の書法③ (まとめ) 11. フェルトペンによる硬筆の書法 12. 古文を書く① (百人一首) 13. 古文を書く② (百人一首) 14. 創作① 15. 創作②						

定期試験 課題提出
試験のフィードバックの方法 課題を評価後、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 改善点を見直しておくこと（約2時間）。
必携書（教科書販売） <必携書> 『硬筆レッスン帳』， 教育図書
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考書等> 配布プリント
オフィスアワー 授業の前後に教室で質問を受け付ける。
連絡先 s2033@m.ndsu.ac.jp
留意事項 【教職免（中学国語）選択必修】

楷・行書法ⅠⅠ				単位数	1単位
授業コード	36240	科目ナンバリング	230B4-2000-o1	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	倉橋 肇、家入 博徳				
時間割備考					
授業形態(主)	3実験・実習・実技				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
今日、日常生活の中で最も目にする事の多い楷書。点画の連続による動きと変化のある行書。長い歴史の中で残された名品を通して様々な書きぶりを学習する。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	同じ書体であっても、書風の違いはどこから生まれるのか。用筆・運筆といった技術的な表現及び筆者の個性・時代背景をも説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	提出課題 (80%)			1	
2	要点の理解度 (20%)			1	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
国語科教員として教育実践に携わっている経験に基づいて、学習指導要領及び基礎となる学習指導理論を踏まえて、学習者主体の授業設計を行うための基本的な考え方を指導する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. 楷書と行書の歴史的背景 2. 初唐の三大家 ① 3. 初唐の三大家 ② 4. 初唐の三大家 ③ 5. 顔真卿の楷書 6. 北魏の書 7. 鍾繇の書 8. 半切作品にまとめる 9. 王羲之の書 10. 顔真卿の行書 11. 宋時代の書 12. 三筆の書 ① 13. 三筆の書 ② 14. 三筆の書 ③ 15. 半切作品にまとめる					

定期試験 課題提出
試験のフィードバックの方法 課題を評価後、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 改善点を見直しておくこと（約2時間）。
必携書（教科書販売） <必携書> 『書I』，『書II』， 関 正人ほか編，教育図書 『書の古典と理論 改訂版』， 全国大学書道学会編，光村図書出版
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考書> 配布プリント
オフィスアワー 授業の前後に教室で質問を受け付ける。
連絡先 s2033@m.ndsu.ac.jp
留意事項 【教職免（書道）必修】 実技の習得には繰り返しが必要であることを理解し，予習・復習などに時間外学習を要する。

漢字仮名交じり書法ⅠⅠ	36270	科目ナンバリング	230B4-3000-01	開講年度学期	2023年度第1期	単位数	1単位
授業コード	倉橋 肇、家入 博徳						
担当者氏名							
時間割備考							
授業形態(主)	3実験・実習・実技						
授業形態(副)							
担当形態	単独						
研究分野(大学院)							
本授業の概要	書道における古典一漢字や仮名と違い、漢字仮名交じり書には古典といえる作品が少ない。だからこそ新しいものが生まれる可能性もある。古典を反映した技法を身につける。						
アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習						
到達目標						対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	「漢字仮名交じり書法Ⅰ」の発展として、自らの思いや言葉を探り、作品を通して表現できる。					知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	独自の書風として表現を応用できる。					知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3							
4							
5							
成績評価の基準						対応する到達目標の番号	
1	提出課題(80%)					1/2	
2	要点の理解度(20%)					1/2	
3							
4							
5							
実務経験のある教員による授業科目	実務あり						
実務経験の授業への活用方法	国語科教員として教育実践に携わっている経験に基づいて、学習指導要領及び基礎となる学習指導理論を踏まえて、学習者主体の授業設計を行うための基本的な考え方を指導する。						
日本語以外の言語による授業							
授業予定一覧	<ol style="list-style-type: none"> <li>「漢字仮名交じり書法Ⅱ」の年間予定を説明。</li> <li>中国の漢字古典を作品に生かす①(唐の楷書)</li> <li>中国の漢字古典を作品に生かす②(唐の楷書)</li> <li>中国の漢字古典を作品に生かす③(北魏の楷書)</li> <li>中国の漢字古典を作品に生かす④(王羲之)</li> <li>中国の漢字古典を作品に生かす⑤(王羲之)</li> <li>日本の漢字古典を作品に生かす①(空海)</li> <li>日本の漢字古典を作品に生かす②(空海)</li> <li>日本の仮名古典を作品に生かす①(和漢朗詠集)</li> <li>日本の仮名古典を作品に生かす②(和漢朗詠集)</li> <li>独自の作品を作る①(素材)</li> <li>独自の作品を作る②(形式)</li> <li>独自の作品を作る③(潤濁)</li> <li>独自の作品を作る④(仕上げ)</li> <li>独自の作品を作る⑤(仕上げ)</li> </ol>						

定期試験 課題提出
試験のフィードバックの方法 課題を評価後、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 改善点を見直しておくこと（約2時間）。
必携書（教科書販売） <必携書> 『書Ⅰ』，『書Ⅱ』，『書Ⅲ』， 関 正人ほか編，教育図書（『書道科教育法Ⅰ』と共通）
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考書等> 配布プリント
オフィスアワー 授業の前後に教室で質問を受け付ける。
連絡先 s2033@m.ndsu.ac.jp
留意事項 【教職免（書道）必修】 「漢字仮名交じり書法Ⅰ」を履修していることが望ましい。

篆・隸書法				単位数	1単位
授業コード	36280	科目ナンバリング	230B4-3000-01	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	家入 博徳				
時間割備考					
授業形態(主)	3 実験・実習・実技				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
前半は隸書を、後半は篆書を学ぶ。この二書体の学習によって、漢字の成立・構造を知り、毛筆の機能性を理解する。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	篆書、隸書それぞれの筆法や特徴を理解し、表現できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	文字一字一字の構成や作品全体の構成を理解し、表現できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	隸書課題 (40%)			1/2	
2	篆書課題 (40%)			1/2	
3	受講態度・振り返りシート・ワークシート (20%)			1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
高等学校の教員として書道教育に携わっていた経験に基づいて、表現技能の修得および書美の理解を促す指導をする。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. 篆書、隸書の歴史と基本用筆 2. 曹全碑 1 3. 曹全碑 2 4. 礼器碑 5. 乙瑛碑 6. 石門頌 7. 隸書半切作品制作 1 8. 隸書半切作品制作 2 9. 泰山刻石 1 10. 泰山刻石 2 11. 石鼓文 1 12. 石鼓文 2 13. 篆書半切作品制作 1 14. 篆書半切作品制作 2 15. 作品鑑賞					

定期試験 実技課題、ワークシート
試験のフィードバックの方法 課題を評価後、返却する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回授業の内容を振り返り、改善点を見返しておくこと（約2時間）。
必携書（教科書販売） 『書Ⅰ』『書Ⅱ』『書Ⅲ』，教育図書 『書の古典と理論 改訂版』，全国大学書道学会編，光村図書出版
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考書等> 『角川書道字典』，伏見冲敬編，角川書店 その他の各種字典は書道準備室に配架
オフィスアワー 火曜日3限
連絡先 ieiri@post.ndsu.ac.jp
留意事項 【教職免（書道）必修】 【受講条件】書道用具、テキストは各自で用意すること。 【発展科目】2期開講「篆刻法」を履修するためには、書体の特徴の理解や用材の準備・発注もあるので、本科目を履修していることが望ましい。



総合探究I				単位数	2単位
授業コード	36610	科目ナンバリング	230B7-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期
担当者氏名	山根 知子、長原 しのぶ、中井 賢一				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	3 実験・実習・実技				
担当形態	複数				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
岡山出身の坪田譲治の文学において、作家の人生と文学における特徴を掴み、そこに内在する岡山との密接な関係性の要素から、岡山をはじめとする現代の地域社会にいかにか普及し、文学が現代人の意識改革に資するかけがえのない心の豊かさへの気づきをいかにもたらすことができるか、実践を通じて探究する。その普及・発信の方法については、現代社会の問題やSDGsの関係から熟考し、冊子作成および行事のなかで、現代的アプローチによる表現(サブカルチャーによる表現を含む)を工夫して、文学が人々の心に浸透する方法を模索し実践する。さらに、学外者との協働や交流による実践活動により、履修者間で討議・構想した内容および冊子等で表現してきた主張内容を伝えることができる行事を企画運営して、多くの人と協働し分かち合う体験を通して、文学の力を体現する。これらの活動を「ツボジョーワールド探検隊」として、岡山市の「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」に応募して遂行する予定であることから、採択をめぐって必要となる申請書のほか広報文書・報告書等の書類作成を履修者全員が分担して行ない、このプロジェクトの規定による報告会等での発表の機会を持つ。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	坪田譲治の人生と文学について深く理解を及ぼすことで、その文学の力を、現代の岡山をはじめとする地域社会のどのような問題点の改善につなげることができるか、熟考することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	文学的思想内容から、自らが現代に生きる他者に伝えるべきことへの使命感を抱き、その現代的アプローチとなる発信方法を学びながら、工夫して発信することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	学外者との交流へと自らの意識を広げ、目的に適った、より効果的な行事の企画・運営について熟考した内容を計画的に実践することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	文学を通して、岡山という地域に根ざしつつ国内外の他の地域とつながりあう要素や障がいや弱さを越えて人々が大切にしようべき要素を深く認識し、人間の心の問題において共通する問題意識を捉えながら、他者理解に基づいた企画と交流を行なうことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	社会性への認識を持ち、規定にしたがって書類作成・実践活動を実践することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	冊子原稿ならびに書類原稿等の提出物 60%			1/2/5	
2	行事企画・運営に対する実践・発表への姿勢とその探究内容 40%			3/4/5	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
〈第1期〉(時間割に基づく授業)					
1. ガイダンスおよび年間計画と履修生の役割分担についての検討開始					
2. 坪田譲治文学から可能な視点探究とその普及方法の探究					
3. 協働先についての探究					
4. 冊子作成と実践活動についての具体化検討					
5. 岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」申請書作成					
6. 坪田譲治紹介冊子作成方針・分担についての話し合い					
7. 坪田譲治紹介冊子第一稿の確認修正					
8. 坪田譲治紹介冊子第二稿の確認修正					
9. 坪田譲治紹介冊子第三稿の確認修正					
10. 坪田譲治紹介冊子最終稿の確認修正					
〈夏季休暇～第2期〉(集中による実習 活動日程計画による学内・学外での活動)					
11. 実践活動					
12. 岡山市中間報告会での発表					
13. 企画行事					
14. 岡山市最終報告会での発表					
15. 岡山市活動実績報告書作成					

<p><b>定期試験</b></p> <p>作成する冊子原稿と報告書に関する提出原稿によって評価する。 各自の実践活動の分担の成果や取り組み姿勢および探究内容についての全般を総合的に評価する。</p>
<p><b>試験のフィードバックの方法</b></p> <p>授業およびmanabaでの全体に対するフィードバックのほか、随時個人に対するフィードバックを行なう。</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b></p> <p>授業前までに、各自の担当課題に対して具体的に提示できる準備を毎回約2時間行なったうえで授業に参加し、授業中の発表および相談ができるようにしておくこと。 授業後には、求められた修正等をしたものをmanaba上で報告するなど、必要な事後処理を行なうこと。 行事前では、担当者間での打ち合わせやリハーサルに十分な時間を取って準備すること。</p>
<p><b>必携書（教科書販売）</b></p>
<p><b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b></p> <p>&lt;参考書&gt;として、過去に作成された坪田譲治紹介冊子を担当教員より配布。</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>各担当教員へのメールでの質問・相談等を随時受け付ける。面談希望の場合には、事前にメールでの面談予約を行なうこと。</p>
<p><b>連絡先</b></p> <p>【山根】 t-yamane@m.ndsu.ac.jp 【長原】 nagahara@m.ndsu.ac.jp 【中井】 k_nakai@m.ndsu.ac.jp</p>
<p><b>留意事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学外活動の場合には、日帰り保険をかけての活動となるが（岡山市のプロジェクトに採択された場合には補助金による）、その手続きのうえ、各自が安全に対する十分な注意を行なうこと。</li> <li>・対面で予定し企画する行事については、対面が不可能である場合、オンライン等に切り替わる可能性もある。</li> </ul>

日本文化史 I				単位数	2単位
授業コード	37010	科目ナンバリング	230B6-2340-o2	開講年度学期	2023年度第 1 期
担当者氏名	竹内 洪介				
時間割備考					
授業形態 (主)	1 講義				
授業形態 (副)					
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
近世小説史における仮名草子から浮世草子までの展開を辿る。仮名草子・浮世草子の特徴の違いを時代背景、文体・内容・題材などの諸要素から把握するとともに、なぜ、どのように仮名草子から浮世草子への転換がなされたのか、という問題を考える。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	近世前期の文化についての学識を身に付けることができる。			知識・技能	
2	近世前期文学の多様性を理解し、多角的な観点から文学作品を読解・分析できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	既存の学問的枠組みにとらわれずに、自らの考えで文学について考えることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	定期試験60%			1/2/3	
2	小テスト40%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 ガイダンス・文学ジャンルを疑う					
2 近世における出版技術の発展 (1) : 近世前期から中期を中心に					
3 近世における出版技術の発展 (2) : 近世中期から後期を中心に					
4 仮名草子の多様性とその意義					
5 『伽婢子』を読む: 近世文学における翻案の位置					
6 『恨之介』を読む: 軍記・軍書との関連					
7 井原西鶴の作品と生涯					
8 『好色一代男』の革新性					
9 『好色五人女』を読む: 演劇との関連					
10 『日本永代蔵』を読む: 仮名草子の教訓性を超えて					
11 西鶴後の浮世草子: 西鶴の門人と八文字屋本					
12 浮世草子の題材と表現					
13 浮世草子と軍記・軍書					
14 浮世草子と演劇					
15 浮世草子後の展開と浮世草子の意義					

<b>定期試験</b> 定期試験を実施する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 毎回義務付けるリアクションペーパー（Nサボを用い、成績評価には影響しない）は定期テストの受験資格となる（講義を欠席した場合は担当教員に連絡の上、その時に行った講義内容について自主学習を行い、その学習に基づいてリアクションペーパーを作成・提出すること）。 講義中盤に行う小テスト（配点40点）は授業内容の理解度について評価するものである。採点ののちコメントを付してフィードバックする。 定期テスト（60点）は、授業内容の理解度を問う（配点40点）だけでなく、授業内容と自主学習で得た知識を利用して論じられるかを問う小論文問題（配点20点）により出題する。採点ののちコメントを付してフィードバックする。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 予習では、講義資料を事前に配布するので、初見の用語等の読み方を確認し、不明点、興味ある部分を独自に調べておくこと。（1時間程度） 復習では、授業内容をまとめるだけでなく、授業で扱った内容をより深めて調査し、身に付ける習慣を養うこと。（1時間程度） なお、上記の自主学習は定期テストで実施する小論文での評価に直結する。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 授業内で適宜指示する。
<b>オフィスアワー</b> 授業終了後に教室で質問を受け付ける。
<b>連絡先</b> kosuke@shujitsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

日本美術史ⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	37110	科目ナンバリング	230B6-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	浅利 尚民				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
この講義は日本美術史を学ぶ初学者向けの講義で、飛鳥時代から安土桃山時代までの宗教美術と世俗美術の流れを学び、日本美術の様式や意義について考えます。具体的には、飛鳥～鎌倉時代までは仏像や神像などの彫刻作品を対象に、制作された素材・技法・理由、そして宗教的な意義などについて学びます。また鎌倉時代以降は主に絵画作品を取り上げ、各時代の特色や美術史上の意義などについて考えます。講義を通じて、日本美術を学ぶ面白さを理解して欲しいと思っています。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	各時代の代表作について、それらが制作された技法・背景・作者等について理解することができる。			知識・技能	
2	日本人が美的なものに対して何を求めていたのかを理解することができる。			思考・判断・表現力	
3	美術史の研究方法を通じて、作品の変遷と特徴を主体的に考えることができる。			主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義後に適宜行う小テスト(30%)			1/2	
2	全講義終了後に行う期末テスト(70%)			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
美術館で学芸員(最終的には学芸課長)として勤務してきた経験をふまえ、日本美術へのアプローチの方法と面白さを伝える。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
01 ガイダンス：日本美術史の方法論					
02 仏教東漸—インド・中国・日本の仏教信仰—					
03 飛鳥時代の美術 仏教伝来と日本におけるカミとホトケ					
04 飛鳥時代の美術 法隆寺と飛鳥の寺院					
05 白鳳時代の美術 再建法隆寺と薬師寺					
06 天平時代前期の美術 東大寺の建立と天平彫刻					
07 天平時代の後期美術 鑑真の来朝と唐招提寺					
08 平安時代前期の美術 一木造と密教美術					
09 平安時代後期の美術 定朝様の成立と末法思想					
10 鎌倉時代の美術Ⅰ 南都復興と運慶・快慶					
11 鎌倉時代の美術Ⅱ 運慶・快慶後の仏師たち					
12 飛鳥時代から平安時代までの絵画作品					
13 鎌倉時代から室町時代の絵画作品 絵巻物と禅宗美術の発達					
14 安土桃山時代の絵画作品 天下人と狩野永徳					
15 まとめ：日本美術の特質とは					

<b>定期試験</b> 全講義終了後に定期試験を行います。試験の課題は最終講義の際に指示します。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 小テストについては、行った翌週にコメントすることがあります。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 各回の事後学習を行ってください。目安は1回30分程度です。 事前学習として、各地で開催されている展覧会等を適宜見学してください。目安は1回30分程度です。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> <参考書> 辻惟雄監修『増補新装 カラー版 日本美術史』（美術出版社、2003年）
<b>オフィスアワー</b> 質問は授業終了後の教室内や、電子メールで受け付けます。
<b>連絡先</b> naomi.asari@shujitsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 特になし。

卒業論文 [日a]				単位数		6単位	
授業コード	38010	科目ナンバリング	230B5-4000-o6	開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期		
担当者氏名	家入 博徳						
時間割備考	4年次4月に登録すること。						
授業形態 (主)	2 演習						
授業形態 (副)							
担当形態	単独						
研究分野 (大学院)							
本授業の概要							
大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する(400字詰原稿用紙に換算して60枚以上)。							
●各ゼミ担当者より： ①ゼミの進め方や特色 書に関わるテーマを決め、考察する。適宜、ゼミ生の報告、討論を行う。 ②ゼミ所属以降に満たす必要のある条件 書道免許必修となっている書道実技・書道特講科目(ただし書道科教育法Ⅰ・Ⅱは除く)を履修することが望ましい。 ③第2希望第3希望の場合の注意 研究対象を数点挙げて、できるだけそのテーマを狭めて記述すること。 ④その他 第1希望第2希望者は「希望ゼミ調査票」提出日までに面談をすること。							
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)			
1	自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性			
2	4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力			
3	自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。			思考・判断・表現力/主体性			
4	上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力			
5							
成績評価の基準				対応する到達目標の番号			
1	1月に口頭試問を行なう。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。 ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。			1/2/3/4			
2	・論理性と実証性を備えた論文である。			1/2/3/4			
3	・研究論文としての独創性を備えている。			3/4			
4							
5							
実務経験のある教員による授業科目							
実務経験の授業への活用方法							
日本語以外の言語による授業							
授業予定一覧							
●卒業論文に関するスケジュール							
【3年次】							
3月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション							
4月 卒論ゼミ交流会							
6月5日(月)～16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出期間							
6月16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00 まで マナバ・フォリオにて提出							
7月7日(金) 所属ゼミ発表 マナバ・フォリオに掲示							
【4年次】							
4月 履修登録							
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00 まで 各指導教員に提出(メール添付)							
12月4日(月)～15日(金) 卒業論文提出期間							
12月15日(金) 卒業論文提出締切 13:30 まで 教務係に提出							
1月 口頭試問							
2月1日(木) 要旨(清書版)提出締切 16:00 まで マナバ・フォリオにて提出							
7日(水) 卒業論文(清書版)提出締切 16:00 まで 学生合研に提出							
【卒業延期学生(9月卒業予定者)】							
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00 まで 各指導教員に提出(メール添付)							
6月5日(月)～6月16日(金) 卒業論文提出期間							
6月16日(金) 卒業論文提出締切 13:30 まで 教務係に提出							
《注意》感染症等の状況により、提出方法および締切には変更が生じることがある。卒業論文に関する変更等の連絡はマナバ・フォリオを通じて行う。							

<b>定期試験</b> 1月に口頭試問を行なう。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 口頭試問において問題点等を指摘する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b>  
<b>必携書（教科書販売）</b>  
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b>  
<b>オフィスアワー</b> 火曜日3限目
<b>連絡先</b> ieiri@post.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 1、ゼミについての注意点(3年次・4年次) (1)各ゼミの定員は以下の通り。学科教員 10 名。家入ゼミ 7 名。山根道公ゼミ(キリスト教文化研究所)7 名。 (2)所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。 (3)卒業論文に関する具体的な連絡事項はマナバ・フォリオにて伝える。 (4)提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。 (5)履修登録は、4年次第1期に行うこと。  2、「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点(3年次) (1)「希望ゼミ調査票」提出までに必要な面談等の手続きは各ゼミで異なる。オリエンテーション時の説明およびシラバスの記載（下記3）、各ゼミ担当教員からの案内にしたがうこと。 (2)調査票には第1希望から第3希望までを必ず記すこと。卒論テーマは原則第1希望から第3希望までの全てのゼミについて予定するものを記入し、それぞれのテーマについて以下の3点を具体的に記すこと。 ①中心的に扱う作品・言葉・資料等と、それらを扱おうと考えた経緯 ②考察の問題点 ③研究の方法と計画 希望者の数が定員を超過したゼミに関しては、「希望ゼミ調査票」を上記①～③の観点に注目して検討し、配属を決定する。なお、ゼミ配属後に卒業論文のテーマが「希望ゼミ調査票」の内容から変更されることは問題ない。  3、希望ゼミ調査(3年次) (1)事前面談の条件 * 第1、2希望者は必須、第3希望者は任意とする。 (2)ゼミ説明について * オープンゼミを実施予定。実施日は日時決定後通知する。



卒業論文 [日b]		単位数		6単位	
授業コード	38020	科目ナンバリング	230B5-4000-o6	開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期
担当者氏名	伊木 洋				
時間割備考	4年次4月に登録すること。				
授業形態 (主)	2 演習				
授業形態 (副)					
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する(400字詰原稿用紙に換算して60枚以上)。					
●各ゼミ担当者より：					
①ゼミの進め方や特色					
・ゼミ生の報告・討議を行う。					
②ゼミ所属以降に満たす必要のある条件					
・国語科教育への興味・関心を高めていくことが望ましい。					
③第2希望第3希望の場合の注意					
・国語科教育に興味・関心があることが望ましい。					
・研究の構想を十分に練った上で、必ず事前相談に来ること。					
④その他					
・教育実習があるため、計画を十分に練り、早めに取り組みを進めておく必要がある。					
・8月下旬～9月中旬に学外研修を実施することがある。					
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション				
到達目標					対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。				知識・技能/思考・判断・表現力
3	自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。				思考・判断・表現力/主体性
4	上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。				知識・技能/思考・判断・表現力
5					
成績評価の基準					対応する到達目標の番号
1	1月に口頭試問を行なう。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。 ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。				1/2/3/4
2	論理性と実証性を備えた論文である。				1/2/3/4
3	研究論文としての独創性を備えている。				3/4
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
●卒業論文に関するスケジュール					
【3年次】					
3月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション					
4月 卒論ゼミ交流会					
6月5日(月)～16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出期間					
6月16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで マナバ・フォリオにて提出					
7月7日(金) 所属ゼミ発表 マナバ・フォリオに掲示					
【4年次】					
4月 履修登録					
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 各指導教員に提出(メール添付)					
12月4日(月)～15日(金) 卒業論文提出期間					
12月15日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 教務係に提出					
1月 口頭試問					
2月1日(木) 要旨(清書版)提出締切 16:00まで マナバ・フォリオにて提出					
7日(水) 卒業論文(清書版)提出締切 16:00まで 学生合研に提出					
【卒業延期学生(9月卒業予定者)】					
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 各指導教員に提出(メール添付)					
6月5日(月)～6月16日(金) 卒業論文提出期間					
6月16日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 教務係に提出					
≪注意≫感染症等の状況により、提出方法および締切には変更が生じることがある。					
卒業論文に関する変更等の連絡は教務委員がマナバ・フォリオを通じて行う。					

<p>定期試験</p> <p>1月に口頭試問を行なう。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>口頭試問において問題点等を指摘する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>研究計画に基づき、主体的に研究を積み重ねていくことを重視する。先行研究を踏まえ、テーマに即して十分考察を深め、発表できるよう準備すること。（150時間） また、ゼミの記録を蓄積し、ゼミでの発表・討議を生かして報告したことをその都度推敲し、修正していくこと。（30時間） なお、重要な連絡事項は掲示及びマナバ・フォリオに掲載されるので、自己責任で必ず確認すること。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>&lt;必携書&gt; 発表資料に用いた文献及び資料を持参すること。 &lt;参考書等&gt; 毎回の授業で指示する。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>オフィスアワー：第1期 月曜日5限 第2期 火曜日4限。随時メールで受け付ける。</p>
<p>連絡先</p> <p>higi@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>1、ゼミについての注意点(3年次・4年次)</p> <p>(1)各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。家入ゼミ7名。山根道公ゼミ(キリスト教文化研究所)7名。 (2)所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。 (3)卒業論文に関する具体的な連絡事項は掲示により伝える。 (4)提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。 (5)履修登録は、4年次第1期に行うこと。</p> <p>2、「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点(3年次)</p> <p>(1)「希望ゼミ調査票」提出までに必要な面談等の手続きは各ゼミで異なる。 オリエンテーション時の説明およびシラバスの記載(下記3)、各ゼミ担当教員からの案内にしたがうこと。 (2)調査票には第1希望から第3希望までを必ず記すこと。 卒論テーマは原則第1希望から第3希望までの全てのゼミについて予定するものを記入し、それぞれのテーマについて以下の3点を具体的に記すこと。 ①中心的に扱う作品・言葉・資料等と、それらを扱おうと考えた経緯 ②考察の問題点 ③研究の方法と計画 希望者の数が定員を超過したゼミに関しては、「希望ゼミ調査票」を上記①～③の観点に注目して検討し、配属を決定する。 なお、ゼミ配属後に卒業論文のテーマが「希望ゼミ調査票」の内容から変更されることは問題ない。</p> <p>3、希望ゼミ調査(3年次)</p> <p>(1)事前面談の条件 第1希望から第3希望まで、全て事前面談を必須とする。 ゼミを希望する場合、メール等で事前面談のアポイントを取ること。 なお、面談に際して、希望ゼミ調査票を2部印刷して持参すること。 (2)ゼミの説明について 面談時に説明する。</p>

卒業論文 [日c]					単位数	6単位
授業コード	38025	科目ナンバリング	230B5-4000-o6	開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期	
担当者氏名	江草 弥由起					
時間割備考	4年次4月に登録すること。					
授業形態 (主)	2 演習					
授業形態 (副)						
担当形態	単独					
研究分野 (大学院)						
本授業の概要						
大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する(400字詰原稿用紙に換算して60枚以上)。						
●各ゼミ担当者より						
① ゼミの進め方や特色 ゼミ生全員参加による討論形式で行う。発表者に研究計画・これまでの調査状況・調査に基づいた考察を発表してもらい、より深い研究にするためには何が必要かを議論し、問題に対する独創的なアプローチ方法を模索する。限られた時間の中でもより良い研究するため、ゼミ生の中で円滑に研究情報の交換ができるようにして行きたい。						
② ゼミ所属以降に満たす必要のある条件 中世文学特講Ⅰ・Ⅱ、中世文学講読Ⅰ・Ⅱのうち、2つ以上受講することが望ましい。自分の研究テーマに関連する授業については、中世分野に限らず受講するよう心がけること。						
③ 「希望ゼミ調査票」記載上の注意 挑戦したい研究テーマについて具体的に書くこと。研究テーマに専門領域の近い教員に事前に相談の上で作成することが望ましい。						
④ 第2希望・第3希望で希望する場合の注意 特になし。第2希望・第3希望で江草ゼミに配属された面談未実施の学生に対しては、初回ゼミの前に面談を実施する。						
⑤ その他 江草ゼミを第1希望にする場合、「希望ゼミ調査票」提出前の面談は必須。 古典作品の享受については、現代作品における享受も研究対象とする。						
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション					
到達目標						対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)
1	自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。					知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。					知識・技能/思考・判断・表現力
3	自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。					思考・判断・表現力/主体性
4	上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。					知識・技能/思考・判断・表現力
5						
成績評価の基準						対応する到達目標の番号
1	1月に口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。 誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。					1/2/3/4
2	論理性と実証性を備えた論文である。					1/2/3/4
3	研究論文としての独創性を備えている。					3/4
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目						
実務経験の授業への活用方法						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
授業予定一覧						
●卒業論文に関するスケジュール						
【3年次】						
3月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション						
4月 卒業ゼミ交流会						
6月5日(月)~16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出期間						
6月16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00 まで マナバ・フォリオにて提出						
7月7日(金) 所属ゼミ発表 マナバ・フォリオに掲示						
【4年次】						
4月 履修登録						
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00 まで 各指導教員に提出(メール添付) 12月4日(月)~15日(金) 卒業論文提出期間						
12月15日(金) 卒業論文提出締切 13:30 まで 教務係に提出						
1月 口頭試問						
2月1日(木) 要旨(清書版)提出締切						
7日(水) 卒業論文(清書版)提出締切						
【卒業延期学生(9月卒業予定者)】						
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切						
6月5日(月)~6月16日(金) 卒業論文提出期間						
6月16日(金) 卒業論文提出締切 13:30 まで 教務係に提出						
《注意》感染症等の状況により、提出方法および締切には変更が生じることがある。卒業論文に関する変更等の連絡はマナバ・フォリオを通じて行う。						

<p><b>定期試験</b> 1月に口頭試問を行なう。</p>
<p><b>試験のフィードバックの方法</b> 口頭試問において問題点等を指摘する。</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 卒業論文の進捗状況に応じて指導教員より指示する。</p>
<p><b>必携書（教科書販売）</b></p>
<p><b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 授業内で適宜紹介する。</p>
<p><b>オフィスアワー</b> 金曜2限</p>
<p><b>連絡先</b> miyuki.egs@m.ndsu.ac.jp</p>
<p><b>留意事項</b> 1、ゼミについての注意点(3年次・4年次) (1)各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。家入ゼミ7名。山根道公ゼミ(キリスト教文化研究所)7名。 (2)所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。 (3)卒業論文に関する具体的な連絡事項はマナバ・フォリオにて伝える。 (4)提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。 (5)履修登録は、4年次第1期に行うこと。 2、「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点(3年次) (1)「希望ゼミ調査票」提出までに必要な面談等の手続きは各ゼミで異なる。オリエンテーション時の説明およびシラバスの記載(下記3)、各ゼミ担当教員からの案内にしたがうこと。 (2)調査票には第1希望から第3希望までを必ず記すこと。卒論テーマは原則第1希望から第3希望までの全てのゼミについて予定するものを記入し、それぞれのテーマについて以下の3点を具体的に記すこと。 ①中心的に扱う作品・言葉・資料等と、それらを扱おうと考えた経緯 ②考察の問題点 ③研究の方法と計画 希望者の数が定員を超過したゼミに関しては、「希望ゼミ調査票」を上記1~3の観点に注目して検討し、配属を決定する。なお、ゼミ配属後に卒業論文のテーマが「希望ゼミ調査票」の内容から変更されることは問題ない。 3、希望ゼミ調査(3年次) (1)事前面談の条件 第1希望は必須。面談の申込は、必ず下記URLの申込フォームからすること。 <a href="https://forms.gle/TYjPBz8dmvCp5VSv7">https://forms.gle/TYjPBz8dmvCp5VSv7</a> (2)ゼミ説明について 下記URLに「ゼミ紹介」を掲載。 <a href="https://docs.google.com/document/d/111W3a1fb3nrG-TTNRPI7ky4LQzVvHj9ihUxRmPGNNx4/edit?usp=sharing">https://docs.google.com/document/d/111W3a1fb3nrG-TTNRPI7ky4LQzVvHj9ihUxRmPGNNx4/edit?usp=sharing</a></p>

卒業論文 [日]					単位数	6単位
授業コード	38030	科目ナンバリング	230B5-4000-o6	開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期	
担当者氏名	尾崎 喜光					
時間割備考	4年次4月に登録すること。					
授業形態 (主)	2 演習					
授業形態 (副)	2 演習					
担当形態	単独					
研究分野 (大学院)						
本授業の概要						
大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する(400字詰原稿用紙に換算して60枚以上)。						
●各ゼミ担当者より						
① ゼミの進め方や特色 全員参加による討論。毎回三人前後が、研究計画・調査状況・分析等について発表し、高く評価できる点、改善を要すると思われる点などについて一緒に議論し、よりよい研究に展開することをめざす。						
② ゼミ所属以降に満たす必要のある条件 卒業論文の準備的授業でもある「日本語学演習Ⅰ」(尾崎担当)を履修することが望ましい。						
③ 第2希望第3希望の場合の注意 特になし。						
④ その他 どのようなことに関心があるか、どのようなことを研究課題としたいか等について具体的に考えておくこと。研究課題(案)は複数あってもかまわない。遅刻時間の長短にかかわらず、遅刻2回で欠席1回とみなす。ただし、公共交通機関の遅延など本人の責めに帰ることができない理由による遅刻は、遅延証明書添付でその旨の申告があった場合に限り遅刻扱いにしない。「オープンゼミ」を実施する。日時は4月27日以降の木曜日4限。部分参加でもさしつかえない。ゼミ希望を考えている3年生は、4年生のゼミを見学することで、ゼミ希望を考える際の参考にしてほしい。参加を希望する場合はメールで事前に連絡すること。第1希望、第2希望、第3希望いずれも面談を必須とする。メールで面談申し込みの上訪問すること。「希望ゼミ調査票」の提出締め切り直前での面談の申し込みは避けること。面談後に「面談実施証明書」を発行するので、ゼミ決定時まで大切に保管すること。						
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション				
到達目標					対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。				知識・技能/思考・判断・表現力	
3	自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。				思考・判断・表現力/主体性	
4	上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。				知識・技能/思考・判断・表現力	
5						
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	1月に口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。 ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。				1/2/3/4	
2	・論理性と実証性を備えた論文である。				1/2/3/4	
3	・研究論文としての独創性を備えている。				3/4	
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目						
実務経験の授業への活用方法						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
●卒業論文に関するスケジュール						
【3年次】						
3月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション						
4月 卒論ゼミ交流会						
6月5日(月)～16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出期間						
6月16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで マナバ・フォリオにて提出						
7月7日(金) 所属ゼミ発表 マナバ・フォリオに掲示						
【4年次】						
4月 履修登録						
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 各指導教員に提出(メール添付)						
12月4日(月)～15日(金) 卒業論文提出期間						
12月15日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 教務係に提出						
1月 口頭試問						
2月1日(木) 要旨(清書版)提出締切 16:00まで マナバ・フォリオにて提出						
7日(水) 卒業論文(清書版)提出締切 16:00まで 学生合研に提出						
【卒業延期学生(9月卒業予定者)】						
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 各指導教員に提出(メール添付)						
6月5日(月)～6月16日(金) 卒業論文提出期間						
6月16日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 教務係に提出						
《注意》感染症等の状況により、提出方法および締切には変更が生じることがある。卒業論文に関する変更等の連絡は教務委員がマナバ・フォリオを通じて行う。						

<b>定期試験</b> 1月に口頭試問を行なう。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 口頭試問において問題点等を指摘する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b>  
<b>必携書（教科書販売）</b>  
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b>  
<b>オフィスアワー</b> 1期：水曜日2限 2期：水曜日3限 事前予約の上来てほしい。
<b>連絡先</b> yozaki@post.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 1. ゼミについての注意点（3年次・4年次） (1) 各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。家入ゼミ7名。山根道公ゼミ（キリスト教文化研究所）7名。 (2) 所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。 (3) 卒業論文に関する具体的な連絡事項はマナバ・フォリオにて伝える。 (4) 提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。 (5) 履修登録は、4年次第1期に行うこと。 2. 「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点（3年次） (1) 「希望ゼミ調査票」提出までに必要な面談等の手続きは各ゼミで異なる。オリエンテーション時の説明およびシラバスの記載（下記3）、各ゼミ担当教員からの案内にしたがうこと。 (2) 調査票には第1希望から第3希望までを必ず記すこと。卒論テーマは原則第1希望から第3希望までの全てのゼミについて予定するものを記入し、それぞれのテーマについて以下の3点を具体的に記すこと。 ① 中心的に扱う作品・言葉・資料等と、それらを扱おうと考えた経緯 ② 考察の問題点 ③ 研究の方法と計画 希望者の数が定員を超過したゼミに関しては、「希望ゼミ調査票」を上記①～③の観点に注目して検討し、配属を決定する。なお、ゼミ配属後に卒業論文のテーマが「希望ゼミ調査票」の内容から変更されることは問題ない。 3. 希望ゼミ調査（3年次） (1) 事前面談の条件 第1希望・第2希望・第3希望いずれであっても面談を必須とする。 面談を希望する場合は、メールで申し込みをした上で研究室を訪問すること（「希望ゼミ調査票」の提出締め切り直前での面談の申し込みは避けること）。面談後に「面談実施証明書」を発行するので、ゼミ決定時まで大切に保管すること。 (2) ゼミ説明について 面談時に説明するとともに、「オープンゼミ」を実施するので、実際の進め方等はそこで確認できる。実施は4月27日以降の木曜日4限。部分参加でもさしつかえない。参加を希望する場合はメールで事前に連絡すること。

卒業論文 [日e]					単位数	6単位
授業コード	38040	科目ナンバリング	230B5-4000-o6	開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期	
担当者氏名	東城 敏毅					
時間割備考	4年次4月に登録すること。					
授業形態 (主)	2 演習					
授業形態 (副)						
担当形態	単独					
研究分野 (大学院)						
本授業の概要						
大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する(400字詰原稿用紙に換算して60枚以上)。						
●各ゼミ担当者より：						
①ゼミの進め方や特色 (4年)1期は、週1回のゼミを実施する。ゼミは、報告・討議・発表を実施し、1期中に2回程度発表する。2期は、個人面談を随時実施し(週1程度)、執筆・推敲・添削を繰り返す。 (3年)月1回程度のゼミを実施する。ゼミは報告・討議を実施する。						
②ゼミ所属以降に満たす必要のある条件 (3年)卒論執筆方法を演習する「古代文学演習Ⅱ」を履修することが望ましい。						
③第2希望第3希望の場合の注意 特になし						
④その他 (4年)夏季休業中に「研修旅行」を実施する(8月下旬または9月上旬)。 (3年)夏季休業中に「万葉旅行」(飛鳥・奈良)を実施する(8月22日〔火〕～24日〔木])。 *ただし、コロナウイルス感染症の影響により、中止になる可能性もある。						
アクティブラーニングの実施内容		ディベート				
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)		
1	自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
2	4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力		
3	自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。			思考・判断・表現力/主体性		
4	上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力		
5						
成績評価の基準				対応する到達目標の番号		
1	1月に口頭試問を行なう。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。 ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。			1/2/3/4		
2	・論理性と実証性を備えた論文である。			1/2/3/4		
3	・研究論文としての独創性を備えている。			3/4		
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目						
実務経験の授業への活用方法						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
●卒業論文に関するスケジュール						
【3年次】						
3月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション						
4月 卒論ゼミ交流会						
6月5日(月)～16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出期間						
6月16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00 まで マナバ・フォリオにて提出						
7月7日(金) 所属ゼミ発表 マナバ・フォリオに掲示						
【4年次】						
4月 履修登録						
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00 まで 各指導教員に提出(メール添付)						
12月4日(月)～15日(金) 卒業論文提出期間						
12月15日(金) 卒業論文提出締切 13:30 まで 教務係に提出						
1月 口頭試問						
2月1日(木) 要旨(清書版)提出締切 16:00 まで マナバ・フォリオにて提出						
7日(水) 卒業論文(清書版)提出締切 16:00 まで 学生合研に提出						
【卒業延期学生(9月卒業予定者)】						
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00 まで 各指導教員に提出(メール添付)						
6月5日(月)～6月16日(金) 卒業論文提出期間						
6月16日(金) 卒業論文提出締切 13:30 まで 教務係に提出						
《注意》感染症等の状況により、提出方法および締切には変更が生じることがある。卒業論文に関する変更等の連絡はマナバ・フォリオを通じて行う。						

<b>定期試験</b> 1月に口頭試問を行なう。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 口頭試問において問題点等を指摘する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 卒業論文の進捗状況に応じて指導教員より指示する。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b>
<b>オフィスアワー</b> 月曜日 4 限目
<b>連絡先</b> tojyo@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 1、ゼミについての注意点(3 年次・4 年次) (1)各ゼミの定員は以下の通り。学科教員 10 名。家入ゼミ 7 名。山根道公ゼミ(キリスト教文化研究所)7 名。 (2)所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。 (3)卒業論文に関する具体的な連絡事項はマナバ・フォリオにて伝える。 (4)提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。 (5)履修登録は、4 年次第 1 期に行うこと。 2、「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点(3 年次) (1)「希望ゼミ調査票」提出までに必要な面談等の手続きは各ゼミで異なる。オリエンテーション時の説明およびシラバスの記載（下記 3）、各ゼミ担当教員からの案内にしたがうこと。 (2)調査票には第 1 希望から第 3 希望までを必ず記すこと。卒論テーマは原則第 1 希望から第 3 希望までの全てのゼミについて予定するものを記入し、それぞれのテーマについて以下の 3 点を具体的に記すこと。 ①中心的に扱う作品・言葉・資料等と、それらを扱おうと考えた経緯 ②考察の問題点 ③研究の方法と計画 希望者の数が定員を超過したゼミに関しては、「希望ゼミ調査票」を上記①～③の観点に注目して検討し、配属を決定する。なお、ゼミ配属後に卒業論文のテーマが「希望ゼミ調査票」の内容から変更されることは問題ない。 3、希望ゼミ調査(3 年次) (1)事前面談の条件 第 1 希望のみ必須（第 2・3 希望でも面談は可） (2)ゼミ説明について 東城ゼミを希望する学生は、マナバ・フォリオに通知する動画「ゼミ紹介：東城ゼミって何？」をご覧ください（4月にマナバ・フォリオにて掲示）。



卒業論文 [日付]		単位数		6単位	
授業コード	38050	科目ナンバリング	230B5-4000-o6	開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期
担当者氏名	中井 賢一				
時間割備考	4年次4月に登録すること。				
授業形態 (主)	2 演習				
授業形態 (副)					
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する(400字詰原稿用紙に換算して60枚以上)。					
●各ゼミ担当者より：					
①ゼミの進め方や特色 平安期を中心とする文学作品の諸問題について、先行研究を踏まえたとで独自の観点から分析し、卒業論文としてまとめる。 (4年)1・2期を通じ、週1回のゼミを実施する。ゼミは、発表(プレゼン)・質疑応答を軸とする。発表担当者は、資料作成を含め、入念な発表準備を行うこと。 (3年)2期のゼミへの出席を必須とする。(1期についても、配属決定後は、出席することが望ましい。)					
②ゼミ所属以降に満たす必要のある条件 (3年)(ゼミ所属決定以前も含め)「古代文学演習Ⅲ・Ⅳ」を履修することが望ましい。なお、本ゼミ所属を希望する者は、2～3年生中に、「古代文学講読Ⅲ」や「同Ⅳ」、「古代文学特講Ⅲ」や「同Ⅳ」など、中井担当の他科目についても、可能な限り、履修することが望ましい。					
③「希望ゼミ調査票」記載上の注意 「調査票」提出以前に、メール連絡の上、必ず面談に来ること(メール本文中に第1・第2・第3の希望順位を明示すること)。第1希望の者には、面談時に今後の準備事項について指示する。「調査票」は、下の「留意事項」欄に従い、正確に記載すること。					
④第2希望第3希望の場合の注意 「調査票」提出以前に、メール連絡の上、必ず面談に来ること(メール本文中に第2希望(第3希望)の旨を明示すること)。					
⑤その他 (3・4年)夏季休業中に「夏ゼミ」(2～3日程度)を実施する。					
アクティブラーニングの実施内容	調査学習				
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
4	上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	・1月に口頭試問を行なう。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。 「誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。」			1/2/3/4	
2	・論理性と実証性を備えた論文である。			1/2/3/4	
3	・研究論文としての独創性を備えている。			3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
●卒業論文に関するスケジュール					
【3年次】					
3月	卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション				
4月	卒論ゼミ交流会				
6月5日(月)～16日(金)	「希望ゼミ調査票」提出期間				
6月16日(金)	「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで マナバ・フォリオにて提出				
7月7日(金)	所属ゼミ発表 マナバ・フォリオに掲示				
【4年次】					
4月	履修登録				
5月12日(金)	「卒業論文提出届」締切 16:00まで 各指導教員に提出(メール添付)				
12月4日(月)～15日(金)	卒業論文提出期間				
12月15日(金)	卒業論文提出締切 13:30まで 教務係に提出				
1月	口頭試問				
2月1日(木)	要旨(清書版)提出締切 16:00まで マナバ・フォリオにて提出				
2月7日(水)	卒業論文(清書版)提出締切 16:00まで 学生合研に提出				
【卒業延期学生(9月卒業予定者)】					
5月12日(金)	「卒業論文提出届」締切 16:00まで 各指導教員に提出(メール添付)				
6月5日(月)～6月16日(金)	卒業論文提出期間				
6月16日(金)	卒業論文提出締切 13:30まで 教務係に提出				
《注意》感染症等の状況により、提出方法および締切には変更が生じることがある。卒業論文に関する変更等の連絡は教務委員がマナバ・フォリオを通じて行う。					

<b>定期試験</b> 1月に口頭試問を行なう。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 口頭試問において問題点等を指摘する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 卒業論文の進捗状況に応じて指導教員より指示する。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b>
<b>オフィスアワー</b> 金曜日5限目（1・2期）
<b>連絡先</b> k_nakai@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 1. ゼミについての注意点(3年次・4年次) (1)各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。家入ゼミ7名。山根道公ゼミ(キリスト教文化研究所)7名。 (2)所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。 (3)卒業論文に関する具体的な連絡事項はマナバ・フォリオにて伝える。 (4)提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。 (5)履修登録は、4年次第1期に行うこと。  2. 「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点(3年次) (1)「希望ゼミ調査票」提出までに必要な面談等の手続きは各ゼミで異なる。オリエンテーション時の説明およびシラバスの記載（下記3）、各ゼミ担当教員からの案内にしたがうこと。 (2)調査票には第1希望から第3希望までを必ず記すこと。卒論テーマは原則第1希望から第3希望までの全てのゼミについて予定するものを記入し、それぞれのテーマについて以下の3点を具体的に記すこと。 ①中心的に扱う作品・言葉・資料等と、それらを扱おうと考えた経緯 ②考察の問題点 ③研究の方法と計画 希望者の数が定員を超過したゼミに関しては、「希望ゼミ調査票」を上記①～③の観点に注目して検討し、配属を決定する。なお、ゼミ配属後に卒業論文のテーマが「希望ゼミ調査票」の内容から変更されることは問題ない。  3. 希望ゼミ調査（3年次） (1)事前面談の条件 ・第1希望＝必須。第2希望＝必須。第3希望＝必須。 (2)ゼミ説明について ・事前面談時に行う。

卒業論文 [日語]		単位数		6単位	
授業コード	38060	科目ナンバリング	230B5-4000-o6	開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期
担当者氏名	長原 しのぶ				
時間割備考	4年次4月に登録すること。				
授業形態 (主)	2 演習				
授業形態 (副)	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する(400字詰原稿用紙に換算して60枚以上)。					
●各ゼミ担当者より：					
① ゼミの進め方や特色 近代から現代に至る小説(サブカルチャーを含む)・詩・短歌・俳句に関する文学研究を主とする。 3年次は、選んだ作家と作品の情報を収集して問題点を見極め、先行研究を網羅的に集めて研究史を把握する作業を進めるなかで、研究テーマを決めていく。 4年次は、Ⅰ期では授業での発表を行い、夏休みには中間発表会での発表を行う。Ⅱ期は、授業での発表と個別の執筆作業を行って卒論の完成に至る。					
② ゼミ所属以降に満たす必要のある条件 近代文学講読(半期)と近代文学演習(半期)を履修することが望ましい。近代文学特講については、開講された授業内容が自らの卒業論文の作家・テーマ・ジャンルと重なる場合には履修することが望ましい。*「望ましい」であって必須ではない。					
③ 第2希望第3希望の場合の注意 とくになし(随時相談を受付ける)					
④その他 主体的、計画的に自分のテーマに取り組むこと。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)			
1	自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性			
2	4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力			
3	自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。	思考・判断・表現力/主体性			
4	上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力			
5					
成績評価の基準		対応する到達目標の番号			
1	1月に口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。 ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。	1/2/3/4			
2	・論理性と実証性を備えた論文である。	1/2/3/4			
3	・研究論文としての独創性を備えている。	3/4			
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
授業予定一覧					
●卒業論文に関するスケジュール					
【3年次】					
3月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション					
4月 卒論ゼミ交流会					
6月5日(月)～16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出期間					
6月16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで マナバ・フォリオにて提出					
7月7日(金) 所属ゼミ発表 マナバ・フォリオに掲示					
【4年次】					
4月 履修登録					
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 各指導教員に提出(メール添付)					
12月4日(月)～15日(金) 卒業論文提出期間					
12月15日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 教務係に提出					
1月 口頭試問					
2月1日(木) 要旨(清書版)提出締切 16:00まで マナバ・フォリオにて提出					
2月7日(水) 卒業論文(清書版)提出締切 16:00まで 学生合研に提出					
【卒業延期学生(9月卒業予定者)】					
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 各指導教員に提出(メール添付)					
6月5日(月)～16日(金) 卒業論文提出期間					
6月17日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 教務係に提出					
《注意》感染症等の状況により、提出方法および締切には変更が生じることがある。卒業論文に関する変更等の連絡はマナバ・フォリオを通じて行う。					

<b>定期試験</b> 1月に口頭試問を行なう。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 口頭試問において問題点等を指摘する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b>  
<b>必携書（教科書販売）</b>  
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b>  
<b>オフィスアワー</b> 第Ⅰ期：水曜 3時限 第Ⅱ期：火曜 4時限
<b>連絡先</b> （長原）nagahara@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 1、ゼミについての注意点(3年次・4年次) (1)各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。家入ゼミ7名。山根道公ゼミ(キリスト教文化研究所)7名。 (2)所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。 (3)卒業論文に関する具体的な連絡事項はマナバ・フォリオにて伝える。 (4)提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。 (5)履修登録は、4年次第1期に行うこと。  2、「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点(3年次) (1)「希望ゼミ調査票」提出までに必要な面談等の手続きは各ゼミで異なる。オリエンテーション時の説明およびシラバスの記載（下記3）、各ゼミ担当教員からの案内にしたがうこと。 (2)調査票には第1希望から第3希望までを必ず記すこと。卒論テーマは原則第1希望から第3希望までの全てのゼミについて予定するものを記入し、それぞれのテーマについて以下の3点を具体的に記すこと。 ①中心的に扱う作品・言葉・資料等と、それらを扱おうと考えた経緯 ②考察の問題点 ③研究の方法と計画 希望者の数が定員を超過したゼミに関しては、「希望ゼミ調査票」を上記①～③の観点に注目して検討し、配属を決定する。なお、ゼミ配属後に卒業論文のテーマが「希望ゼミ調査票」の内容から変更されることは問題ない。  3、希望ゼミ調査（3年次） (1)事前面談の条件 第1希望：面談は任意 第2希望：面談は任意 第3希望：面談は任意 (2)ゼミ説明について ゼミ説明の詳細はファイル添付資料「【資料】ゼミ紹介（長原）23」を参照

卒業論文 [日h]				単位数	6単位
授業コード	38070	科目ナンバリング	230B5-4000-o6	開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期
担当者氏名	星野 佳之				
時間割備考	4年次4月に登録すること。				
授業形態 (主)	2 演習				
授業形態 (副)					
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する(400字詰原稿用紙に換算して60枚以上)。					
①ゼミの進め方や特色 週一回程度、全てのゼミ生を交えて論文指導を行う。					
②ゼミ所属以降に満たす必要のある条件 必要な専門科目(特講・講読・演習)を履修せよ。					
③第2希望第3希望の場合の注意 特になし。					
④その他 特になし。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。			知識・技能/主体性	
4	上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	1月に口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。 ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。			1/2/3/4	
2	・論理性と実証性を備えた論文である。			1/2/3/4	
3	・研究論文としての独創性を備えている。			3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
●卒業論文に関するスケジュール					
【3年次】					
3月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション					
4月 卒論ゼミ交流会					
6月5日(月)～16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出期間					
6月16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで マナバ・フォリオにて提出					
7月7日(金) 所属ゼミ発表 マナバ・フォリオに掲示					
【4年次】					
4月 履修登録					
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 各指導教員に提出(メール添付)					
12月4日(月)～15日(金) 卒業論文提出期間					
12月15日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 教務係に提出					
1月 口頭試問					
2月1日(木) 要旨(清書版)提出締切 16:00まで マナバ・フォリオにて提出					
7日(水) 卒業論文(清書版)提出締切 16:00まで 学生合研に提出					
【卒業延期学生(9月卒業予定者)】					
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 各指導教員に提出(メール添付)					
6月5日(月)～6月16日(金) 卒業論文提出期間					
6月16日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 教務係に提出					
《注意》感染症等の状況により、提出方法および締切には変更が生じることがある。卒業論文に関する変更等の連絡はマナバ・フォリオを通じて行う。					

<p>定期試験</p> <p>1月に口頭試問を行なう。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>口頭試問において問題点等を指摘する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>火曜3限。 来室の際は以下のメールアドレスにてアポイントをとること。</p>
<p>連絡先</p> <p>hoshino_yoshiyuki@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>1、ゼミについての注意点(3年次・4年次)</p> <p>(1)各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。家入ゼミ7名。山根道公ゼミ(キリスト教文化研究所)7名。</p> <p>(2)所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。</p> <p>(3)卒業論文に関する具体的な連絡事項はマナバ・フォリオにて伝える。</p> <p>(4)提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。</p> <p>(5)履修登録は、4年次第1期に行うこと。</p> <p>2、「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点(3年次)</p> <p>(1)「希望ゼミ調査票」提出までに必要な面談等の手続きは各ゼミで異なる。オリエンテーション時の説明およびシラバスの記載（下記3）、各ゼミ担当教員からの案内にしたがうこと。</p> <p>(2)調査票には第1希望から第3希望までを必ず記すこと。卒論テーマは原則第1希望から第3希望までの全てのゼミについて予定するものを記入し、それぞれのテーマについて以下の3点を具体的に記すこと。</p> <p>①中心的に扱う作品・言葉・資料等と、それらを扱おうと考えた経緯</p> <p>②考察の問題点</p> <p>③研究の方法と計画</p> <p>希望者の数が定員を超過したゼミに関しては、「希望ゼミ調査票」を上記①～③の観点に注目して検討し、配属を決定する。なお、ゼミ配属後に卒業論文のテーマが「希望ゼミ調査票」の内容から変更されることは問題ない。</p> <p>3、希望ゼミ調査(3年次)</p> <p>(1)事前面談の条件</p> <p>第1～3希望の別に拘わらず、面談必須。</p>

卒業論文 [日]		単位数		6単位	
授業コード	38080	科目ナンバリング	230B5-4000-o6	開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期
担当者氏名	山根 知子				
時間割備考	4年次4月に登録すること。				
授業形態 (主)	2 演習				
授業形態 (副)					
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する(400字詰原稿用紙に換算して60枚以上)。					
●各ゼミ担当者より：					
① ゼミの進め方や特色 近代から現代に至る小説・児童文学・詩・短歌・俳句に関する研究を主な対象とする。 3年次では、選んだ作家の全作品を読破した研究ノートを作成し、作家情報を収集して問題点を見極め、先行研究を網羅的に集めて読み研究史を把握する作業を進めるなかで、段階的研究を積み上げる。 4年次では、毎週2コマのゼミを行う。前期では授業での発表を行い、夏休みには中間発表会での発表を行う。中間発表後は、毎週決めた目次の箇所を執筆して完成に至る。					
② ゼミ所属以降に満たす必要のある条件 近代文学講読と、近代文学演習を履修することが望ましい。近代文学特講については、開講された授業内容が自らの卒業論文の作家・テーマ・ジャンルと重なる場合には履修することが望ましい。					
③ 「希望ゼミ調査票」記載上の注意 研究対象とする作家や作品、研究テーマ、ねらい、分析方法など、現時点で考えている研究の方針(迷っている場合には幾通りかの候補)をできるだけ具体的に記載すること。					
④ 第2希望第3希望の場合の注意 第1希望はもちろん第2希望第3希望の場合もすべて、面談日時についてメールで事前予約をしたうえで、必ず面談を行なうこと。					
⑤ その他 積極的な心構えを持って主体的、計画的に毎週の課題に取り組むこと。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
4	上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	1月に口頭試問を行う。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。 ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。			1/2/3/4	
2	・論理性と実証性を備えた論文である。			1/2/3/4	
3	・研究論文としての獨創性を備えている。			3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
授業予定一覧					
●卒業論文に関するスケジュール					
【3年次】					
3月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション					
4月 卒論ゼミ交流会					
6月5日(月)～16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出期間					
6月16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで マナバ・フォリオにて提出					
7月7日(金) 所属ゼミ発表 マナバ・フォリオに掲示					
【4年次】					
4月 履修登録					
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 各指導教員に提出(メール添付)					
12月4日(月)～15日(金) 卒業論文提出期間					
12月15日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 教務係に提出					
1月 口頭試問					
2月1日(木) 要旨(清書版)提出締切 16:00まで マナバ・フォリオにて提出					
7日(水) 卒業論文(清書版)提出締切 16:00まで 学生合研に提出					
【卒業延期学生(9月卒業予定者)】					
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 各指導教員に提出(メール添付)					
6月5日(月)～6月16日(金) 卒業論文提出期間					
6月16日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 教務係に提出					
《注意》感染症等の状況により、提出方法および締切には変更が生じることがある。卒業論文に関する変更等の連絡はマナバ・フォリオを通じて行う。					

<p><b>定期試験</b> 1月に口頭試問を行なう。</p>
<p><b>試験のフィードバックの方法</b> 口頭試問において問題点等を指摘する。</p>
<p><b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b></p>
<p><b>必携書（教科書販売）</b></p>
<p><b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b></p>
<p><b>オフィスアワー</b> 水曜日5時限。随時メールでも質問に応じる。</p>
<p><b>連絡先</b> t-yamane@m.ndsu.ac.jp</p>
<p><b>留意事項</b> 1、ゼミについての注意点(3年次・4年次) (1)各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。家入ゼミ7名。山根道公ゼミ(キリスト教文化研究所)7名。 (2)所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。 (3)卒業論文に関する具体的な連絡事項はマナバ・フォリオにて伝える。 (4)提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。 (5)履修登録は、4年次第1期に行うこと。  2、「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点(3年次) (1)「希望ゼミ調査票」提出までに必要な面談等の手続きは各ゼミで異なる。オリエンテーション時の説明およびシラバスの記載（下記3）、各ゼミ担当教員からの案内にしたがうこと。 (2)調査票には第1希望から第3希望までを必ず記すこと。卒論テーマは原則第1希望から第3希望までの全てのゼミについて予定するものを記入し、それぞれのテーマについて以下の3点を具体的に記すこと。 ①中心的に扱う作品・言葉・資料等と、それらを扱おうと考えた経緯 ②考察の問題点 ③研究の方法と計画 希望者の数が定員を超過したゼミに関しては、「希望ゼミ調査票」を上記①～③の観点に注目して検討し、配属を決定する。なお、ゼミ配属後に卒業論文のテーマが「希望ゼミ調査票」の内容から変更されることは問題ない。  3、希望ゼミ調査(3年次) (1)事前面談の条件 *第1～3希望それぞれ、面談は必須とする。必要な時期に各自からメールによる予約をした上で、計画的に面談を行なうこと。 (2)ゼミ説明について *面談時に各個人に対して説明を行なう。</p>



卒業論文 [日]				単位数	6単位
授業コード	38090	科目ナンバリング	230B5-4000-o6	開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期
担当者氏名	山根 道公				
時間割備考	4年次4月に登録すること。				
授業形態 (主)	2 演習				
授業形態 (副)					
担当形態	単独				
研究分野 (大学院)					
本授業の概要					
大学における4年間の学業生活の最終的な成果として、日本文学・日本語学・言語文化の諸専門領域の中からテーマを発見し、担当教員の指導のもと、論文を作成する(400字詰原稿用紙に換算して60枚以上)。					
●各ゼミ担当者より：					
①ゼミの進め方や特色 日本の近・現代文学でキリスト教と接点のある作家あるいは作品に関する研究を主に対象とする。 週1回、ゼミを行う。夏休みに中間発表会を行う。					
②ゼミ所属以降に満たす必要のある条件 キリスト教文化研究所開講科目の「キリスト教文学特講」「キリスト教文学演習」を履修していない場合は4年次で履修することが望ましい。					
③「希望ゼミ調査票」記載上の注意 現時点で考えていることを、迷っていることも含めてできるだけ書くこと。					
④第2希望・第3希望の場合の注意 第1希望の場合も、第2希望・第3希望の場合も、必ず事前に相談にくること。					
⑤その他 日本の近・現代文学でキリスト教と接点のある作家・作品は多いので、迷ったり、不明な点のある学生は事前に相談にくること。					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	自らの関心に従ってテーマを発見し、先行の研究論文や様々な文献を読み込んだ上で、問題を設定することができる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性			
2	4年間の学びの中で修得した知識と研究方法に基づき、具体的な資料の調査や分析を行うことができる。	知識・技能/思考・判断・表現力			
3	自らが設定した問題に対して、論理的かつ実証的に結論を導き、新たな知見を提示することができる。	思考・判断・表現力/主体性			
4	上記の思考と論証のプロセスを論文として執筆し、他者に対して正確に伝えることができる。	知識・技能/思考・判断・表現力			
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	1月に口頭試問を行なう。口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査を務める。 口頭試問を踏まえ、以下の観点に基づいて評価する。 ・誠実かつ意欲的な研究態度をもって研究に取り組み、論文を作成している。	1/2/3/4			
2	・論理性と実証性を備えた論文である。	1/2/3/4			
3	・研究論文としての独創性を備えている。	3/4			
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
●卒業論文に関するスケジュール					
【3年次】					
3月 卒業論文に関する説明 於 学科オリエンテーション					
4月 卒論ゼミ交流会					
6月5日(月)～16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出期間					
6月16日(金) 「希望ゼミ調査票」提出締切 16:00まで マナバ・フォリオにて提出					
7月7日(金) 所属ゼミ発表 マナバ・フォリオに掲示					
【4年次】					
4月 履修登録					
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 各指導教員に提出(メール添付)					
12月4日(月)～15日(金) 卒業論文提出期間					
12月15日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 教務係に提出					
1月 口頭試問					
2月1日(木) 要旨(清書版)提出締切 16:00まで マナバ・フォリオにて提出					
7日(水) 卒業論文(清書版)提出締切 16:00まで 学生合研に提出					
【卒業延期学生(9月卒業予定者)】					
5月12日(金) 「卒業論文提出届」締切 16:00まで 各指導教員に提出(メール添付)					
6月5日(月)～6月16日(金) 卒業論文提出期間					
6月16日(金) 卒業論文提出締切 13:30まで 教務係に提出					
《注意》感染症等の状況により、提出方法および締切には変更が生じることがある。卒業論文に関する変更等の連絡はマナバ・フォリオを通じて行う。					

<b>定期試験</b> 1月に口頭試問を行なう。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 口頭試問において問題点等を指摘する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b>  
<b>必携書（教科書販売）</b>  
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b>  
<b>オフィスアワー</b> 金曜日 12:30-13:00。相談等はメールで随時受け付ける。
<b>連絡先</b> yamane@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 1、ゼミについての注意点(3年次・4年次) (1)各ゼミの定員は以下の通り。学科教員10名。家入ゼミ7名。山根道公ゼミ(キリスト教文化研究所)7名。 (2)所属ゼミ決定時より、指導教員がアドバイザーとなる。 (3)卒業論文に関する具体的な連絡事項はマナバ・フォリオにて伝える。 (4)提出書類の書式は、マナバ・フォリオに掲載する。 (5)履修登録は、4年次第1期に行うこと。  2、「希望ゼミ調査票」提出に際しての注意点(3年次) (1)「希望ゼミ調査票」提出までに必要な面談等の手続きは各ゼミで異なる。オリエンテーション時の説明およびシラバスの記載（下記3）、各ゼミ担当教員からの案内にしたがうこと。 (2)調査票には第1希望から第3希望までを必ず記すこと。卒論テーマは原則第1希望から第3希望までの全てのゼミについて予定するものを記入し、それぞれのテーマについて以下の3点を具体的に記すこと。 ①中心的に扱う作品・言葉・資料等と、それらを扱おうと考えた経緯 ②考察の問題点 ③研究の方法と計画 希望者の数が定員を超過したゼミに関しては、「希望ゼミ調査票」を上記①～③の観点に注目して検討し、配属を決定する。なお、ゼミ配属後に卒業論文のテーマが「希望ゼミ調査票」の内容から変更されることは問題ない。  3、希望ゼミ調査(3年次) (1)事前面談の条件 * 第1～3希望それぞれ、面談は必須。 (2)ゼミ説明について * 面談において個別に説明。